論語

（朱熹以外の人と、朱熹は、「論語」の章の分け方が違うため、章の数が違います。）

学而第一

学而第一 第一章

子、曰。「学、而、時、習、之(これ)、不、亦、説(よろこばしい)、乎(や)？ 有、朋(とも)、自(より)、遠方、来、不、亦、楽、乎？ 人、不、知、而、不、慍(うらむ)、不、亦、君子、乎？」

孔子先生は言った。「学んで、時に、それを実践して習ってみるのは、喜ばしい！ 友がいて遠方から来てくれるのは、楽しい！ 他人に知ってもらえなくても怨(うら)まないのは、王者である！」

学而第一 第二章

有子(=有若)、曰。「其(その)、為人(ひととなり)、也(なる)、孝弟、而、好、犯、上、者(もの)、鮮(すくない)、矣。不、好、犯、上、而、好、作、乱、者(もの)、未、之(これ)、有、也。君子、務、本(もと)。本(もと)、立、而、道、生。孝弟、也(なる)、者(もの)、其(それ)、為(なる)、仁之本、歟(か)?」

孔子先生の弟子である、有若先生は言った。「その人となりが『孝弟』、『親孝行で目上の人々に従順』であって、上のものを犯すのを好む者は、少ない。上のものを犯すのを好まなくて、乱をなすのを好む者、このようなものは未だいない。王者は根本を務める。根本が確立して道理が生じる。孝弟である者は『仁』、『思いやり』の本(もと)である!」

学而第一 第三章

子、曰。「巧言、令色、鮮(すくない)、矣、仁」

孔子先生は言った。「言葉が巧妙で、見た目が立派なもので、『仁』、『思いやり』があるものは少ない」(、「うわべだけの人は思いやりが少ない」。)

学而第一　第四章

曾子、曰。「吾、日、三省、吾身。為、人、謀、而、不忠、乎？　与、朋友、交、而、不信、乎？　伝、不習、乎？」

孔子先生の弟子である、曾子先生は言った。「私は一日に自身を三回は反省する。人のために計らって忠実、ではないことはなかったか？　友と交流し『信』、『誠実』、ではないことはなかったか？　(師から)習っていないことを(弟子に)伝えなかったか？」

学而第一　第五章

子、曰。「道（みちびく）、千乗之国、敬（つつしむ）、事、而、信。節、用、而、愛、人。使（つかう）、民、以、時」

孔子先生は言った。「千台の戦車がある諸侯の大国を導くには、私事を慎んで『信』、『誠実』にする。(費用を、または、労役に、)用いるのを節制して人々を愛する。国民を使役（しえき）するには時期をかんがえる」

学而第一 第六章

子、曰。「弟子、入、則、孝。出、則、弟。謹、而、信。汎、愛、衆、而、親、仁。行、有、余力、則、以、学、文」

孔子先生は言った。「『弟子』、『年下の人達』は、家に入っていたら親孝行である(べきである)。家から出たら身をつつしんで『信』、『誠実』である(べきである)。広く人々を愛して『仁』、『思いやり』を親しみ行う(べきである)。行っていて余力が有ったら文書を読んで学ぶ(べきである)」

学而第一 第七章

子夏、曰。「賢、賢、易、色。事、父母、能、竭、其力。事、君、能、致、其身。与、朋友、交、言、而、有、信、雖、曰、未、学、吾、必、謂、之、学、矣」

孔子の弟子である、子夏は言った。「賢者を賢者として顔色をひきしめて変える。父母に仕えて自分の力を尽くす。君主に仕えて自分の身を善く処する。友と交流していて言葉に『信』、『誠実さ』が有れば、『未だ学ぶべきことがある』と言っていても、私(、子夏)は、このようなものを『学が有る者である』と必ず言う」

学而第一　第八章

子、曰。「君子、不、重、則、不、威。学、則（すなわち）、不、固。主、忠信。無（なかれ）、友、不如、己、者（もの）。過（あやまる）、則（すなわち）、勿（なかれ）、憚（はばかる）、改」

孔子先生は言った。「王者は、慎重でなければ威厳がなくなってしまう。学べば頑固でなくなる。自己よりも劣悪な者を友とするなかれ。過（あやま）ちをおかしたら改めるのをはばかる事なかれ」

学而第一 第九章

曾子、曰。「慎、終、追、遠、民、徳、帰、厚、矣」

曾子先生は言った。「(王者が、)父母の人生の終わりの葬儀を慎んで行い、遠い先祖の葬儀を慎んで行う事を追求していけば、国民も『徳』、『善行』を厚くする本来の状態に帰る」

学而第一 第十章

子禽、問、於、子貢、曰。「夫子、至、於、是(この)邦、也、必、聞、其(その)政。求、之(これ)、与(か)？ 抑(そもそも)、与(あずかる)、之(これ)、与(か)？」

子貢、曰。「夫子、温、良、恭、倹、譲、以、得、之(これ)。夫子、之(の)、求、之(これ)、也、其(それ)、諸(これ)、異、乎、人、之(の)、求、之(これ)、与(か)」

孔子の弟子である、子禽は子貢に質問して言った。「孔子先生が国に到来すると、必ず、その国の政治について聞かれることになる。これは(孔子先生が)求めたからなのか？ それとも、これは(孔子先生が)あずかっただけなのか？」

孔子の弟子である、子貢は言った。「孔子先生は温厚で、善良で、うやうやしく、つつましく、謙虚で譲るので、この事を得るのである。孔子先生の、このことを求める方法は、他人の、このことを求める方法と異なるのである」

学而第一 第十一章

子、曰。「父、在、観、其（その）志、父、没、観、其（その）行。三年、無（ない）、改、於、父之道、可、謂、孝、矣」

孔子 先生は言った。「父がいるときは、その志を観る。父が死没したら、その行いを観る。三年間、父のやり方を改変しなければ、親孝行と言える」

学而第一 第十二章

有子(＝有若)、曰。「礼、之(の)、用、和、為(なす)、貴。先王之道、斯(これ)、為(なす)、美。小大、由(よる)、之(これ)、有、所、不、行。知、和、而、和、不、以、礼、節、之(これ)、亦、不、可、行、也」

有若 先生は言った。「礼儀を用いるには、和合を『貴しと為す』、『尊重する』。過去の聖王の道理でも、これ(、和合)を美と為す。(しかし、)大小さまざまな礼儀をこれ(、和合)によって行おうとしても、(礼儀が)行われない所が有ってしまう。和合を知っていて和合しようとしても、礼儀によって、これ(、和合)に節度をもたせなければ、また、(礼儀が)行われないであろう」

学而第一 第十三章

有子(＝有若)、曰。「信、近、於、義、言、可、復(ふむ)、也。恭、近、於、礼、遠、恥辱、也。因(よる)、不、失(しっぱいする)、其親(そのしたしむ)、亦、可、宗(たっとぶ)、也」

有若 先生は言った。「『信』、『誠実さ』が正義に近いならば、言葉を履行できるであろう。恭(うやうや)しさが礼儀に近いならば、恥辱から遠ざかれるであろう。頼るときに、その親しみ頼る相手を失敗していないならば、頼る相手を尊敬できるであろう」

学而第一　第十四章

子、曰。「君子、食、無（ない）、求、飽。居、無（ない）、求、安。敏、於、事（こと）、而、慎、於、言。就、有道、而、正、焉。可、謂、好、学、也、已（のみ）」

孔子 先生は言った。「王者は、飽食を求める事が無い。住居の安楽を求める事が無い。事情に鋭敏であるが、言葉を慎む。道理が有るものの側（がわ）に付いて正す。『学を好んでいる』と言うべきであるのみである」

学而第一 第十五章

子貢、曰。「貧、而、無(ない)、諂(へつらう)。富、而、無(ない)、驕(おごる)。何如(いかん)?」

子、曰。「可、也。未、若(しく)、貧、而、楽、富、而、好、礼、者(もの)、也」

子貢、曰。「詩、云、『如、切。如、磋。如、琢。如、磨』。其(それ)、斯之(これの)謂、与(か)?」

子、曰。「賜(=子貢)、也(や)。始(はじめて)、可、与(ともに)、言、詩、已(のみ)、矣。告、諸(これ)、往、而、知、来、者(もの)」

子貢は言った。「貧しくても、へつらう事が無い。富んでも、驕(おご)る事が無い。どうでしょうか?」

孔子先生は言った。「よろしい。(しかし、)貧しくても楽しむし、富んでも礼儀を好む者には未だ及ばない」

子貢は言った。「詩で言われている、『切り込むように、大まかに磨くように、ノミで打って整えて磨くように、詳細に磨くように(、切磋琢磨する)』とは、その事を言っているのでしょうか?」

孔子 先生は言った。「子貢よ。初めて、共に詩について語る事ができるね。

(子貢は、)最初を告げれば、最後まで知る者である」

学而第一 第十六章

子、曰。「不、患、人之、不、己、知、患、不、知、人、也」

孔子 先生は言った。「他人が自分を知ってくれないのは憂えず、(自分が)他人を知らないのを憂う」

為政第二

為政第二第一章

子、曰。「為(なす)、政、以、徳、譬、如、北辰、居、其(その)所、而、衆星、共(ともにする)、之(これ)」

孔子先生は言った。「『徳』、『善行』をもって政治を為(な)せば、例えば、『北辰』、『北極星』が、その場所にとどまっていても、星々が、この北極星と共にい(て北極星を中心にまわ)るような物なのである」

為政第二第二章

子、曰。「詩、三百。一言、以、蔽、之、曰、思、無、邪」

孔子先生は言った。「『詩経』の詩の数は約三百である。この『詩経』を、全てを覆うように、一言で言うと、『詩経』の詩の思いには邪悪なものは無いのである」

為政第二第三章

子、曰。「道（みちびく）、之（これ）、以、政、斉（ととのえる）、之（これ）、以、刑、民、免、而、無（ない）、恥。
道（みちびく）、之（これ）、以、徳、斉（ととのえる）、之（これ）、以、礼、有、恥、且（かつ）、格（ただす）」

孔子先生は言った。「これらの国民を、政治(による法律)によって導こうとして刑罰によって(国民の心や言動を正しく)調整しようとすると、国民は刑罰を免れようとして、かつ、恥じない。これらの国民を、『徳』、『善行』によって導いて礼儀によって調整すると、礼儀から外れると恥じる思いが有るし、かつ、正そうとする」

為政第二第四章

子、曰。「吾（われ）、十有五、而、志、於、学。三十、而、立。四十、而、不惑。五十、而、知、天命。六十、而、耳、順（したがう）。七十、而、従（したがう）、心、所、欲（ほっする）、不、踰（こえる）、矩（のり）」

孔子 先生は言った。「私(、孔子)は、十五歳で学を志した。三十歳で(学を)確立した。四十歳で(心が)惑わないようになった。五十歳で『天命』、『神からの使命』を知った。六十歳で他人からの助言に耳を傾けて聞き入れて従うことができるようになった。七十歳で心の欲する所に従っても法を超えて違反しなくなった」

為政第二第五章

孟懿子、問、孝。

子、曰。「無、違」

樊遅、御。

子、告、之、曰。「孟孫(＝孟懿子)、問、孝、於、我。我、対、曰。『無、違』」

樊遅、曰。「何、謂、也?」

子、曰。「生、事、之、以、礼。死、葬、之、以、礼。祭、之、以、礼」

孟懿子が孔子先生に親孝行について質問した。

孔子先生は言った。「(親孝行とは、)違えないことである」

その時、樊遅が御者をしていた。

孔子先生は、この樊遅に告げて言った。「孟懿子が私（、孔子）に親孝行について質問しました。私（、孔子）は答えて言いました。『（親孝行とは、）違えないことである』と」

樊遅は言った。「どのような意味で言ったのですか？」

孔子先生は言った。「（親孝行とは、）父母が生きていれば、礼儀をもって父母に仕えることである。父母が死んでしまわれたら、礼儀をもって父母を葬ることである。父母の死後は、礼儀をもって父母を祭ることである」

為政第二第六章

孟武伯、問、孝。

子、曰。「父母、唯、其疾（そのやまい）、之（これ）、憂」

孟武伯が孔子 先生に親孝行について質問した。

孔子 先生は言った。「(親孝行の心とは、)父母について、ただ、病気になってしまわれることを憂うような物なのである」

為政第二第七章

子游、問、孝。

子、曰。「今之、孝、者、是、謂、能、養。至、於、犬、馬、皆、能、有、養。不、敬、何、以、別、乎?」

子游が孔子 先生に親孝行について質問した。

孔子 先生は言った。「今の人々が(誤って)言っている親孝行とは、父母をよく養うことである。(しかし、)犬や馬に至るまでも、よく養うことが有る。(父母を)敬わなければ、どうして(家畜などと)区別できるであろうか? いいえ! 父母を敬わなければ、家畜などと区別できない!」

為政第二第八章

子夏、問、孝。

子、曰。「色、難。有、事、弟子、服、其労。有、酒、食、先生、饌。曾、是、以、為、孝、乎」

子夏が孔子 先生に「孝」、「年上の人達を敬う事」について質問した。

孔子 先生は言った。「(敬っている)顔色(を正しくすること)が難しい。何か、事が有れば、『弟子』、『年下の人達』は、その労に服す。酒といった飲み物や食べ物が有れば、『先生』、『年上の人達』に先に勧める。このようにすることを『孝』、『年上の人達を敬う事』としようかな」

為政第二第九章

子、曰。「吾、与、回(=顔回)、言、終日、不、違、如、愚。退、而、省、其私、亦、足、以、発。回(=顔回)、也、不、愚」

孔子先生は言った。「私(、孔子)が顔回と終日、話していても、愚かであるかのように、(顔回は、私、孔子と)違ったことを言わない。(顔回が)退席してから、その(顔回の)私的なときを(私、孔子が)詳細に見てみると、(私、孔子が、)また、さらなる、あたらしい言葉を発するのに足りる(ほど十分に顔回は私、孔子の今までの言葉通りに行動できている)。顔回は愚かではない」

為政第二第十章

子、曰。「視、其(その)、所、以(もちいる)、観、其(その)、所、由(よる)、察、其(その)、所、安、人、焉(どうして)、廋(かくす)、哉？　人、焉(どうして)、廋(かくす)、哉？」

孔子 先生は言った。「その人が用いる手段を視れば、その人が頼っているものを観察すれば、その人が安んじている所(、境地)を観察すれば、どうして人は自身について隠せるであろうか？　いいえ！　隠せない！」

為政第二第十一章

子、曰。「温(たずねる)、故(ふるい)、而、知、新、可、以、為(なる)、師、矣」

孔子先生は言った。「過去のものごとを尋ねて知って、新しいものごとも知れば、教師と成ることが可能であろうかな」

為政第二第十二章

子、曰。「君子、不、器」

孔子先生は言った。「王者とは器ではない」

為政第二第十三章

子貢、問、君子。

子、曰。「先、行、其言、而、後、従、之」

子貢が孔子先生に王者について質問した。

孔子先生は言った。「まず先に行動して、その行動についての言葉を、後に、その行動の通りに言う(べきである)」(、「していない事や、できていない事を言って約束するなかれ」。)

為政第二第十四章

子、曰。「君子、周、而、不、比。小人、比、而、不、周」

孔子先生は言った。「王者は、周りをよく見るが、自分と比べない。矮小（わいしょう）な人は、自分と比べるが、周りをよく見ない」

為政第二第十五章

子、曰。「学、而、不、思、則(すなわち)、罔(おろか)。思、而、不、学、則(すなわち)、殆(あやうい)」

孔子先生は言った。「学んで、思うところがなければ、愚かである。思うところがあっても、学ばなければ、あやうい（、破滅は近い）」

為政第二第十六章

子、曰。「攻(まなぶ)、乎、異端、斯(これ)、害、也、已(のみ)」

孔子 先生は言った。「異端の教えを学ぶのは害悪しかない」（、「正統な教えを学びなさい」。）

為政第二第十七章

子、曰。「由(=子路)、誨(おしえる)、女(なんじ)、知、之(これ)、乎。知、之(これ)、為(なす)、知、之(これ)。不、知、為(なす)、不、知。是、知、也」

孔子先生は言った。「子路よ、あなたに『知っている』ということについて教えます。それについて知っていれば、『それについて知っている』とするのである。知らないものごとについては、『知らない』とするのである。これが『知っている』ということなのである」(、「知らない物事について知っているふりをするなかれ」。)

為政第二第十八章

子張、学、干(もとめる)、禄(給料)。

子、曰。「多、聞、闕(のぞく)、疑。慎、言、其(その)余。則(すなわち)、寡(すくない)、尤(とがめ)。多、見、闕(のぞく)、殆(あやうい)。慎、行、其(その)余。則(すなわち)、寡(すくない)、悔。言、寡(すくない)、尤(とがめ)、行、寡(すくない)、悔、禄(給料)、在、其(その)中、矣」

子張が孔子 先生に役人としての給料を得る事を求める方法について(質問して)学ぼうとした。

孔子 先生は言った。「多くの情報を聞いて、疑わしい情報を除く(べきである)。慎重に、その残りの信頼できそうな情報を言う(べきである)。そうすれば、非難される事は少ないであろう。多くの情報を読んで見て、疑わしい情報を除く(べきである)。慎重に、その残りの信頼できそうな情報の通りに行う(べきである)。そうすれば、後悔する事は少ないであろう。発言しても非難される事が少なければ、行動しても後悔する事が少なければ、そうして行動していく中で、役人としての給料をもらえるように成ることが在るかな」

為政第二第十九章

哀公、問、曰。「何、為、則、民、服?」

孔子、対、曰。「挙、直、錯、諸、枉、則、民、服。挙、枉、錯、諸、直、則、民、不、服」

哀公が孔子 先生に質問して言った。「どうすれば国民は命令に服してくれますか?」

孔子 先生は答えて言った。「正直な人達を(上位に)挙げて(良い報いを与えて)、諸々の心がねじ曲がっている者どもを(下位に)放置すれば、国民は命令に服してくれます。心がねじ曲がっている者どもを(上位に)挙げて(良い報いを与えて)、諸々の正直な人達を(下位に)放置すれば、国民は命令に服従してくれません」

為政第二第二十章

季康子、問。「使(させる)、民、敬、忠、以、勧(はげむ)、如之何(これ、いかん)?」

子、曰。「臨、之(これ)、以、荘、則(すなわち)、敬。孝、慈、則(すなわち)、忠。挙(あげる)、善、而、教、不能、則(すなわち)、勧(はげむ)」

季康子が孔子 先生に質問した。「国民に敬意と、『忠実さ』、『誠実さ』をもたせて労働にはげまさせるように教え導くには、どうすればよいでしょうか?」

孔子 先生は言った。「慎重に国民に臨めば、国民は敬ってくれます。年上の国民達を敬い、国民達を慈(いつく)しんで思いやれば、国民は忠誠を誓ってくれます。善人達を(上位に)挙げて(良い報いを与えて)、非才な人にも教えてあげれば、はげんでくれます」

為政第二第二十一章

或、謂、孔子、曰。「子、奚、不、為、政？」

子、曰。「書、云、『孝、乎、惟、孝、友、於、兄弟。施、於、有政』。是、亦、為、政。奚、其、為、為政？」

ある人が孔子 先生に言った。「あなた(、孔子 先生)は、どうして政治をしないのか？」

孔子 先生は言った。「『書経』では言われています。『友や兄弟を敬う事も、孝なのであり、政治に役立っている』と。友や兄弟を敬う事も、政治をしている事に成るのです。どうして、わざわざ別に、政治をする必要が有るでしょうか？」

為政第二第二十二章

子、曰。「人、而、無（ない）、信、不、知、其（その）、可、也。大車、無（ない）、輗、小車、無（ない）、軏、其（それ）、何、以、行、之（これ）、哉？」

孔子 先生は言った。「人に『信』、『誠実さ』が無ければ、どうしたら、その人を『善（よ）い』とできるのか、わからないほどである。(例えば、)大小さまざまの車といえども、動力源との連結具が無ければ、どうして前に進んで行くことができるであろうか？（人に誠実さが無いのは、車に動力源との連結具が無いような事なのである)」

為政第二第二十三章

子張、問。「十世、可、知、也？」

子、曰。「殷、因（よる）、於、夏、礼。所、損益、可、知、也。周、因（よる）、於、殷、礼。所、損益、可、知、也。其（それ）、或（あるいは）、継、周、者（もの）、雖（いえども）、百世、可、知、也」

子張が孔子 先生に質問した。「十代前の過去の事を知ることは可能でしょうか？」

孔子 先生は言った。「殷王朝の礼儀は夏王朝の礼儀による物である。増減した箇所を知ることが可能である。周王朝の礼儀は殷王朝の礼儀による物である。増減した箇所を知ることが可能である。そのため、周王朝を継ぐ者は、百代前の過去の事といえども知ることが可能である」

為政第二第二十四章

子、曰。「非、其(その)鬼、而、祭、之(これ)、諂(へつらう)、也。見、義、不、為(なす)、無(ない)、勇、也」

孔子先生は言った。「その人の先祖の霊ではないのに、先祖ではない霊を祭るのは、へつらっているのである。正義である物事を見て知っているのに、正義を実践しないのは、勇気が無いのである（。臆病者である）」

八佾第三

八佾第三第一章

孔子、謂、季氏。「『八佾』、舞、於、庭。是（これ）、可、忍、也、孰（どれを）、不、可、忍、也？」

孔子先生は季氏について言った。「(季氏が)『八佾』、『天子だけの舞である、六十四人による八列の舞』を庭で舞（ま）わせた。この(天子に対する)無礼を忍耐できるというのであれば、どの無礼を忍耐できない事があろうか？忍耐してはいけない無礼である！」

八佾第三第二章

三家、者(は)、以、「雍(詩経周頌雝篇)」、徹(撤饌)。

子、曰。「『相(たすける)、維(これ)、辟公(諸侯)。天子、穆穆』。奚(どうして)、取(とる)、於、三家之堂?」

(天子ではない、)ある三つの家の権力者どもが、(天子だけの)「詩経」の「周頌」の「雝篇」を歌って、神への捧げ物を下げていた。

孔子先生は言った。「(『詩経』の『周頌』の『雝篇』には)『(天子を)補助するのが諸侯である。天子は穆穆と威厳がある』と歌われている。どうして(天子だけの『詩経』の『周頌』の『雝篇』を)三つの家の権力者どもの堂で採用して取り入れているのか? 天子に対して無礼である!」

八佾第三 第三章

子、曰。「人、而、不、仁、如礼何（れい、いかん）？　人、而、不、仁、如楽何（がく、いかん）？」

孔子 先生は言った。「ある人に『仁』、『思いやり』がなければ、どうして礼儀を正しく行う事ができるであろうか？　いいえ！　できない！　ある人に『仁』、『思いやり』がなければ、どうして音楽を正しく奏でる事ができるであろうか？　いいえ！　できない！」

八佾第三 第四章

林放、問、礼、之(の)、本(もと)。

子、曰。「大(おおいなる)、哉、問！ 礼、与(よりも)、其奢(そのぜいたく)、也、寧(むしろ)、倹(つつましい)。喪、与(よりも)、其易(そのおさめる)、也、寧(むしろ)、戚(かなしむ)」

林放が孔子先生に礼儀の根本を質問した。

孔子先生は言った。「(礼儀の根本についての質問は)大いなる質問である！ (礼儀は)贅沢(ぜいたく)であるよりもむしろ控えめである(べきである)。(葬儀の場合は、礼儀は、冷静さを保って葬儀を)統治しているよりもむしろ(取り乱して)悲しむ(べきである)」

八佾第三 第五章

子、曰。「『夷狄』、之(の)、有、君、不如(しかず)、『諸夏』、之(の)、亡(いない)、也」

孔子 先生は言った。「『夷狄』、『中国の周辺の未開の外国』に君主がいる状態とは、『諸夏』、『中国』に(真の君主が)いないような状態ではない」

八佾第三第六章

季氏、「旅(りょする)」、於、泰山。

子、謂、冉有、曰。「女(なんじ)、不、能、救、与(か)？」

対(こたえる)、曰。「不、能」

子、曰。「嗚呼(ああっ)。曾(すなわち)、謂、泰山、不、如、林放、乎？」

季氏は、泰山で、「旅(りょ)」、「天子だけの祭儀である、泰山を祭る祭儀」をしてしまった。

孔子先生は冉有に言った。「あなた(、冉有)は(季氏の過ちを)救うことができなかったのか？」

冉有は答えて言った。「できませんでした」(、「季氏は聞く耳を持ってくれませんでした」。)

孔子先生は言った。「ああっ。泰山(の霊)は、(『八佾第三第四章』で礼儀の根本を質問した)林放に及ばないとでも言うのか？　いいえ！　(泰山の霊は礼儀を知っているので季氏に怒るであろう！)」

八佾第三 第七章

子、曰。「君子、無、所、争。必、也、射、乎。『揖譲』、而、升。下、而、飲。其争、也、君子」

孔子先生は言った。「王者は争わない。(ある意味、争うとしたら、競うとしたら、)きっと、弓で矢を射る競技くらいであろうか。(弓で矢を射る競技では王者達は)『揖譲』という敬礼をしてから(競技場に)上るし、(競技場を)下りてから(共に)酒を飲む。このような争いは王者らしい」

八佾第三 第八章

子夏、問、曰。「『巧笑、倩、兮。美目、盼、兮。素、以、為(なす)、絢、兮』。何、謂、也?」

子、曰。「絵、事(こと)、後、素」

曰。「礼、後、乎?」

子、曰。「起、予(よ)、者(もの)、商(=子夏)、也。始、可、与(ともに)、言、詩、已(のみ)、矣」

子夏が孔子 先生に質問して言った。「(『詩経』の)『美しい笑顔を美しくするのは、美しい目つきをはっきりと美しくするのは、素地(、基礎、基礎化粧)が美しくするのである』とは何を言っているのでしょうか? (詩の真意は何でしょうか?)」

孔子 先生は言った。「化粧で眉(まゆ)などを描く事は、『素地』、『基礎』、『基礎化粧』の後にすることである」

子夏は言った。「礼儀は(基礎である心を思いやり深くした)後でしょうか?」

孔子 先生は言った。「私(、孔子)をハッと目覚めさせる者は、子夏である。初めて共に詩について話す事ができる、と認めるばかりである」

八佾第三 第九章

子、曰。「『夏』、礼、吾、能、言、之、『杞』、不足、徴、也。殷、礼、吾、能、言、之、宋、不足、徴、也。文献、不足、故、也。足、則、吾、能、徴、之、矣」

孔子 先生は言った。「夏王朝の礼儀について私(、孔子)は話す事が可能であるが、『杞』という国だけでは証拠が不足してしまう。殷の礼儀について私(、孔子)は話す事が可能であるが、宋という国だけでは証拠が不足してしまう。文献が不足しているからである。文献が足りていたら、私(、孔子)は、それを証拠とできるのに」

八佾第三 第十章

子、曰。「『禘』、自(より)、既、灌(そそぐ)、而、往(あと)、者(は)、吾(われ)、不、欲、観、之(これ)、矣」

孔子先生は言った。「『禘』という祭儀で既に(酒を地に)注いでから後は、私(、孔子)は『観ていたい』とは思わないのである」(、「『禘』という祭儀の意味は失われて忘れられてしまったため、酒を地に注いだ後は、後世の、でたらめな捏造であるので、観ていたい、とは思わないのである」。)

八佾第三第十一章

或(ある)、問、「禘」、之(の)、説。

子、曰。「不、知、也。知、其(その)、説、者(もの)、之(の)、於、天下、也、其(それ)、如(のよう)、示(ひょうじしてみる)、諸(これ)、斯(ここ)、乎」

指、其(その)、掌。

ある人が「禘」という祭儀の説明を質問した。

孔子先生は言った。「(私、孔子は)知らないのです。その『禘』という祭儀の説明を知る者は、天下をここ(、手のひら)に表示して見ることができるような者でしょうか」(、「神のみぞ知る」、「『禘』という祭儀の意味は失われて忘れられてしまったのである」。)

(孔子先生は)自分の手のひらを指さした。

八佾第三第十二章

祭、如、在。

祭、神、如、神、在。

子、曰。「吾（われ）、不、与（あずかる）、祭、如、不、祭」

（先祖の霊が）いらっしゃるかのように祭る（べきである）。

神がいらっしゃるかのように神を祭る（べきである）。

孔子 先生は言った。「私（、孔子）は、祭儀に参加できなければ、祭（まつ）ることができなかったような物なのである（、と考える）」

八佾第三 第十三章

王孫賈、問、曰。「『与(よりも)、其(その)、媚、於、奥、寧(むしろ)、媚、於、竈(かまど)』、何、謂、也?」

子、曰。「不、然(しかり)。獲、罪、於、天、無(ない)、所、祷(いのる)、也」

王孫賈が孔子 先生に質問して言った。「『奥の部屋(の神)よりもむしろ竈(かまど)の神に媚(こ)びる(べきである)』という言葉の真意は何でしょうか?」

孔子 先生は言った。「それはないです。(人ごときが神々に優劣をつけるという、)天の神に対して罪をおかして獲得してしまったら、祈る所すら無くなってしまいます」

八佾第三 第十四章

子、曰。「周、監（みほんにする）、於、二代（＝夏、殷）、『郁郁乎』、文、哉。吾（われ）、
従（したがう）、周」

孔子 先生は言った。「周王朝は夏王朝と殷という二代を見本にして文化が『郁郁乎』と盛んである。私（、孔子）は周王朝に従ってならう」

八佾第三　第十五章

子、入、「大廟」、毎（たびに）、事（こと）、問。

或（ある）、曰。「孰（だれが）、謂、鄹人之子、知、礼、乎？　入、大廟、毎（たびに）、事（こと）、問」

子、聞、之（これ）、曰。「是（これ）、礼、也」

孔子先生は、「大廟」、「天子や諸侯の霊廟」に入ったら、なにか事があるたびに質問した。

ある人が言った。「誰が『鄹という町の人の子』、『孔子』は礼儀作法について知っていると言ったのか？　(孔子は)『大廟』に入ったら、なにか事があるたびに質問してくる(。孔子は礼儀作法について知らないので質問してくる)」(。孔子の父は「鄹」という町の役人であった。)

孔子先生は、この言葉を聞いて言った。「これが(『大廟』での)礼儀作法なのです」

八佾第三 第十六章

子、曰。「射、不、主、皮。為（ため）、力、不、同、科。古之道、也」

孔子 先生は言った。「弓で矢を射る競技では的の皮に貫通させることを主目標としない。(人々の)力の位階が同じではないためである。古くからの道理なのである」(、「弓で矢を射る競技では的に当たれば良くて的に貫通させせなくても良い。人には才能による力の優劣が、どうしても有るからであ
る」。)

八佾第三 第十七章

子貢、欲、去、「告朔」之「餼羊」。

子、曰。「賜(＝子貢)、也。爾(なんじ)、愛(おしむ)、其(その)羊。我、愛(おしむ)、其(その)礼」

子貢は「告朔」という祭儀での「餼羊」という「羊を捧げる事」を廃止したいと思っていた。(金銭の無駄であるという理由からである、と言われている。)

孔子 先生は言った。「子貢よ。あなた(、子貢)は羊(を買う金銭)をおしんでいるが、私(、孔子)は(『告朔』という祭儀で『餼羊』するという礼儀が廃止されないように)礼儀をおしんでいるのである」

(食べるため以外に生きているものを殺すのは駄目であるが、食べるために殺した羊の肉を食べる前に捧げていたのである、と思われる。)

八佾第三 第十八章

子、曰。「事(つかえる)、君、尽、礼、人、以、為(なす)、諂、也」

孔子 先生は言った。「君主に仕えているときに礼儀を尽くすと、(悪)人は『(君主に、)へつらっている』とみなしてくるものである」

八佾第三 第十九章

定公、問。「君、使（つかう）、臣。臣、事（つかえる）、君。如之何（これ、いかん）？」

孔子、対（こたえる）、曰。「君、使（つかう）、臣、以、礼。臣、事（つかえる）、君、以、忠」

定公が孔子 先生に質問した。「君主は臣下を使います。臣下は君主に仕えます。このとき、どのようにすればよいでしょうか？」

孔子 先生は答えて言った。「礼儀を尽くして君主は臣下を使う(べきである)。忠誠を尽くして臣下は君主に仕える(べきである)」

八佾第三第二十章

子、曰。「『関雎』、楽、而、不、淫。哀、而、不、傷」

孔子先生は言った。「『詩経』の『関雎』篇の詩は、楽しませるが、淫ら(みだ)ではない。悲しませるが、傷つけない」

八佾第三第二十一章

哀公、問、社、於、宰我。

宰我、対(こたえる)、曰。「夏后氏、以、松(まつ)。殷人、以、柏(かしわ)。周人、以、栗(クリ)。曰、『使(させる)、民、戦慄』」

子、聞、之(これ)、曰。「『成事』、不、説(とく)。『遂事』、不、諫(いさめる)。『既往』、不、咎」

哀公が宰我に「社」、「土地神を祭る場所」について質問した。

宰我は答えて言った。「夏后氏は松を(土地神を祭る場所の周囲に)植えました。殷の人は柏を(土地神を祭る場所の周囲に)植えました。周王朝の人は栗(クリ)を(土地神を祭る場所の周囲に)植えました。『(土地神を畏敬させるために、)民を戦慄させるためである』と言われています」

孔子先生は、この宰我の言葉を聞いて言った。「成してしまった事は説いて教えて止められない。成し遂げてしまった事は諫(いさ)めて注意して止められない。既に過ぎ去った過去の事は咎(とが)めて止められない」

八佾第三第二十二章

子、曰。「管仲之器、小、哉」

或（ある）、曰。「管仲、倹、乎?」

曰。「管氏(=管仲)、有、『三帰（三家）』。官、事（こと）、不、摂（かねる）。焉（どうして）、得、倹?」

「然、則（すなわち）、管仲、知、礼、乎?」

曰。「邦、君、樹、塞、門。管氏(=管仲)、亦、樹、塞、門。邦、君、為（なす）、両君之好、有、『反坫』。管氏(=管仲)、亦、有、『反坫』。管氏(=管仲)、而、知、礼、孰（だれが）、不、知、礼?」

孔子 先生は言った。「管仲は器が小さかった」

ある人が孔子 先生に言った。「管仲は(容器が小さかったということは)倹約家だったのでしょうか?」

孔子 先生は言った。「管仲は、三人の妻がいて三軒の家が有った。役人の仕事を兼任させなかった(。役人を十分に雇って役人の仕事を専任させた)。どうして倹約家であり得ようか? いいえ! 倹約家ではない!」

「それでは、管仲は礼儀を知ってい(て容器を小さくしてい)たのでしょうか？」

孔子先生は言った。「国の君主は門の視界を樹で塞いでいた。管仲もまた(僭越にも)門の視界を樹で塞いでしまった。二人の君主が友好を結ぶ時のために国の君主は『反坫』という『酒の杯を置く台』を所有していた。管仲もまた(僭越にも)『反坫』という『酒の杯を置く台』を所有してしまっていた。仮に、管仲が礼儀を知っているならば、誰が礼儀を知らない事が有り得ようか？　いいえ！　誰でも礼儀を知っている事に成ってしまう！　管仲は礼儀を知らない！」

八佾第三第二十三章

子、語、「魯」、「大師」、楽、曰。「楽、其(それ)、可、知、也。始、作、翕、如、也。従(ゆったりとする)、之(これ)、純、如、也。皦、如、也。繹、如、也。以、成」

孔子先生は「魯」という国の「大師」に音楽について語った。「音楽について知るべきである。初めは盛んに奏でます。美しく音楽をゆったりとさせます。明確にします。ほどきます。このように音楽は構成されます」

八佾第三第二十四章

「儀」、「封人」、請、見《あう》、曰。「君子、之《の》、至、於、斯《ここ》、也、吾《われ》、未、嘗《かつて》、不、得、見《あう》、也」

従者、見《あう》、之《これ》。

出、曰。「二三子、何、患、於、喪、乎？ 天下之無道、也、久、矣。天、将《まさに》、以、夫子、為《なす》、『木鐸』」

「儀」の「封人」、「国境の役人」が「孔子 先生にお会いしたい」と要請して(孔子 先生の従者に)言った。「王者、聖人、賢者が、ここ(、この国境)に到来したら、私(、国境の役人)は未だかつて、お会いしなかった事が無いのです」

孔子 先生の従者は、この国境の役人を孔子 先生に会わせた。

国境の役人は退出する時に言った。「あなた達は、どうして(倫理道徳の)滅びを憂いているのですか？ 天下は『無道』、『非道』に成って久しい。(そのため、)天の神は、まさに、孔子 先生(の考え)を(天下の)『木鐸』、『教師』、『導師』にするつもりなのでしょう」

八佾第三 第二十五章

子、謂、韶。「尽、美、矣。又、尽、善、也」

謂、武。「尽、美、矣。未、尽、善、也」

孔子先生は聖王である舜の「韶」という音楽について言った。「美を尽くしている。また、善を尽くしている」（。舜の思想をほめた。）

孔子先生は周の武王の「武」という音楽について言った。「美を尽くしている。しかし、善を未だ尽くしていない」（。周の武王の思想を批判した。）

八佾第三第二十六章

子、曰。「居、上(かみ)、不、寛。為(なす)、礼、不、敬。臨、喪(も)、不、哀。吾(われ)、何、以、観、之(これ)、哉？」

孔子　先生は言った。「上位に居ても寛大ではない(。思いやりが無い)。礼儀作法をなしても(うわべだけで)敬う心が無い。葬儀に臨んでも悲しまない。こんな者どもの、どこに観るべき所があるというのか？　と私(、孔子)は思う」

里仁第四

里仁第四 第一章

子、曰。「里（なか）、仁、為（なす）、美。択（えらぶ）、不、処、仁、焉（どうして）、得、知？」

孔子先生は言った。「『仁』、『思いやり』の中にいるのを美と為（な）す。思いやりを選択して処さなければ、知は得られない！」

里仁第四 第二章

子、曰。「不、仁、者（もの）、不、可、以、久、処、約（ひかえめに）。不、可、以、長、処、楽。仁、者（もの）、安、仁。知者、利、仁」

孔子先生は言った。「『仁ではない者』、『思いやりが無い者』は長く控えめに処することができない。長く安楽に処することができない。思いやり深い者は思いやりに安らぐことができる。知者は思いやりに鋭利なまでに敏感である」

里仁第四 第三章

子、曰。「惟(ただ)、仁、者(もの)、能、好、人。能、悪、人」

孔子先生は言った。「唯一、思いやり深い者だけが、(善)人を好むことが可能であるし、(悪)人を憎悪することが可能である」(、「思いやりが無い悪人は、見る目が無いので、悪人を好んでしまう」。)

里仁第四 第四章

子、曰。「苟(ほんとうに)、志、於、仁、矣、無(ない)、悪、也」

孔子 先生は言った。「本当に、思いやり深くなることを志させば、悪くなることは無いのである」

里仁第四 第五章

子、曰。「富、与、貴、是、人、之、所、欲、也。不、以、其道、得、之、不、処、也。貧、与、賤、是、人、之、所、悪、也。不、以、其道、得、之、不、去、也。君子、去、仁、悪、乎、成、名？ 君子、無、終、食、之、間、違、仁。『造次』、必、於、是。『顚沛』、必、於、是」

孔子先生は言った。「金銭に富む事と高貴な地位は人々が欲する所の物である。道理によって金銭や地位を得なければ、処することはできない。貧困と卑賤な地位は人々が憎悪して、いやがる所の物である。道理によって貧困や卑賤な地位を得てしまったのでなければ、貧困や卑賤な地位は去らないであろう。王者は、思いやりを離れ去ってしまって、どうして名声を形成できるであろうか？　いいえ！　できない！　王者は、食事が終わるまでの間ですら思いやりを間違える事が無い。『造次』、『一時』も、はなれず、必ず思いやりにとどまる。『顚沛』、『転倒』ですら必ず思いやりによってするのである」

里仁第四 第六章

子、曰。「我、未、見、好、仁、者、悪、不、仁、者。好、仁、者、無、以、尚、之。悪、不、仁、者、其、為、仁、矣。不、使、不、仁、者、加、乎、其、身。有、能、一日、用、其力、於、仁(、者)、矣乎? 我、未、見、力、不足、者。蓋、有、之、矣? 我、未、之、見、也」

孔子 先生は言った。「私(、孔子)は、思いやりを好む者も、思いやりの無さを憎悪する者も、未だ見たことがない(といえる)。思いやりを好む者には、なにかを加える必要が無い(。思いやりの愛好だけで十分である)。思いやりの無さを憎悪する者は、思いやり深く成る。思いやりの無い者を自身の身内として加えない。一日でも自分のもつ力を思いやりのために用いることが可能な者はいるであろうか? いる! 私(、孔子)は思いやりのための力が不足している者を未だ見たことがない。思うに、このような(思いやりのための力が不足している)ものなどいるであろうか? いいえ! いない! 私(、孔子)は、このような(思いやりのための力が不足している)ものを未だ見たことがない」

里仁第四 第七章

子、曰。「人之過、也、各、於、其党。観、過、斯、知、仁、矣」

孔子先生は言った。「人の過ちは、各人の種類による物なのである。過ちを観察すれば、この過ちによって、思いやりについて知る事ができる(。思いやりによる過ちによって思いやりを知る事ができるし、思いやりの無さによる過ちを反面教師にして思いやりを知る事ができる)」

里仁第四 第八章

子、曰。「朝、聞、道、夕、死、可、矣」

孔子先生は言った。「朝に『道』、『真理』について(全て)聞くことができたら、夕方に死んでもよい」

里仁第四 第九章

子、曰。「士、志、於、道、而、恥、悪衣、悪食、者(もの)、未、足(たりる)、与(ともに)、議、也」

孔子 先生は言った。「『士』、『一人前の人』が『道』、『真理』を(知って行う事を)志しても、粗悪な衣服や、粗悪な食事を恥じる者であるならば、共に議論するのに足りるものでは未だないのである」

里仁第四 第十章

子、曰。「君子、之、於、天下、也、無、適、也。無、莫、也。義、之、与、比」

孔子先生は言った。「王者は、天下において、(いつまでも)正義に適うように(意識)するわけではない。(いつまでも)悪を否定しようと(意識)するわけではない。正義と(一体化して無意識でも)共に並べるようにするのである」

里仁第四 第十一章

子、曰。「君子、懐(おもう)、徳。小人、懐(おもう)、土。君子、懐(おもう)、刑。小人、懐(おもう)、恵」

孔子先生は言った。「王者は『徳』、『善行』について思いをめぐらす。矮小な人は土地について思いをめぐらす。王者は(法と法による)刑罰について思いをめぐらす。矮小な人は恩恵、利益について思いをめぐらす」

里仁第四 第十二章

子、曰。「放(まかせる)、於、利、而、行、多、怨」

孔子 先生は言った。「利益に任せて(利益だけを優先して)行動していたら、怨(うら)まれることが多くなる」

里仁第四 第十三章

子、曰。「能、以、礼、譲、為、国、乎、何、有？ 不、能、以、礼、譲、為、国、如礼何？」

孔子 先生は言った。「(敬愛による)礼儀と、謙虚に譲る事によって、国の政治を行う事ができれば、何か問題が有ろうか？ いいえ！ 問題無く順調であろう！ (敬意による)礼儀と、謙虚に譲る事によって、国の政治を行う事ができなければ、礼儀(と敬愛)は、どうなってしまうであろうか？ 礼儀と敬愛は姿を隠してしまう！」

里仁第四 第十四章

子、曰。「不、患、無（ない）、位。患、所以（根拠）、立。不、患、莫（ない）、己、知。求、為（なす）、可、知、也」

孔子 先生は言った。「高位が無いことを憂うことはしない。高位に立つことができる根拠である『徳』、『善行』をおこなうことについて憂う。自分を知ってもらえないことを憂うことはしない。自分を知ってもらう事が可能な善行を為（な）したいと探求するのである」

里仁第四 第十五章

子、曰。「参(＝曾子)、乎。吾(わが)、道、一、以、貫、之(これ)」

曾子、曰。「唯(はい)」

子、出。

門人、問、曰。「何、謂、也?」

曾子、曰。「夫子之道、忠、恕、而、已(のみ)、矣」

孔子 先生は言った。「曾子よ。私(、孔子)の『道』、『真理』は唯一の物によって貫かれている」

曾子は言った。「はい」

孔子 先生は退出した。

ある門人が曾子に質問して言った。「(孔子 先生は、)どのようなことを言ったのでしょうか?」

曾子は言った。「孔子先生の『道』、『真理』とは『忠恕』、『誠実に思いやる事』のみなのである」

里仁第四 第十六章

子、曰。「君子、喩（さとる）、於、義。小人、喩（さとる）、於、利」

孔子 先生は言った。「王者は正義、正しさ、善によって理解する。矮小な人は利益によって理解する」

里仁第四 第十七章

子、曰。「見、賢、思、斉、焉。見、不、賢、而、内、自、省、也」

孔子先生は言った。「賢者を見たら、『(賢者と)等しくなりたい(。賢者になりたい)』と思うものなのである。賢くない劣悪な人を見たら、心の中で(『自分は劣悪な人と同じなのではないか？』と)自ら反省する(べきな)のである」

里仁第四 第十八章

子、曰。「事（つかえる）、父母、『幾諫（それとなくいさめる）』。見、志、不、従、又、敬、而、不、違。労、而、不、怨」

孔子先生は言った。「父母に仕えて、それとなく注意したり助言したりする(べきである)。父母の意志が自分には従ってくれないと見ても、敬ったままでいて、父母の意志と違うことをしない(べきである)。父母のせいで労苦しても父母を怨（うら）まない(べきである)」

里仁第四 第十九章

子、曰。「父母、在、不、遠、遊。遊、必、有、方（やりかた）」

孔子先生は言った。「父母がいるならば、（父母に仕えるために、）遠くに行かない（べきである）。やむをえず、どこかへ行くには必ず（事前に知らせたり連絡し合ったりする）、やり方が有るのである」

里仁第四 第二十章

子、曰。「三年、無(ない)、改、於、父之道、可、謂、孝、矣」

孔子先生は言った。「(父の死後から)三年間、父の『道』、『やり方』を改変しなければ、親孝行と言える」

里仁第四 第二十一章

子、曰。「父母之年、不、可、不、知、也。一、則、以、喜。一、則、以、懼」

孔子先生は言った。「(善良な)父母の年齢は知っておくべきである。一つには、(善良な父母が生きている事を)喜ぶためである。一つには、(善良な父母が死んで親孝行して恩返しできなく成る事を)恐れるためである」

里仁第四 第二十二章

子、曰。「古《いにしえ》、者《もの》、言、之《の》、不、出、恥、躬《み》、之《の》、不、逮《およぶ》、也」

孔子先生は言った。「古代の賢者が言葉を口《くち》にしたり書いたりして出さなかったのは、自身(の行い)が言葉に及ばないかもしれないのを恥じたからである」

里仁第四 第二十三章

子、曰。「以、約、失、之、者、鮮、矣」

孔子 先生は言った。「倹約して節制して節制して節制した対象を失くしした者は少ないのである」

里仁第四 第二十四章

子、曰。「君子、欲、訥、於、言、而、敏、於、行」

孔子先生は言った。「王者は、言葉については口が重くありたいが、行動については機敏でありたいと欲するものなのである」

里仁第四 第二十五章

子、曰。「徳、不、孤。必、有、隣」

孔子 先生は言った。「『徳』、『善行』は(実は)孤立していないのである。必ず隣人である者がいるのである」

里仁第四 第二十六章

子游、曰。「事（つかえる）、君、数（しばしば）、斯（これ）、辱、矣。朋友、数（しばしば）、斯（これ）、疎（うとむ）、矣」

孔子の弟子である子游は言った。「君主に仕えても、頻繁過ぎたら、（君主に疎まれて嫌われてしまって）辱（はずかし）められる。友を思いやっても、（不要なのに）頻繁過ぎたら、疎（うと）まれて嫌われてしまう」（。相手が必要としている時だけ思いやる必要が有る。）

公冶長第五

公冶長第五 第一章

子、謂、公冶長。「可、妻（めあわせる）、也。雖、在、縲絏之中、非、其（その）罪、也」

以、其（その）子、妻（めあわせる）、之（これ）。

孔子 先生は公冶長について言った。「(私、孔子の娘と)結婚させるべきである。罪人として、とらえられていたが、公冶長は罪を犯していない」

孔子 先生は、孔子 先生の娘と公冶長を結婚させた。

公冶長第五 第二章

子、謂、南容。「邦、『有道』、不、廢（すてる）。邦、『無道』、免、於、『刑戮』」

以、其（その）兄之子、妻（めあわせる）、之（これ）。

孔子 先生は南容について言った。「(南容は善良で優れているので、)国家が『有道』であれば、捨て置かれる事が無い。(南容は慎重なので、)国家が『無道』であっても、『刑戮』、『死刑に処される事』を免れる」

孔子 先生は孔子 先生の兄の娘と南容を結婚させた。

公冶長第五 第三章

子、謂、子賤。「君子、哉、若（このよう）、人。魯、無（ない）、君子、者（もの）、斯（これ）、焉（どうして）、取、斯（これ）？」

孔子 先生は、弟子である子賤について言った。「この(子賤の)ような人は王者である。そして、仮に、魯という国に王者である者がいなければ、どうして、この子賤は、この王者らしさを取得できたであろうか？ いいえ！」

公治長第五 第四章

子貢、問、曰。「賜(＝子貢)、也、何如(いかん)？」

子、曰。「女(なんじ)、器、也」

曰。「何、器、也？」

曰。「『瑚璉』、也」

子貢が孔子 先生に質問して言った。「私、子貢は、どうですか？」

孔子 先生は言った。「あなた、子貢は器である」

子貢が孔子 先生に言った。「どのような器ですか？」

孔子 先生は言った。「祭器である」

公治長第五 第五章

或、曰。「雍、也、仁、而、不、佞」

子、曰。「焉、用、佞？ 御、人、以、『口給』、屢、憎、於、人。不、知、其仁。焉、用、佞？」

ある人が言った。「孔子の弟子である雍は、思いやり深いが、口先だけで他人に取り入ることができない」

孔子 先生は言った。「どうして口先を用いるであろうか？ いいえ！ 正しい知者は口先を用いない！ 『口給』、『口達者』になって他人を制御して操ろうとしても、頻繁に、他人から憎悪されてしまう羽目になる。雍が思いやり深いかは知らないが。どうして口先を用いるであろうか？ いいえ！ 正しい知者は口先を用いない！」

公冶長第五 第六章

子、使、漆雕開、仕。

対、曰。「吾、斯、之、未、能、信」

子、説。

孔子先生は、弟子である漆雕開を役人として国に仕えさせた。

漆雕開は孔子先生に応えて言った。「私(、漆雕開)は、この私(、漆雕開)に、この役人としての権力を任せることが未だできていないのですが(。自信が未だ無いのですが)」

孔子先生は(漆雕開の謙虚さを)喜んだ。

公冶長第五 第七章

子、曰。「道、不、行。乗、桴、浮、於、海。従、我、者、其、由(=子路)、与?」

子路、聞、之、喜。

子、曰。「由(=子路)、也、好、勇、過、我。無、所、取、材」

孔子先生は言った。「(私、孔子の努力にもかかわらず、この国では)『道』、『倫理道徳』が行われない。いかだに乗って海に浮かんで漂うように(国から国へ)旅するかな。私(、孔子)に従って、ついて来てくれる者は、子路かな?」

子路は、この孔子先生の言葉を聞いて喜んだ。

孔子先生は(子路について)言った。「子路は、私(、孔子)よりも勇猛過ぎる(。良くも悪くも戦おうとし過ぎる。敵を作りやすい)。せっかくの(子路の)才能を採用して取り入れてくれる所が無い」

公冶長第五 第八章

孟武伯、問。「子路、仁、乎？」

子、曰。「不、知、也」

又、問。

子、曰。「由(＝子路)、也、千乗之国、可、使、治、其賦、也。不、知、其仁、也」

「求(＝冉有)、也、何如？」

子、曰。「求(＝冉有)、也、千室之邑、百乗之家、可、使、為、之、宰、也。不、知、其仁、也」

「赤(＝子華)、也、何如？」

子、曰。「赤(＝子華)、也、『束帯』、立、於、朝、可、使、与、賓客、言、也。不、知、其仁、也」

孟武伯が孔子 先生に質問した。「子路は思いやり深い知者ですか？」

孔子先生は言った。「知らないです」（「知者」という言葉を使うのを慎んだ。）

また、孟武伯が同じ質問をした。

孔子先生は言った。「子路は、千台の戦車がある諸侯の大国、その税務を統治させることが可能です。しかし、その子路が思いやり深い知者であるか知らないです」（ある意味で「子路は知者である」と言っているような物である。）

「冉有は、どうですか？（知者ですか？）」

孔子先生は言った。「冉有は、千軒の家が有る町、百台の車がある家門、そこの『宰』、『長として司って取り仕切る者』をさせることが可能です。しかし、その冉有が思いやり深い知者であるか知らないです」

「子華は、どうですか？（知者ですか？）」

孔子先生は言った。「子華は、『束帯』、『正装』させて『朝』、『天子が国家の政治を行っている建物』で立たせて『賓客』、『大事な客人』と話をさせることが可能です。しかし、その子華が思いやり深い知者であるか知らないです」

公治長第五　第九章

子、謂、子貢、曰。「女（なんじ）、与（と）、回（＝顔回）、也、孰（どちらが）、愈（すぐれている）？」
対（こたえる）、曰。「賜（＝子貢）、也、何、敢、望、回（＝顔回）。回（＝顔回）、也、聞、一、以、知、十。賜（＝子貢）、也、聞、一、以、知、二」
子、曰。「弗（ない）、如（しく）、也。吾（われ）、与（と）、女（なんじ）、弗（ない）、如（しく）、也」

孔子先生が子貢に言った。「あなた（、子貢）と顔回では、どちらが優れているでしょうね？」

子貢は答えて言った。「私、子貢が、どうして、あえて、『顔回と等しい』という希望すら持てるでしょうか？　いいえ！　無理です！　顔回は一を聞いて十を知ります（。一部を聞いただけで自力で全てを知るに至ります）。私、子貢は一を聞いて二を知るだけです（。ある一部を聞いて直接的に関連する別の部分を知るだけです）」

孔子先生は言った。「顔回には及ぶことができない。私（、孔子）と、あなた（、子貢）は顔回には及ばない」

公冶長第五 第十章

宰予(＝宰我)、昼寝。

子、曰。「朽木、不可、雕、也。糞土之牆、不可、杇、也。於、予(＝宰我)、与、何、誅?」

子、曰。「始、吾、於、人、也、聴、其言、而、信、其行。今、吾、於、人、也、聴、其言、而、観、其行。於、予(＝宰我)、与、改、是」

宰我が(学習を怠って)昼寝をしてしまった。

孔子 先生は言った。「(崩れて悪化してしまうので)朽木を彫る事は不可能である。(崩れて悪化してしまうので)『糞土』、『腐っている土』の『牆』、『仕切りの壁』を『こて』で塗るのは不可能である。どうして、宰我も責めるのが可能であろうか? 現時点では悪化してしまうので性根が腐っている宰我も責めるのは不可能である! 責めても無駄に成ってしまう!」

さらに、孔子 先生は言った。「最初、私(、孔子)は他人に対して、その人の言葉を聴いて、その人の行いを(言葉通りであると)信じていた。今では、私(、孔子)は他人に対して、その人の言葉を聴いても、その人の行いを観察

してから、その人の行いを(言葉通りであると)信じることにした。宰我のせいで、このように改めたのである」

公冶長第五 第十一章

子、曰。「吾(われ)、未、見、剛、者」

或(ある)、対(こたえる)、曰。「申棖?」

子、曰。「棖(=申棖)、也、慾(むさぼるほどほしがる)。焉(どうして)、得、剛?」

孔子 先生は言った。「私(、孔子)は(真に)強い者を未だ見た事が無い(と言える)」

ある人が孔子 先生に答えて言った。「申棖は? (筋力が強い者ですよ?)」

孔子 先生は言った。「申棖は貪欲である(。欲に負ける、意思が弱い者である)。どうして(真に)強い者であり得ようか? いいえ! 弱い者である!」

公冶長第五　第十二章

子貢、曰。「我、不、欲、人、之、加、諸、我、也、吾、亦、欲、無、加、諸、人」

子、曰。「賜（＝子貢）、也。非、爾、所、及、也」

子貢が言った。「私（、子貢）は、他人が私（、子貢）に加害したいと欲しないような悪事を、私もまた他人に加害したいと欲しないように注意します」

孔子　先生は言った。「子貢よ。あなた（、子貢）は、そんな劣悪な方針に、手を出して停滞していてはいけない」

公冶長第五 第十三章

子貢、曰。「夫子之文章、可、得、而、聞、也。夫子、之(の)、言、性、与(と)、天、道、不可、得、而、聞、也」

子貢は孔子 先生について言った。「孔子 先生の普通の文書を得たり、普通の言葉を聞いたりする事は可能である。(しかし、)孔子 先生が、(心などの)性質と、天の神の『道』、『真理』について言った文書を得たり、言葉を聞いたりする事は不可能に近い」

公冶長第五 第十四章

子路、有、聞、未、之、能、行、唯、恐、有、聞。

子路は、(今まで)聞いた事が有る孔子先生の、ある教えを未だ行う事ができなければ、ただ、ひたすらに、更に他の教えを聞く事が有るのを恐れた。

(子路は孔子の教えを全て行えるように非常に努力していた。)

公冶長第五 第十五章

子貢、問、曰。「孔文子、何、以、謂、之（これ）、『文』、也？」

子、曰。「敏、而、好、学、不、恥、『下問』。是（これ）、以、謂、之（これ）、『文』、也」

子貢は孔子先生に質問して言った。「孔文子は、なぜ、『文』という称号を加えて『孔文子』と呼ばれているのですか？」

孔子先生は言った。「孔文子は、機敏で、学問を好み、『下問』、『目下の人達に質問する事』を恥じなかった。このため、『文』という称号を加えて『孔文子』と呼ばれているのである」

公冶長第五 第十六章

子、謂、子産。「有、君子之道、四、焉。其(その)、行、己、也、恭。其(その)、事(つかえる)、上、也、敬。其(その)、養、民、也、恵(おもいやる)。其(その)、使(つかう)、民、也、義」

孔子先生は子産について言った。「子産には、王者の『道』、『手段』が四つ有ったのである。自己の振る舞(ふま)いが目上の者達に対して恭(うやうや)しかった。目上の人達を敬って仕えた。国民を思いやって養った。正義に適(かな)うように正しく国民を使役した」

公冶長第五 第十七章

子、曰。「晏平仲、善、与、人、交。久、而、敬、之」

孔子 先生は晏平仲について言った。「晏平仲は、善良に他人と交流した。久しぶりに会っても他人を敬ったままであった」

公治長第五 第十八章

子、曰。「臧文仲、居(おく)、『蔡』。山(やま)、『節』。藻(も)、『梲(うだつ)』。何如(いかん)、其(それ)、知、也？」

孔子 先生は臧文仲について言った。「臧文仲は、(僭越にも)『蔡』、『天子だけの占い用の亀の甲羅』を所有しておいていた。(僭越にも)柱の『節』という部分に山を彫(ほ)っていた。(僭越にも)『梲(うだつ)』、『梁(はり)の上にある、棟木(むなぎ)を支える短い柱』に海藻を彫(ほ)っていた。どうして知者であろうか？　いいえ！　知者ではない！」

公冶長第五 第十九章

子張、問、曰。「『令尹』、子文、三、仕、為（なる）『令尹』、無（ない）、喜色。三、已（やめる）、之（これ）、無（ない）、慍（うらむ）、色。旧『令尹』之政、必、以、告、新『令尹』。何如（いかん）？」

子、曰。「忠、矣」

曰。「仁、矣乎？」

曰。「未、知。焉（どうして）、得、仁？」

「崔子、弑（ころす）、斉、君、陳文子、有、馬、十乗、棄、而、違（さる）、之（これ）。至、於、他邦、則（すなわち）、曰、『猶、吾（わが）、大夫、崔子、也』。違（さる）、之（これ）。之（いたる）、一邦、則（すなわち）、又、曰、『猶、吾（わが）、大夫、崔子、也』。違（さる）、之（これ）。何如（いかん）？」

子、曰。「清、矣」

曰。「仁、矣乎？」

曰。「未、知。焉（どうして）、得、仁？」

子張が孔子 先生に質問して言った。「『令尹』という役職であった子文は、三回、ある国に仕えて『令尹』に成ったが、喜色を浮かべて喜びませんでした。三回、『令尹』を辞める羽目に成ったが、怨まず顔色を変えませんでした。旧『令尹』が政治的に行った事までも、必ず、新しい『令尹』に報告してあげました。どうでしょうか？」

孔子 先生は言った。「忠実である」

子張は言った。「思いやり深い知者でしょうか？」

孔子 先生は言った。「未だ知者ではない。どうして思いやり深い知者であり得ようか？ いいえ！」

子張は言った。「崔子が『斉』という国の君主を殺してしまうと、陳文子は、十台の馬車を引く事ができる多数の馬がいましたが、捨てて、その『斉』という国を去りました。他の国に至りましたが、『なお私（、陳文子）が今いる国の『大夫』の役職の者は崔子のような者である』と言って、その国を去りました。更に、ある国に至りましたが、また、『なお私（、陳文子）が今いる国の『大夫』の役職の者は崔子のような者である』と言って、その国を去りました。どうでしょうか？」

孔子 先生は言った。「清潔である（。潔癖である）」

子張は言った。「思いやり深い知者でしょうか？」

孔子 先生は言った。「未だ知者ではない。どうして思いやり深い知者であり得ようか？　いいえ！」

公冶長第五 第二十章

季文子、三、思、而、後、行。

子、聞、之(これ)、曰。「再、斯(これ)、可、矣」

季文子は三回、思考した後に行(おこな)っていた。

孔子先生は、それを聞いて言った。「再考するだけで(、二回思考するだけで)、行(おこな)って、よい」

公冶長第五 第二十一章

子、曰。「甯武子、邦、有道、則、知。邦、無道、則、愚。其知、可、及、也。其愚、不可、及、也」

孔子 先生は甯武子について言った。「甯武子は、国が有道であるときは、知者であった。国が無道であるときは、愚者のふりをした。その甯武子の知恵に及ぶ事は可能である。しかし、その甯武子の愚者のふりに及ぶ事は不可能なほどである」

公冶長第五 第二十二章

子、在、陳、曰。「帰、与（か）。帰、与（か）。吾党之『小子』、狂、簡。『斐然』、成（なす）、章。不、知、所以（根拠）、裁、之（これ）」

孔子先生は「陳」という国にいた時に言った。「帰ろうか。帰ろうか。私（、孔子）の仲間である『小子』、『弟子』は、熱狂的で、『簡』、『大まか』である。『斐然』とした美しい『章』、『模様』を形成しはする。しかし、その美しい模様を正しく裁断する根拠を知らない」

公治長第五 第二十三章

子、曰。「伯夷、叔斉、不、念、旧、悪。怨、是（これ）、用（によって）、希（まれ）」

孔子先生は言った。「伯夷と、叔斉は、過去の悪事を記憶せず忘れ去った。それによって他人が怨む事は稀（まれ）であった」

公治長第五　第二十四章

子、曰。「孰(だれが)、謂、微生高、直？　或(ある)、乞、醯(す)、焉。乞、諸(これ)、其(その)隣、而、
与(あたえる)、之(これ)」

孔子 先生は言った。「『微生高は正直である』と誤って言うのは誰なのか？　ある人が微生高に酢を乞い願った。微生高は、この酢をその微生高の隣人に乞い願って、（それを言わずに、）その酢を与えた」

公治長第五 第二十五章

子、曰。「巧言、令色、『足恭』。左丘明、恥、之。丘(=孔子)、亦、恥、之。匿、怨、而、友、其人。左丘明、恥、之。丘(=孔子)、亦、恥、之」

孔子 先生は言った。「言葉が巧妙で、見た目が立派で、『足恭』、『へつらう』。左丘明は、そうするのを恥じて、しなかった。私、孔子もまた、そうするのを恥じて、しない。怨みを隠して、その怨んでいる人を友にする。左丘明は、そうするのを恥じて、しなかった。私、孔子もまた、そうするのを恥じて、しない」

公冶長第五 第二十六章

顔淵(=顔回)、季路(=子路)、侍。

子、曰。「盍、各、言、爾、志?」

子路、曰。「願、車馬、衣、(軽、)裘、与、朋友、共、敝、之、而、
無、憾」

顔淵(=顔回)、曰。「願、無、伐、善。無、施、労」

子路、曰。「願、聞、子之志」

子、曰。「老、者。安、之。朋友。信、之。少者。懐、之」

ある時、顔回と、子路が、侍者として、孔子先生のそばに仕えていた。

孔子先生は言った。「どうして各々あなたの志を言わないのですか?
(言ってみなさい)」

子路が言った。「願わくば、車、馬、衣服、毛皮の衣服を友人達と共有して、友人達が、それらを破壊してしまっても、怨む事が無いようにしたいです」

顔回が言った。「願わくば、自分が善人である事を誇る事が無いようにしたいです。他人を労苦させる迷惑をかける事が無いようにしたいです」

子路が言った。「願わくば、孔子 先生の志をお聞きしたいです」

孔子 先生は言った。「老人が私、孔子に安らぎを感じるようでありたい。友が私、孔子を信じてくれるようでありたい。若者が私、孔子に親しみ近づいてくれるようでありたい」

公冶長第五 第二十七章

子、曰。「已(やめる)、矣乎。吾(われ)、未、見、能、見、其過(そのあやまち)、而、内、自(みずから)、訟(ただす)、者(もの)、也」

孔子先生は言った。「やめようか。自分の過(あやま)ちを見つけたら、心の中で自ら正す者を、私(、孔子)は未だ見つけた事が無い(と言える)」

公冶長第五 第二十八章

子、曰。「十室之邑、必、有、忠信、如、丘(=孔子)、者、焉。不如、丘(=孔子)、之、好、学、也」

孔子 先生は言った。「十軒の家が有る町には、必ず、誠実さが、私、孔子に匹敵する者がいるであろう。しかし、私、孔子が学を好むのに匹敵するほど学を好む者はいないであろう」

雍也第六

雍也第六 第一章

子、曰。「雍、也、可、使（させる）、『南面』」

仲弓（＝雍）、問、子桑伯子。

子、曰。「可、也。簡」

仲弓（＝雍）、曰。「居、敬、而、行、簡、以、臨、其（その）民、不、亦、可、乎。

居、簡、而、行、簡、無（ない）、乃（すなわち）、大簡、乎？」

子、曰。「雍之言、然（しかり）」

孔子 先生は言った。「弟子である雍は、『南面』、『天子が南を向いて政治をするように、国の王として政治をする事』をさせる事が可能である」（。仏教でも釈迦牟尼仏や師の僧は南を向いて帰依を受け入れてあげたりする。）

雍は子桑伯子について孔子 先生に質問した。

孔子 先生は言った。「(子桑伯子も『南面』をさせる事が)可能である。ただし、(子桑伯子は)『簡』、『大まかに』であるが」

雍は言った。「(国民などを)敬っていて、『簡』、『大まか』、『簡潔』に政治を行(おこな)って国民に臨むのであれば、可能ですが。しかし、『簡』、『大まか』、『雑』でいて、『簡』、『大まか』、『雑』に政治を行うのは、大いに『簡』、『大まか』、『雑』過ぎるのではないでしょうか?」

孔子 先生は言った。「雍の言葉の通りである」

雍也第六 第二章

哀公、問。「弟子、孰（だれが）、為（なす）、好、学？」

孔子、対（こたえる）、曰。「有、顔回、者（もの）、好、学。不、遷、怒。不、貳（ふたつ）、過（あやまち）。不幸、短命、死、矣。今、也、則（すなわち）、亡（いない）。未、聞、好、学、者（もの）、也」

哀公が孔子先生に質問した。「弟子で、誰が、学を好んでいる、と見なしますか？」

孔子先生は答えて言った。「顔回という者がいて学を好んでいました。顔回は、怒ったまま移り変わらず、どんな過（あやま）ちも一度だけで二度とする事はありませんでした。不幸にも短命で死んでしまいました。今は、もう、いません。そのため、今、学を好んでいる者を未だ聞いた事が無い（と言えます）」

雍也第六 第三章

子華、使(つかいをする)、於、斉。

冉子(＝冉有)、為(ため)、其(その)母、請、粟(こくもつ)。

子、曰。「与(あたえる)、之(これ)、『釜(一釜)』」(一釜＜一庾＝二百八十八リットル　少 ≒ 量)

請、益(ふやす)。

曰。「与(あたえる)、之(これ)、『庾(一庾)』」(一庾＝二百八十八リットル　少量)　≒

冉子(＝冉有)、与(あたえる)、之(これ)、粟(こくもつ)、五秉。(五秉＝約一万四千四百リットル)

子、曰。「赤(＝子華)、之(の)、適(いく)、斉、也、乗、『肥馬』、衣(きる)、軽(かろやか)、裘(かわごろも)。

吾(われ)、聞、之(これ)、也。『君子、周(あまねく)、急(いそいでかけつけてたすける)、不、継、富』」

原思(＝子思)、為(なる)、之(これ)、宰。

与(あたえる)、之(これ)、粟(こくもつ)、九百。

辞。

子、曰。「毋(なかれ)。以、与(あたえる)、爾(なんじ)、隣、里、郷、党、乎」

子華が斉という国への使者と成った。

冉有は、この子華の母のために、孔子先生に穀物を請い願った。

孔子先生は言った。「その子華の母に、『釜』、『一釜』、『一庾よりも少ない少量』の穀物を与えなさい」

冉有は「与える穀物の量を増やしてあげたい」と請い願った。

孔子先生は言った。「その子華の母に、(『少量』である)『庾』、『一庾』、『十六斗』、『二百八十八リットル』を与えなさい」

冉有は、この子華の母に「五秉」、「約一万四千四百リットル」の穀物を与えた。

孔子先生は言った。「子華が斉という国へ行ったとき、肥えた馬に乗って、軽やかな毛皮の衣服を着ていた。私(、孔子)は、次のように聞いている。『王者は、(困窮している人を)遍(あまね)く急いで駆けつけて助けるが、金持ちには救援物資を渡さない』と」

一方、孔子の弟子である、子思が「宰」、「長として司って取り仕切る者」に成った。

すると、孔子 先生は、九百もの大量の穀物を、その子思に与えようとした。(子華は金持ちであったが、子思は金持ちではなかったからである。)

子思は(穀物をもらう事を)辞退しようとした。

孔子 先生は言った。「辞退するなかれ。あなた(、子思)は、穀物を、故郷に隣接する里の仲間達や、故郷の仲間達に与えなさい」

雍也第六 第四章

子、謂、仲弓(＝雍)、曰。「『犂牛之子(まだらうし)』、騂(あかい)、且(かつ)、角、雖(いえども)、欲、勿(ない)、用、山川、其(それ)、舍(すてる)、諸(これ)？」

孔子 先生は、雍について言った。「『犂牛之子』、『雑色の牛の子』、『親が卑賤』でも、立派な赤色であるし、かつ、立派な角であれば、『(親が卑賤なので)採用しないようにしよう』と欲する(差別主義)者どもがいても、『山川』、『山河』、『国家』が、このような立派な者を捨て置くであろうか？　いいえ！　正しい国家は親が卑賤でも立派な者を採用する！」

(中国語で「犂牛之子」は「卑賤な親に立派な子が生まれた事」の例えである場合が有る。)

(中国語で「山河」は「国家」や「国土」の例えである場合が有る。)

雍也第六 第五章

子、曰。「回(＝顔回)、也、其心、三月、不、違、仁。其余、則、日、月、至、焉、而、已、矣」

孔子先生は言った。「顔回は、その心が三か月間、『仁』、『思いやり』を違えなかった。そのため、(思いやり以外の)残りの徳(、善)には、何日間か、何か月間だけで、到達して通達するであろう」

雍也第六 第六章

季康子、問。「仲由(＝子路)、可、使《させる》、従《じゅうじする》、政、也、与《か》？」

子、曰。「由(＝子路)、也、果。於、従《じゅうじする》、政、乎、何、有？」

曰。「賜(＝子貢)、也、可、使《させる》、従《じゅうじする》、政、也、与《か》？」

曰。「賜(＝子貢)、也、達。於、従《じゅうじする》、政、乎、何、有？」

曰。「求(＝冉有)、也、可、使《させる》、従《じゅうじする》、政、也、与《か》？」

曰。「求(＝冉有)、也、芸。於、従《じゅうじする》、政、乎、何、有？」

季康子が孔子 先生に、子路について質問した。「子路を、政治に従事させる事は可能ですか？」、「子路は政治能力が有りますか？」。

孔子 先生は言った。「子路は、なにごとにも果敢に、とりくみます。政治に従事して、何か問題が有るでしょうか？ いいえ！ 問題無く政治を行えます！」

季康子は言った。「子貢は政治能力が有りますか？」

孔子 先生は言った。「子貢は、さまざまなことに通達しています。問題無く政治を行えます！」

季康子は言った。「冉有は政治能力が有りますか？」

孔子 先生は言った。「冉有には、『芸』、『学習してえた技術と能力』があります。問題無く政治を行えます！」

雍也第六 第七章

季氏、使、閔子騫、為、『費』、宰。

閔子騫、曰。「善、為、我、辞、焉。如、有、復、我、者、則、吾、必、在、『汶』、上、矣」

季氏が、孔子の弟子である閔子騫を、「費」の「宰」、「長として司って取り仕切る者」に成らせようとした。

閔子騫は言った。「私（、閔子騫）のためをよく思って辞めなさい。もし、また、私（、閔子騫）を『費』の『宰』、『長として司って取り仕切る者』に成らせようとする者がいたら、私（、閔子騫）は必ず、（逃げて）『汶水』という川の水上に（いて漁師と成って）いるであろう」

雍也第六 第八章

伯牛、有、疾(やまい)。

子、問、之(これ)、自(より)、牖(まど)、執(とる)、其(その)手、曰。「亡(ない)、之(これ)、命、矣、夫。斯(この)人、也、而、有、斯疾(このやまい)、也。斯(この)人、也、而、有、斯(この)疾、也」

伯牛が病気に成ってしまった。

孔子 先生は、この伯牛を訪問して、窓から、その伯牛の手をとってみて、言った。「この病気では命が亡くなってしまう。こんな善人でも、こんな病気に成ってしまうのか。こんな善人でも、こんな病気に成ってしまうのか」（。孔子は悲しんだ。）

雍也第六 第九章

子、曰。「賢、哉、回(＝顔回)、也。『一箪』、食。『一瓢』、飲。在、『陋巷』。人、不、堪、其(その)憂。回(＝顔回)、也、不、改、其(その)楽。賢、哉、回(＝顔回)、也」

孔子先生は言った。「顔回は賢者である。『一箪』、『竹製の容器一つ分の少量』の食事。『一瓢』、『ひょうたん製の容器一つ分の少量』の飲み物。『陋巷』、『狭い路地』にいる。他人は、その憂いに忍耐できないであろう。顔回は、その安楽な生き方を改悪しない。顔回は賢者である」

雍也第六 第十章

冉求(＝冉有)、曰。「非、不、説(よろこぶ)、子之道。力不足、也」

子、曰。「力不足、者(もの)、中道、而、廃。今、女(なんじ)、画(かぎる)」

あるとき、冉有が孔子先生に言った。「孔子先生の『道』、『言葉』を喜ばない訳ではないのです。しかし、(孔子先生の言葉通りに行うには、私、冉有では、)力不足なのです」

孔子先生は言った。「力不足の者は途中で破滅します。今、あなた(、冉有)は思い込みで自分の限界を勝手に決めてしまっただけです」

雍也第六 第十一章

子、謂、子夏、曰。「女(なんじ)。為(なる)、君子、儒。無(なかれ)、為(なる)、小人、儒」

孔子先生は子夏に言った。「あなた(、子夏)よ。王者の『儒』、『学徒』、『教師』に成りなさい。矮小な人の『儒』、『学徒』、『教師』に成るなかれ」

雍也第六 第十二章

子游、為(なる)、「武城」、宰。

子、曰。「女(なんじ)、得、人、焉、耳、乎?」

曰。「有、澹台滅明、者(もの)。行、不、由(よる)、径(ぬけみち)。非、公事、未、嘗(かつて)、至、於、偃(=子游)之室、也」

子游が「武城」の「宰」、「長として司って取り仕切る者」に成った。

孔子先生は言った。「あなた(、子游)は、優れた善い人を部下として得ることができましたか?」

子游は言った。「澹台滅明という者がいます。抜け道を行おうとしません。公事でなければ、未だかつて、上司である私、子游の部屋に到来しません」

雍也第六 第十三章

子、曰。「孟之反(もうしはん)、不、伐(ほこる)。奔(まけてにげる)、而、殿(しんがり)。将(まさに)、入、門、策(たたく)、其(その)馬、曰。『非、敢、後(おくれる)、也。馬、不、進、也』」

孔子 先生は言った。「孟之反(もうしはん)というものは、自慢しなかった。戦争に負けて逃げても、『殿(しんがり)』、『最後尾で先に逃走している自軍を守る事』を務めた。まさに自軍の城の門から中に入ろうとした時に、自分の馬を(軽く)叩いて言った。『私、孟之反(もうしはん)は、あえて遅れて最後尾で自軍を守ったわけではないのです。馬が私、孟之反(もうしはん)に反抗して進んでくれなかったのです』」(。孟之反は他人を思いやって嘘をついて自慢しなかった。)

雍也第六 第十四章

子、曰。「不、有、『祝』、『鮀』之佞、而、有、宋、『朝』之美、難、乎、免、於、今之世、矣」

孔子先生は言った。「『祝』という役職を務めた鮀の口先と、宋という国の朝という人の美貌が無ければ、今の世において、災難を免れる事は難しいかな」

雍也第六 第十五章

子、曰。「誰、能、出、不、由（よる）、戸？ 何、莫（ない）、由、斯（この）道、也？」

孔子先生は言った。「戸(、門)によってではなく誰が家を出る事が可能であろうか？ いいえ！ 不可能である！ どうして(人々は言動や生き方が)『道』、『真理』による物ではないのか？」

雍也第六 第十六章

子、曰。「質、勝、文、則、野。文、勝、質、則、『史』。文、質、『彬彬』、然、後、君子」

孔子　先生は言った。「先天的な性質が、(後天的な言葉による)文字による学よりも勝っている者は、粗野なのである。(後天的な言葉による)文字による学が、先天的な性質よりも勝っている者は、『史』、『記録を書くだけの(融通が利かない)役人』のような者に過ぎないのである。(後天的な言葉による)文字による学と、先天的な自然な性質が、『彬彬』と調和した後に王者と成るのである」

雍也第六 第十七章

子、曰。「人、之、生、也、直。罔、之、生、也、幸、而、免」

孔子 先生は言った。「人は正直に正しく生きるべきである。正しさ無しでも生きていられるのは、幸いにして免れているに過ぎないのである」

雍也第六 第十八章

子、曰。「知、之、者、不如、好、之、者。好、之、者、不如、楽、之、者」

孔子 先生は言った。「あるものを知っている者は、それを(労苦しても)好きな者には及ばない。あるものを(労苦しても)好きな者は、それを(苦を苦と思わない)安楽に楽しんでいる者には及ばない」

雍也第六 第十九章

子、曰。「中、人、以上、可、以、語、上、也。中、人、以下、不、可、以、語、上、也」

孔子 先生は言った。「(上へ引き上げるために、)中央以上(、平均以上)の人達には上の物事を語るべきである。(理解させる事ができないので、挫折するかもしれないので、)中央以下(、平均以下)の人達には上の物事を語るべきではない」

雍也第六 第二十章

樊遲、問、知。

子、曰。「務、民之義。敬、鬼神、而、遠、之。可、謂、知、矣」

問、仁。

曰。「仁者、先、難、而、後、獲。可、謂、仁、矣」

樊遅が孔子 先生に「知者(とは、どのような者であるのか?)」について質問した。

孔子 先生は言った。「(知者は、)国民が正義としている事を務めとする。『鬼神』、『神霊』を敬っているので、(知者ではない人々とは)逆に、神霊から遠ざかって遠慮する。(このようにする者が、)知者と言えるかな」

樊遅が「仁者」、「思いやり深い知者」について質問した。

孔子 先生は言った。「思いやり深い知者は、『苦難』、『労苦』(、『学習』)を先にしてから、後で利益を獲得する事に成る。(このように成った者が、)思いやり深い知者と言えるかな」

雍也第六 第二十一章

子、曰。「知者、楽、水。仁者、楽、山。知者、動。仁者、静。知者、楽。仁者、寿（ことばでしゅくふくする）」

孔子 先生は言った。「知者は水を楽しむ。思いやり深い知者は山を楽しむ。(知者は『山水』、『風景』、『自然』を楽しむ。)知るために考える者は(乱読したり考察したりするといった)行動をする。知り終わった思いやり深い知者は静かに落ち着く。知り終わった知者は安楽に安らぐ。思いやり深い知者は言葉で祝福する」

雍也第六 第二十二章

子、曰。「斉、一変、至、於、魯。魯、一変、至、於、道」

孔子 先生は言った。「斉という国は一変すれば、魯という国の状態に到達するであろう。魯という国は一変すれば、有道な正しい国家の状態に到達するであろう」

雍也第六 第二十三章

子、曰。「觚、不、觚。觚、哉？　觚、哉？」

孔子先生は言った。「『觚』という『祭器』が(改悪されてしまったため、失礼な形に成り下がってしまったので)『觚』という『祭器』ではなく成ってしまった。(あんな物が)『觚』という『祭器』であろうか？　いいえ！　(あんな物が)『觚』という『祭器』であろうか？　いいえ！」

雍也第六 第二十四章

宰我、問、曰。「仁者、雖(いえども)、告、之(これ)、曰、『井(いど)、有、仁(人)、焉』、其(それ)、従(したがう)、之(これ)、也?」

子、曰。「何為(どうして)、其(それ)、然(しかる)、也? 君子、可、逝(いく)、也。不、可、陥、也。可、欺(ばかにする)、也。不、可、罔(あざむく)、也」

宰我は孔子先生に質問して言った。「思いやり深い知者でも、その思いやり深い知者に『井戸の中に人が落ちてしまっている』と言えば、この言葉に従ってしまうでしょうか?」

孔子先生は言った。「どうして、そうなのか? 思いやり深い知者である王者を、歩かせる事は可能であろう。しかし、悪へと陥落させる事は不可能である。(『嘘を見破れなかった』と悪口を言って)馬鹿にする事は可能である。しかし、あざむいて悪へと陥落させる事は不可能である」

雍也第六 第二十五章

子、曰。「君子、博学、於、文。約(ようやくする)、之(これ)、以、礼、亦、可、以、弗(ない)、畔(いはんする)、矣、夫」

孔子先生は言った。「王者は、(言葉による)文字による学問に博学である。(礼儀によって学を要約すれば、また、さらに、(礼(『敬い思いやる』という)礼儀や法に)違反しないであろう」

雍也第六 第二十六章

子、見(あう)、南子。

子路、不、説(よろこぶ)。

夫子、矢(ちかう)、之(これ)、曰。「予、所、否(わるい)、者(あれば)、天、厭(きらう)、之(これ)。天、厭(きらう)、之(これ)」

あるとき、孔子 先生が、悪女である南子と会った。

すると、子路が不快感を表した。

孔子 先生は(天の神に)誓って、子路に言った。「私(、孔子)に悪い所があれば(、南子と会う事で、私、孔子に非が有れば)、天の神は、この私(、孔子)を嫌うはずである。天の神は、この私(、孔子)を嫌うはずである(。そして天罰を与えるであろう。私、孔子に非が有れば、そう成ってもよい。しかし、天罰を受けていないので、私、孔子に非は無い)」

雍也第六 第二十七章

子、曰。「中庸、之、為、徳、也、其、至、矣、乎。民、鮮、久、矣」

孔子先生は言った。「『中庸』、『極端に走らない事』（、『節制』）という『徳』、『善行』は至上の善行であるかな。（しかし、）長い間、中国の国民には『中庸』、『極端に走らない事』、『節制』という『徳』、『善行』をしている人が少ないのである」（節制は善行の基礎と成る。）

雍也第六 第二十八章

子貢、曰。「如、有、博、施、於、民、而、能、済、衆、何如？ 可、謂、仁、乎？」

子、曰。「何、事、於、仁？ 必、也、聖、乎。堯、舜、其、猶、病、諸。夫、仁者、己、欲、立、而、立、人。己、欲、達、而、達、人。能、近、取、譬。可、謂、仁之方、也、已」

子貢が孔子 先生に言った。「もし広く国民に施しをして、多数の人達を救う事が可能であれば、どうでしょう？ 思いやり深い知者と言えますか？」

孔子 先生は言った。「どうして『思いやり深い知者』という事、範疇に留まるであろうか？ いいえ！ 知者を超越している！ きっと、『聖者』、『神のような者』であろう。聖王である堯と舜ですらなお、そのようにできない事を気に病んでいたのである。思いやり深い知者は、自己を確立したいと欲して、他人を確立させる事に成る。自己を真理に到達させたいと欲して、他人を真理に到達させる事に成る(。『真理とは思いやりである』と言えるからである)。例え話を身近な物事に取り入れて採用して適用、応用できるのが、思いやり深い知者の方法なのである、と言えるのみである」

述而第七

述而第七 第一章

子、曰。「述、而、不、作。信、而、好、古。竊(ひそかに)、比、於、我(われ)、老彭」

孔子 先生は言った。「(私、孔子は、古代の事を)述べているが、捏造して創作したりしていない。古代のものを信じているし、好んでいる。密かに私(、孔子)を老彭と比べている」

述而第七 第二章

子、曰。「黙、而、識、之(これ)。学、而、不、厭(あきる)。誨(おしえる)、人、不、倦(あきる)。何、有、於、我、哉？」

孔子先生は言った。「沈黙して理解する。学んで飽(あ)きない。他人を教えて飽きない。他に何か私（、孔子）に有るであろうか？　いいえ！　私（、孔子）に有るのは、それだけである！」

述而第七 第三章

子、曰。「徳、之、不、修。学、之、不、講。聞、義、不能、徙。不善、不能、改。是、吾憂、也」

孔子先生は言った。「『徳』、『善行』を修行できない。学んだ事を稽古できない。正義について聞いても行動に移す事ができない。『悪行』を改め(て『善行』をす)る事ができない。これらが、私(、孔子)が憂いている事なのである」

述而第七 第四章

子、之、「燕居」、「申申」、如、也。「夭夭」、如、也。

孔子先生の「燕居」、「自宅での寛ぎ方」は「申申」と「夭夭」と安穏と伸び伸び伸びとしている。

述而第七 第五章

子、曰。「甚、矣、吾(わが)衰、也。久、矣、吾(われ)、不、復、夢、見、周公」

孔子 先生は言った。「私(、孔子)は、ひどく衰えてしまった。また周公を夢に見る事が無く成って久しく成ってしまった」

述而第七 第六章

子、曰。「志、於、道。拠、於、徳。依、於、仁。游（あそぶ）、於、芸」

孔子先生は言った。「(私、孔子は、今でも)『道』、『真理』を志している。『徳』、『善行』を拠（よ）り所としている。『仁』、『思いやり』を拠（よ）り所としている。『芸』、『学んで得た学』に遊戯している」

述而第七 第七章

子、曰。「自、行、『束脩』、以上、吾、未、嘗、無、誨、焉」

孔子先生は言った。「(孔子の弟子が)『束脩』、『束ねた干し肉などを入門する師への贈り物とする礼儀作法』を行ってから、私(、孔子)が(弟子を)教えなかった事は未だかつて無い」

述而第七 第八章

子、曰。「不、憤（ふるいたつ）、不、啓。不、悱（うまくいいあらわせずになやむ）、不、発。挙、一隅、不、以、三隅、反（かえす）、則（すなわち）、不、復（また）、也」

孔子先生は言った。「弟子が奮い立たなければ、私、孔子は啓発しない。弟子が真理を上手く言い表せずに悩む事をしなければ、私、孔子は真理について言い表さない。私、孔子が一隅を挙げてみせても、弟子が残りの全ての物事を挙げ返してみせなければ、私、孔子は、さらに何かしてあげない」

述而第七 第九章

子、食、於、有、喪、者（もの）、之（の）、側（そば）、未、嘗（かつて）、飽、也。子、於、是（この）日、哭、則（すなわち）、不、歌。

孔子先生は、家族の葬儀が有る者のそばにいて食べた時は、(同情して食事が喉を通らず、)未だかつて満腹に成るまで食べる事ができなかった。孔子先生は、その葬儀の日に(同情して)泣いてしまい、楽しく歌う事ができなかった。

述而第七 第十章

子、謂、顔淵(=顔回)、曰。「用、之、則、行。舎、之、則、蔵。唯、我、与、爾、有、是、夫」

子路、曰。「子、行、三軍、則、誰、与?」

子、曰。「暴、虎、馮、河、死、而、無、悔、者、吾、不、与、也。必、也、臨、事、而、懼、好、謀、而、成、者、也」

孔子先生は顔回について言った。「採用されれば、遂行する。捨て置かれれば、姿を隠す。ただ私、孔子と、あなた、顔回だけが、このようにできるのである」

子路が孔子先生に言った。「孔子先生は、三つの軍団を率いるならば、誰と共に率いますか?」

孔子先生は言った。「虎を素手で討ったり、大河を徒歩で渡ったり、死んだりしても後悔しない者と、私(、孔子)は行動を共にしない。必ず、物事に臨んで、適切に危険な点を恐れて、好んで策謀をなす者と、私、孔子は行動を共にする」

述而第七 第十一章

子、曰。「富(とみ)、而、可、求、也、雖(いえども)、「執鞭之士」、吾(われ)、亦、為、之(これ)。如(もし)、不可、求、従、吾(わが)、所、好」

孔子 先生は言った。「『富』、『金銭』だけを求めるべきであるならば、『執鞭の士』、『卑賤な下級の低級の役人』といえども、(人々と同様に)私(、孔子)もまた成ろう。しかし、金銭だけを求めるべきではないのであれば、自分が愛好する所のもの(である真理、善、知、善人、賢者)に従おう」

述而第七 第十二章

子、之、所、慎、斎、戦、疾。

孔子先生が慎重に対応したのは、祭儀のために節制して身を清める事、戦争、病気である。

述而第七 第十三章

子、在、斉、聞、韶、三月、不、知、肉、味。曰。「不、図、為(なす)、楽、之(の)、至、於、斯(ここ)、也」

孔子先生は、斉という国にいた時に、韶という音楽を聞いて(夢中に成って)、三か月間、(食事の)肉の味を知覚しなかったほどであった。孔子先生は言った。「音楽(の歌詞や音声の思想)が、これほどの高い段階にまで至る事ができるとは思わなかった」

述而第七 第十四章

冉有、曰。「夫子、為（たすける）、衛、君、乎？」

子貢、曰。「諾（ひきうける）。吾（われ）、将（まさに）、問、之（これ）」

入、曰。「伯夷、叔斉、何、人、也？」

曰。「古之賢人、也」

曰。「怨、乎？」

曰。「求、仁、而、得、仁。又、何、怨？」

出、曰。「夫子、不、為（たすける）、也」

あるとき、冉有が言った。「孔子先生は衛という国の君主を助けるのかな？」

子貢が言った。「引き受けましょう。私（、子貢）も、まさに、それを孔子先生に質問しようとしていました」

子貢が孔子 先生の部屋に入って言った。「伯夷と叔斉は、どのような人でしょうか?」

孔子 先生は言った。「(伯夷と叔斉は、)古代の賢者である」

子貢が言った。「(伯夷と叔斉は、)怨んだでしょうか?」

孔子 先生は言った。「(伯夷と叔斉は、)思いやり深い知を探求して得たのである。どうして怨んだであろうか? いいえ!」

子貢が孔子 先生の部屋を出て冉有に言った。「孔子 先生は衛という国の君主を助けない」

述而第七 第十五章

子、曰。「飯、疏、食。飲、水。曲、肱(ひじ)、而、枕、之(これ)。楽、亦、在、其中、矣。不義、而、富、且(かつ)、貴、於、我(われ)、如(のよう)、浮雲」

孔子 先生は言った。「粗食を食べる。水を飲む。肘(ひじ)を曲げて枕にする。それらの中に安楽が在る。『不義』、『悪行』をして金銭に富んで、かつ、高貴な地位である事は、私(、孔子)にとって浮雲のよう(に危うい事)なのである」

述而第七 第十六章

子、曰。「加、我、数年、五十、以、学、易、可、以、無、大、過、矣」

孔子 先生は言った。「私(、孔子)に数年間を加えて五十歳に成ってから、(陰と陽による)『易』(による神託)を学べば、大きな過ちは無いであろう」

述而第七 第十七章

子、所、雅言、詩、書、執礼。皆、雅言、也。

孔子 先生は、「詩経」と「書経」を読み書きしたり話したり、礼儀作法を執り行ったりする時は上品な正しい言葉であったし、言葉を読み書きしたり話したりする時は皆、上品な正しい言葉であった。

述而第七 第十八章

葉公、問、孔子、於、子路。

子路、不、対(こたえる)。

子、曰。「女(なんじ)、奚(なぜ)、不、曰。『其為人(そのひととなり)、也、発、憤、忘、食。楽、以、忘、憂。不、知、老、之(の)、将(まさに)、至、云爾(のみ)』」

葉公が、孔子先生について、子路へ質問した。

子路は(、孔子先生を畏敬しているので「孔子先生を言い表すのは難しい」と考えて、)答えなかった。

孔子先生は言った。「あなた(、子路)は、なぜ言わない。『(私、孔子は、)その人となりは、(真理の探求に)『発憤』、『発奮』して寝食を忘れるほどである。(真理を)楽しんで憂いを忘れるほどである。(真理を探求して、)まさに老いに至る事を認知せず忘れるほどであるだけなのである』と」

述而第七 第十九章

子、曰。「我、非、生、而、知、之、者。好、古、敏、以、求、之、者、也」

孔子先生は言った。「私(、孔子)は、生まれながらに真理について知っている者ではない。古代の知恵を好んで機敏に真理を探求している者なのである」

述而第七 第二十章

子、不、語、怪、力、乱、神。

孔子先生は(大衆には)奇怪な異常現象、不思議な力、混乱をもたらす物事、神について語らなかった。

述而第七 第二十一章

子、曰。「三人、行、必、有、我(わが)師、焉。択、其(その)善者、而、従、之(これ)。其(その)不善者、而、改、之(これ)」

孔子 先生は言った。「三人くらいの人が行動していると、必ず、自分の教師がいる物である。それらの者達のうち、善良な者を選択して、その善良な者の善行に従(って行)うのである。それらの者達のうち、不善な者を選択して、その不善な者の悪行を(反面教師にして自分において)改めるのである」

述而第七 第二十二章

子、曰。「天、生、徳、於、予。桓魋、其、如予何？」

孔子先生は言った。「天の神が、私(、孔子)に『徳』、『善行』を生じさせてくれているのである。桓魋といった悪人は私(、孔子)をどうにかできない！」

述而第七 第二十三章

子、曰。「二三子、以、我、為、隠、乎？ 吾、無、隠、乎爾。吾、無、行、而、不、与、二三子、者。是、丘(＝孔子)、也」

孔子先生は言った。「あなた達は『私(、孔子)は(真理といった、)何かを隠している』と見なしますか？ 私(、孔子)は隠していないばかりなのである。私(、孔子)は、あなた達と共に行動していない事が無い(。私、孔子は必ず、あなた達と共に行動している)。これが私、孔子なのである」

述而第七 第二十四章

子、以、四、教。文、行、忠、信。

孔子先生は、(言葉による)文字による学(である知である真理)、善行、目上の人達や年上の人達などへの誠実さ、友人達などへの誠実さという四つの物について教えてくれた。

述而第七 第二十五章

子、曰。「聖人、吾(われ)、不、得、而、見、之(これ)、矣。得、見、君子、者(もの)、斯(これ)、可、矣」

子、曰。「善人、吾(われ)、不、得、而、見、之(これ)、矣。得、見、有、恒(つね)、者(もの)、斯(これ)、可、矣。亡(ない)、而、為(なす)、有。虚、而、為(なす)、盈(みちあふれている)。約(ちぢまる)、而、為(なす)、泰(あんたい)。難、乎、有、恒(つね)、矣」

孔子先生は言った。「『聖人』、『神のような者』を私(、孔子)は得て見た事が無い。王者である者を得て見る事は可能である」

孔子先生は言った。「(完全な)善人を私(、孔子)は得て見た事が無い。平常心でいる者を得て見る事は可能である。(正しい心が)無いのに『有る』と見なしてしまう。(心が)空虚であるのに『(善い物で心が)満ちあふれている』と見なしてしまう。小さくまとまっているだけなのに『安らいで落ち着いている』と見なしてしまう。(このような者は、)平常心でいる事は難しい」

述而第七 第二十六章

子、釣、而、不、綱。弋、而、不、射、宿。

孔子先生は、(魚を一匹ずつ)釣ったが、(食べるには多過ぎる魚を一網打尽にしてしまう)網漁はしなかった。(戦闘訓練として)弓で矢を(飛んで動いている)鳥に射たが、木に止まっていたり巣にいたりする鳥を射なかった。(孔子は、食べるためと戦闘訓練のため以外で、不要な殺生はしなかった。)

述而第七 第二十七章

子、曰。「蓋、有、不、知、而、作、之、者。我、無、是、也。多、聞、択、其善者、而、従、之。多、見、而、識、之。知之次、也」

孔子先生は言った。「考えるに、知らない物事について捏造して創作してしまう者どもがいる。しかし、私(、孔子)は、そのように捏造して創作したりしない。情報を多く聞いてから、それらのうち善良な者による正しい情報を選択して、その正しい情報に従う。多く見てから、それらを理解する。(これらが、真理について)知った後にする事である」

述而第七 第二十八章

「互郷」、難、与、言。

童子、見。

門人、惑。

子、曰。「与、其、進、也。不、与、其、退、也。唯、何、甚？ 人、潔、己、以、進。与、其、潔、也。不、保、其、往、也」

「互郷」という場所の人々は、他人には口にしづらい人々であった。（「互郷」という場所の人々は差別されていた。）

「互郷」の幼子が孔子 先生に会おうとした。

孔子 先生の「門人」、「弟子」は(「差別されている『互郷』の人を孔子先生に会わせて良いのか？ 『孔子 先生が差別されている『互郷』の人と会ってしまった』と、孔子 先生に対する大衆からの評判が傷つくのでは？」と)困惑してしまった。

孔子 先生は言った。「人は他人の『進歩』、『前進』、『向上』に協力する(べきである)。人は他人の『退化』、『悪化』、『堕落』に協力しない(し、してはいけない)。(あなた達、弟子達よ。)どうして、ひたすら、ひどいのか? 人は自己(の心)を清めてから『進歩』、『前進』、『向上』する。人は『他人が(心を)清めた』という理由で他人に協力する。人は自分の過去の状態を保持し続けない(。正しい人は悔い改めて、より正しく成っていく。悪人は、より悪く成っていく)」(。孔子 先生は差別しなかった。孔子 先生は大衆からの評判を気にせず正しい言動をした。)

述而第七 第二十九章

子、曰。「仁、遠、乎、哉？ 我、欲、仁、斯（ここに）、仁、至、矣」

孔子 先生は言った。「思いやりや知恵は、遠くにあるのか？ いいえ！ 私(、孔子)が欲すると(、求めると)、そこに思いやりや知恵は到来してくれるのである」(。聖書で人に成った神イエスは「求めなさい。そうすれば、与えられる」と話している。)

述而第七 第三十章

陳、司敗、問。「昭公、知、礼、乎？」

孔子、対(こたえる)、曰。「知、礼」

孔子、退。

揖、巫馬期、而、進、之(これ)、曰。「吾(われ)、聞。『君子、不、党』。君子、亦、党、乎？ 君、取、於、呉、為(なる)、同姓、謂、之(これ)、呉孟子。君、而、知、礼、孰(だれが)、不、知、礼？」

巫馬期、以、告。

子、曰。「丘(＝孔子)、也、幸。苟(かりに)、有、過(あやまち)、人、必、知、之(これ)」

陳という国の司敗が孔子 先生に質問した。「昭公は礼儀作法を知っていますか？」

孔子 先生は答えて言った。「(昭公は)礼儀作法を知っています」

孔子 先生は退出した。

陳の司敗は、孔子 先生の弟子である巫馬期に会釈して、巫馬期を(呼んで)前に進ませて、言った。「私(、陳の司敗)は、このように聞いています。『王者は党派者ではない』と。しかし、王者もまた党派者に成ってしまうのでしょうか？　昭公という君主は、呉という国から、(礼儀作法に違反して)同姓の女性を娶ってしまったので、この同姓の女性を『呉孟子』、『呉という国からの長女の(義理の)娘』と呼んで(誤魔化してしまって)いる。昭公という君主が礼儀作法について知っているならば、誰もが礼儀作法について知っている事に成ってしまう！　いいえ！　昭公という君主は礼儀作法を知らない！」

巫馬期は孔子 先生に陳の司敗の言葉を告げた。

孔子 先生は言った。「私、孔子は幸福である。仮に、私、孔子に過ちが有れば、他人は、それを知ってくれる」(。自分の過ちを他人が知ってくれないのは、実は、不幸である。自分の過ちが「正しい」として広まってしまうかもしれない。)

述而第七 第三十一章

子、与、人、歌、而、善、必、使、反、之、而、後、和、之。

孔子先生は、他人と共に歌っていて、(他人の歌が)善ければ、必ず、他人に、それをくり返させて、それに調和するように自分も歌った。

述而第七 第三十二章

子、曰。「文、莫、吾、猶、人、也？ 『躬行』、君子、則、吾、未、之、有、得」

孔子 先生は言った。「(言葉による)文字による学は、私、孔子も、他人と同様である！ しかし、王者らしい言動を『躬行』、『実践』する事は、私、孔子は、未だでき得た事が無い」

述而第七 第三十三章

子、曰。「若(のよう)、聖、与(と)、仁、則(すなわち)、吾(われ)、豈、敢？ 抑(そもそも)、為(なす)、之(これ)、不、厭。誨(おしえる)、人、不、倦。則(すなわち)、可、謂、云、爾(しかり)、已矣(のみ)」

公西華(＝子華)、曰。「正(まさに)、唯、弟子、不能、学、也」

孔子先生は言った。「どうして私、孔子は、あえて『聖者、神のような者である』と言ったり『思いやり深い知者である』と言ったりするであろうか？ いいえ！ そもそも、神のような言動と思いやり深い言動をする事に飽(あ)きない。神のような言動と思いやり深い言動について他人に教えて飽(あ)きない。『そうしている』と言うだけである、と言える」

子華が言った。「正(まさ)に、私達、孔子先生の弟子達は、ただ、それらを学習して模倣できないのです」

述而第七 第三十四章

子、疾病。

子路、請、祷(いのる)。

子、曰。「有、諸(これ)?」

子路、対(こたえる)、曰。「有、之(これ)。誄(ちょうじ)、曰。『祷(いのる)、爾(なんじ)、于、上下、神祇』

子、曰。「丘(=孔子)之祷、久、矣」

ある時、孔子 先生が病気に成ってしまった。

子路は「孔子 先生の病気が治るように、神に祈りたい」と孔子 先生に請い願った。

孔子 先生は言った。「そんな前例が有りますか?(駄目です)」

子路は孔子 先生に答えて言った。「そのような前例が有ります。死者への別れの言葉である弔辞で言われています。『(死んだ、)あなたの御冥福について(天の)上下の神々に祈ります』と」

孔子先生は言った。「私、孔子は長い間、神々に祈り続けてきています。（だから、駄目です）」

述而第七 第三十五章

子、曰。「奢、則（すなわち）、不遜。倹（ちぢまる）、則（すなわち）、固。与（よりも）、其（その）不遜、也、寧（むしろ）、固」

孔子 先生は言った。「(何事でも)度を越していると、不遜にも思い上がってしまう。『小さくまとまろう』とすると、頑固に成ってしまう。不遜にも思い上がってしまうよりもむしろ頑固であるほうがましかな(。思い上がりは最悪である)」

述而第七 第三十六章

子、曰。「君子、坦、『蕩蕩』。小人、長、『戚戚』」

孔子 先生は言った。「王者は『蕩蕩』と安穏としていて寛大である。矮小な人は長々と『戚戚』と心配して悲しんだり恐れたりしてしまう」

述而第七 第三十七章

子、温、而、厲。威、而、不、猛。恭、而、安。

孔子先生は、温厚ではあるが、適切に厳しい。(慎重なので)威厳が有るが、荒々しい粗野な乱暴な態度や言動ではない。(目上の人達や年上の人達を)恭しく敬うが、(へつらっていないので、臆病者ではないので、権力などに弱い小心者ではないので、)安らかに落ち着いている。

泰伯第八

泰伯第八第一章

子、曰。「泰伯、其、可、謂、至、徳、也、已、矣。三、以、天下、譲、民、無、得、而、称、焉」

孔子先生は言った。「泰伯は『徳』、『善行』の至りである、と言えるばかりである。三回も天下を譲ったが、(自身も善政をしたし、国家を譲るべき相手に適切に譲ったので、譲った相手も善政をしたので、)国民は(泰伯による国譲りに気づく事ができず)、ほめたたえる事ができ得なかった」

泰伯第八 第二章

子、曰。「恭、而、無礼、則、労。慎、而、無礼、則、葸。勇、而、無礼、則、乱。直、而、無礼、則、絞。君子、篤、於、親、則、民、興、於、仁。故旧、不、遺、則、民、不、偸」

孔子先生は言った。「恭しくしても、無礼であれば、労苦する羽目に成ってしまう。(自身については)慎重でも、(他人に対しては)無礼であれば、恐れなければいけない羽目に成ってしまう。勇敢でも、無礼であれば、混乱をもたらしてしまう。正直でも、無礼であれば、自分の首を絞めてしまう。王者が父母と血族に手厚ければ、国民も思いやりに奮い立ってくれる。王者が『故旧』、『古くからの知人』を忘れなければ、国民も薄情ではない」

泰伯第八 第三章

曾子、有、疾、召、門弟子、曰。「啓、予、足。啓、予、手。詩、云。『戦戦兢兢、如、臨、深淵。如、履、薄冰』。而今而後、吾、知、免、夫。小子」

曾子先生は、病気に(成って死にそうに)成ると、弟子を呼んで言った。「私の足を開いてみなさい。私の手を開いてみなさい(。私、曾子の手足には傷が無い。私、曾子は父母からもらった身体髪膚を傷つけていない)。『詩経』で言われている。『戦々恐々と、深淵に臨むように(慎重に)しなさい。薄氷を踏むように(慎重に)しなさい』と。今後、私は、(死ぬので、)それ(、慎重にして父母のために身体髪膚を傷つけない義務)を免除される事を知りました」

泰伯第八 第四章

曾子、有、疾。

孟敬子、問、之。

曾子、言、曰。「鳥、之、将、死、其鳴、也、哀。人、之、将、死、其言、也、善。君子、所、貴、乎、道、者、三。動、容貌、斯、遠、暴、慢、矣。正、顔色、斯、近、信、矣。出、辞気、斯、遠、鄙、倍、矣。『籩豆』之事、則、『有司』、存」

曾子 先生は病気に成ってしまった。

孟敬子が、この曾子 先生を訪問した。

曾子 先生は言った。「鳥が死ぬ時、その鳴き声は悲しい。人が死ぬ時、その遺言は善い。王者が道理として高貴であると尊重する所の物が三つ有る。容貌を動かす時には、乱暴、傲慢を遠ざかる。顔色を正す時には、誠実さに近づく。言葉を口に出す時には、『辞気』、『言葉遣い』を下品さと、正義に違反する事から遠ざかる。『籩豆』、『礼儀』の事については、『有司』、『それを司る役人』が存在する(ので任せる)」

泰伯第八 第五章

曾子、曰。「以、能、問、於、不能。以、多、問、於、寡。有、若、無。実、若、虚。犯、而、不、校。『昔者』、吾友、嘗、従事、於、斯、矣」

曾子先生は言った。「才能が有っても、非才の人にも質問する。知識が多くても、知識が少ない人にも質問する。学が有っても、無学であるかのように質問する。知識に満ちていても、知識が無いかのように質問する。他人が過ちを犯しても、(正しい人は許して)正さない。昔、私(、曾子)の友人が、かつて、これらの事に取り組んでいた」(。曾子は顔回について言っている、という説が有力のようである。)

泰伯第八 第六章

曾子、曰。「可、以、託、『六尺之孤』。可、以、寄、『百里之命』。臨、『大節』、而、不可、奪、也。君子、人、与?　君子、人、也!」

曾子先生は言った。「幼子の孤児を託す事が可能である人。約百里の広さである諸侯の大国の命運を任せる事が可能である人。『大節』、『国の一大事』に臨んで(大変で)も(他人が)心を奪う事が不可能である人。王者である人であろうか?　王者である人である!」

泰伯第八 第七章

曾子、曰。「士、不可、以、不、『弘毅』。任、重、而、道、遠。仁、以、為、己、任、不、亦、重、乎？ 死、而、後、已、不、亦、遠、乎？」

曾子 先生は言った。「『士』、『一人前の人』は、『弘毅』、『心が広く寛大であるし、意思が強い』べきである。(思いやりという)任務は重いし、道は長い。思いやりを自分の任務とするのは、重くはないか？ 死後に、(思いやりという任務を)終える事ができるのは、重くはないか？」

泰伯第八 第八章

子、曰。「興、於、詩。立、於、礼。成、於、楽」

孔子 先生は言った。「詩によって奮い立つ。礼儀によって確立する。音楽によって形成する」

泰伯第八 第九章

子、曰。「民、可、使（させる）、由（もとづく）、之（これ）。不可、使（させる）、知、之（これ）」

孔子 先生は言った。「国民を真理に基づかせる事は可能である。しかし、国民に真理を知らせる事は不可能である(。厳密には真理は言い表す事ができないからである。国民が真理を知るには、王者に成る必要が有る。王者は欲望の奴隷ではない)」

泰伯第八 第十章

子、曰。「好、勇、疾、貧、乱、也。人、而、不仁。疾、之、已甚、乱、也」

孔子 先生は言った。「勇敢さを好んで、貧困を憎悪すると、混乱をもたらしてしまう。(普通の)人には思いやりや知が無い。思いやりや知が無い人を、度を越して憎悪すると、混乱をもたらしてしまう」

泰伯第八第十一章

子、曰。「如（もし）、有、周公之才、(周公)之美、使（かりに）、驕（おごりたかぶる）、且（かつ）、吝（ものおしみする）、其（その）余、不、足、観、也、已（のみ）」

孔子先生は言った。「もし周公の才能と美が有っても、仮に、思い上がっているし、かつ、(思いやりが無くて)物惜しみするならば、その他に何か長所が有っても、見るに値（あたい）しない人に過ぎない」

泰伯第八 第十二章

子、曰。「三年、学、不、至、於、穀、不、易、得、也」

孔子先生は言った。「(何かの分野の学問を)三年間、学んでも、(金銭の代わりの)穀物(や金銭)を稼ぐ事ができる段階にまで至る事ができないような人を得る事は難しいのである(。いない、と言える。三年間、何かの分野の学問を学べば、金銭を稼ぐ事ができる段階にまで至っているはずである。何でも三年間以上、学びなさい)」

泰伯第八 第十三章

子、曰。「篤、信。好、学。守、死。善、道。危、邦、不、入。乱、邦、不、居。天下、『有道』、則（すなわち）、見（あらわれる）。『無道』、則（すなわち）、隠。邦、有道、貧、且（かつ）、賤、焉、恥、也。邦、無道、富、且（かつ）、貴、焉、恥、也」

孔子先生は言った。「真心で誠実でいる。学を好む。死ぬ時ですら正義や倫理道徳を守る。道理を善（よ）く行う。危険な国には入国しない(。可能な限り、危険は回避する)。混乱している国にはいない(。亡命してしまう)。天下が有道であれば、(高位の者として表舞台に)現れる事ができる。天下が『無道』、『非道』であれば、姿を隠してしまう。国が『有道』なのに、貧しいし、かつ、卑賤な地位であるのは恥なのである。国が『無道』、『非道』なのに、金持ちであるし、かつ、高貴な地位であるのは恥なのである」

泰伯第八 第十四章

子、曰。「不、在、其位、不、謀、其政」

孔子先生は言った。「政治を行う地位、立場にいないのであれば、政治的な計画に口出ししてはいけない」

泰伯第八 第十五章

子、曰。「師摯、之、始、『関雎』、之、乱、『洋洋乎』、盈、耳、哉」

孔子先生は言った。「師摯が『関雎』をまとめ始めると、(音楽が)『洋洋乎と』、『無限に、ゆったりと』耳に満ちる」

泰伯第八 第十六章

子、曰。「狂、而、不、直。侗、而、不、愿。悾悾、而、不、信。吾（われ）、不、知、之（これ）、矣」

孔子 先生は言った。「熱狂的であるが、正直ではない人。愚直であるが、融通が利かない人。融通が利かないが、誠実ではない人。私(、孔子)は、このような人は知らない(。無視する)」

泰伯第八 第十七章

子、曰。「学、如（のよう）、不、及、猶、恐、失、之（これ）」

孔子 先生は言った。「学は、追いつけないかのように、次々と学んでいくが、今までの学を忘却して失ってしまう事を恐れ(て復習す)る」

泰伯第八 第十八章

子、曰。「『巍巍乎』、舜、禹、之(の)、有(たもつ)、天下、也。而、不、与(あずかる)、焉」

孔子 先生は言った。「『巍巍乎』と偉大である、聖王である舜と禹の天下の保持のし方は。(舜と禹は天下を保持したが、)しかし、(各分野を適切な臣下に適切に任せて、各分野に)直接的に関与しなかった」

泰伯第八 第十九章

子、曰。「大、哉、堯、之(の)、為(なる)、君、也。『巍巍乎』、唯、天、為(なす)、大。唯、堯、則(のっとる)、之(これ)。『蕩蕩乎』、民、無、能、名(なづける)、焉。『巍巍乎』、其(その)、有、成功、也。『煥乎』、其(その)、有、文章」

孔子先生は言った。「偉大である、聖王である堯の王としての在り方は。(堯は、)『唯一、天の神だけが巍巍乎と大いなる者である』と見なした。ただ堯は、この天の神を模倣した。堯の政治は『蕩蕩乎』と偉大過ぎて安らか過ぎて、国民は名前をつけて言い表す事ができなかった。『煥乎』と明らかに、その堯の政治についての文書が有るのにもかかわらず」

泰伯第八 第二十章

舜、有、臣、五人、而、天下、治。

武王、曰。「予、有、乱、臣、十人」

孔子、曰。「才、難。不、其、然、乎? 唐虞之際、於、斯、為、盛、有、婦人、焉、九人、而、已。三分、天下、有、其二、以、服、事、殷。周之徳、其、可、謂、至、徳、也、已、矣」

聖王である舜には、大臣が五人いて、それらで、天下を統治した。

武王は言った。「私(、武王)には(天下を)統治する大臣が十人いる」

孔子 先生は言った。「有能な人を獲得するのは難しい。そうではないか?! 『唐虞』、『堯と舜』の時代、この時代を(善政の)盛りと見なすが、婦人がいたので、(大臣は)九人だけであった。(周王朝は、)天下を三分して、その三分の二を所有していながら、殷に服従して仕えていた。『(周王朝は)徳の至りである』と言えるばかりである」

泰伯第八第二十一章

子、曰。「禹、吾、無、『間然』、矣。菲、飲食、而、致、孝、乎、鬼神。悪衣服、而、致、美、乎、『黻』、『冕』。卑、宮室、而、尽力、乎、『溝洫』。禹、吾、無、『間然』、矣」

孔子先生は言った。「聖王である禹に、私(、孔子)は『間然』、『口を挟む隙である欠点を見つけて非難する事』ができない。(禹は、)自分の飲食は粗末にして、自分の血族の霊や神霊を敬って立派な捧げものを捧げた。自分の衣服は粗悪にして、祭儀用の前掛けや冠を美しくした。自分の宮殿は(屋根が草である)粗末な建物にして、『溝洫』、『田畑などの水路』の整備に尽力した。禹に、私(、孔子)は『間然』、『口を挟む隙である欠点を見つけて非難する事』ができない」

子罕第九

子罕第九第一章

子、罕（まれに）、言、利、与（ともにする）、命、与（ともにする）、仁。

孔子先生は稀（まれ）に利益について話したが、命と共に話したし、思いやりと共に話した。

子罕第九 第二章

達巷、党、人、曰。「大、哉、孔子。博学、而、無、所、成、名」

子、聞、之、謂、門弟子、曰。「吾、何、執？ 執、御、乎？ 執、射、乎？ 吾、執、御、矣」

達巷という集落の人が言った。「大いなる者である、孔子先生は。博学過ぎて(一つの分野だけでは)名声を形成する事が無い」(。孔子は全分野に博学で言い表す事が難しい。)

孔子先生は、この言葉を聞いて、弟子に言った。「私(、孔子)は何を執ろうかな？ 御者を執ろうかな？ 弓を執って矢を射ろうかな？ 私(、孔子)は御者を執ろうかな」

子罕第九 第三章

子、曰。「麻、冕、礼、也。今、也、純、倹。吾、従、衆。拝、下、礼、也。今、拝、乎、上、泰、也。雖、違、衆、吾、従、下」

孔子先生は言った。「麻による冠が礼儀であるが、今は純粋な絹の糸による冠であるのは倹約のためなのである。私(、孔子)は、これについては大衆に従う。下で下から拝むのが礼儀である。今は上で拝むが傲慢なのである。大衆と違っても、私(、孔子)は下で下から拝む礼儀に従う」

子罕第九 第四章

子、絶、四。

毋、意。毋、必。毋、固。毋、我。

孔子 先生は四つの物を絶った。

不自然な意思を無くして絶った。必ず何かをすると誓う事を無くして絶った。固執を無くして絶った。我見を無くして絶った。

子罕第九 第五章

子、畏、於、匡、曰。「文王、既、没。文、不、在、茲（ここ）、乎？ 天之、将（まさに）、喪（ほろぼす）、斯（この）文、也？ 『後死』、者、不、得、与（あずかる）、於、斯（この）文、也。天之、未、喪（ほろぼす）、斯（この）文、也、匡、人、其（それ）、如予何（よ、いかん）？」

孔子 先生は匡で命を脅（おびや）かされた時に言った。「文王は既に死没されているが、文王による言葉による文字による知恵は、ここ(、孔子)に存在していないであろうか？ どうして天の神が、この(孔子の)言葉による文字による知恵を滅ぼすであろうか？ (孔子の)死後の者は、この(孔子の)言葉による文字による知恵にあずかる事ができ得なく成ってしまう。天の神が、この(孔子の)言葉による文字による知恵を未だ滅ぼさないのであれば、匡の人が私(、孔子)をどうにかできるであろうか？ いいえ！」

子罕第九 第六章

大宰、問、於、子貢、曰。「夫子、聖者、与(か)？ 何、其(その)多能、也？」

子貢、曰。「固(もとから)、天縦之将聖、又、多能、也」

子、聞、之(これ)、曰。「大宰、知、我(われ)、乎。吾(われ)、少、也、賤。故、多能、鄙事。君子、多、乎哉？ 不、多、也！」

大宰が子貢に質問して言った。「孔子 先生は聖者なのでしょうか？ どうして、孔子 先生は多才なのですか？」

子貢が言った。「(孔子 先生は、)元から、天の神が派遣した最高の聖者ですし、また、多才なのです」

孔子 先生は、この事を聞いて言った。「大宰は私(、孔子)の事を知っている。私(、孔子)は、年少の時に卑賤であった。だから、卑賤な事に多才に成ってしまった。王者は必ず多才であろうか？ いいえ！ 必ずしも多才ではない！」

子罕第九 第七章

牢、曰。「子、云。『吾、不、試。故、芸』」

孔子先生の弟子である、牢が言った。「孔子先生は言った。『私(、孔子)は試用、採用されなかった。だから、(多才な)芸、技術を身につけた』と」

子罕第九 第八章

子、曰。「吾、有、知、乎哉？ 無知、也！ 有、鄙夫、問、於、我、空空如、也。我、扣、其両端、而、竭、焉」

孔子 先生は言った。「私（、孔子）に知恵が有るであろうか？ いいえ！ 無知である！ （無学な）田舎の人がいて『空空如』と率直に私（、孔子）に質問してくる。すると、私（、孔子）は、その質問の両極端をたたいて調べ尽くしているだけなのである」

子罕第九 第九章

子、曰。「鳳鳥、不、至。河、不、出、図。吾（われ）、已（やめる）、矣夫」

孔子先生は言った。「鳳凰（ほうおう）が到来してくれない。河が『河図』を出してくれない。私(、孔子)は辞めようかな」

(鳳凰は、聖王の前に飛来する、現在では謎の鳥である。)

(伏羲の前に河から龍馬が現れた。龍馬の鱗の模様は八卦であった。伏羲は龍馬の鱗の模様から八卦を作った。伏羲の龍馬の鱗の八卦の模様を、諸説が有るが、「河図」または「洛書」と呼ぶ。)

(古代の聖王である禹が、洪水が起きないように河の治水工事を終えると、河から亀が現れた。禹の亀の甲羅の模様は点の数一から点の数九までによる九つの数による魔方陣であった。禹の亀の甲羅の魔方陣の模様を、諸説が有るが、「河図」または「洛書」と呼ぶ。)

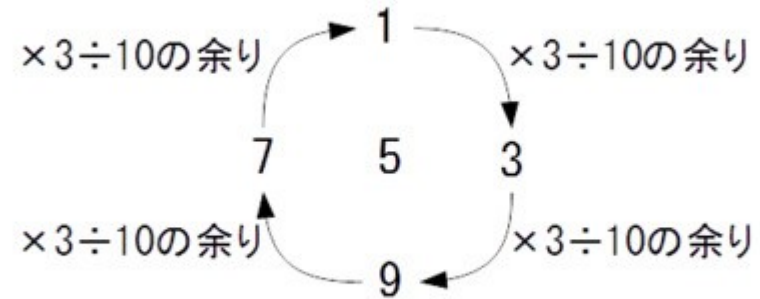
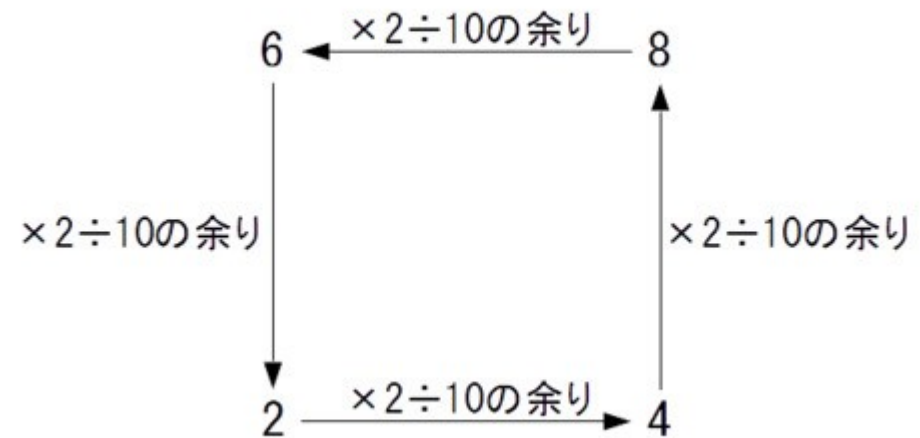
(占いの一つの「九星気学」では、禹の魔方陣の各枠で、一を足して十で割った余りを計算して、九種類の図を作っているが、根拠が無いように思われる。)

(禹の魔方陣で、中央の五以外の上下左右の奇数は、時計の右回りで、三を掛けて十で割った余りに成っていく。)

(禹の魔方陣で、四隅の偶数は、反時計の左回りで、二を掛けて十で割った余りに成っていく。)

禹の河図

6	1	8
7	5	3
2	9	4

(禹の魔方陣は、数五を中央に、上下左右の奇数の右回りと、四隅の偶数の左回りの、双方向の回転を持つ、各列の数の総和が十五である、美しい魔方陣である。)

子罕第九 第十章

子、見、「斉衰」、者(もの)、冕(かんむり)、衣裳、者(もの)、与(と)、「瞽者」、見、之(これ)、雖、少、
必、作。過、之(これ)、必、趨(あしばやにいく)。

孔子先生は、「斉衰」という喪服を着た者、冠(かんむり)と衣装を着た者、盲人、
これらの者達を見たら、年少者といえども必ず立って、席を譲(ゆず)ったりした。
これらの者達のそばを通り過ぎる時は必ず足早に通り過ぎた。

子罕第九 第十一章

顔淵(＝顔回)、喟然、嘆、曰。「仰、之(これ)、弥(いよいよ)、高。鑽(きりこむ)、之(これ)、弥(いよいよ)、堅。瞻(みる)、之(これ)、在、前、『忽焉(たちまち)』、在、後。夫子、循循然、善(よく)、誘、人。博(ひろげる)、我(われ)、以、文。約(ちぢめる)、我(われ)、以、礼。欲、罷(やすむ)、不能。既、竭、吾(わが)才。如(のよう)、有、所、立、卓爾(たくえつしている)。雖、欲、従、之(これ)、末(はてている)、由(よる)、也、已(のみ)」

顔回が嘆息して感嘆して言った。「この孔子 先生を見上げようとすると、ますます高く成っていくようなものなのである。この孔子 先生を究めようと切り込もうとすると、ますます堅く成っていくようなものなのである。この孔子 先生が目の前にいるのを見たと思ったら、たちまち背後にいる。孔子 先生は『循循然』と秩序をもって善く(巧妙に)他人を(善へ)誘う。私、顔回を言葉による文字による知恵で広げる。私、顔回を礼儀で調節する。(学ぶのを一時的に辞めて)休息したいと欲しても、できない。既(すで)に私、顔回の才能を尽くしてしまっている。孔子 先生は、確立できる所を所有していて卓越しているようなものなのである。この孔子 先生に従いたいと欲しても、寄りかかる所が果てて無いばかりなのである」

子罕第九 第十二章

子、疾病、子路、使、門人、為、臣。

病、間、曰。「久、矣哉、由(=子路)、之、行、詐、也。無、臣、而、為、有、臣。吾、誰、欺? 欺、天、乎? 且、予、与、其死、於、臣之手、也、無、寧、死、於、二三子之手、乎。且、予、縦、不、得、大葬、予、死、於、道路、乎」

孔子 先生が病気の時に、子路が(孔子 先生の)弟子達を(孔子 先生の虚偽の)臣下に成らせた。

孔子 先生は、病気が途中、少し治った時に、言った。「子路が詐欺を行って久しいかな。(子路は、私、孔子には)臣下がいないのに、臣下がいるかのようにした。私、孔子が誰を欺くであろうか? いいえ! 私、孔子が天の神を欺くであろうか? いいえ! さらに、私、孔子は、臣下の手の中で死ぬよりも、弟子達の手の中で死にたいのではないか? はい! さらに、私、孔子は、大いなる葬儀を得ずに、道の途中で死にたい」

子罕第九 第十三章

子貢、曰。「有、美玉、於、斯（ここ）、韞（おさめる）、匵（はこ）、而、蔵、諸（これ）？ 求、善、賈（商人）、而、沽（うる）、諸（これ）？」

子、曰。「沽（うる）、之（これ）、哉。沽（うる）、之（これ）、哉。我（われ）、待、賈（商人）者、也」

子貢が言った。「ここに美しい宝玉が有ったら、それを箱に収めて所蔵しますか？ それとも、善い商人を探し求めてから、それを売りますか？」

孔子先生は言った。「その美しい宝玉を売ろうか。その美しい宝玉を売ろうか。私、孔子は(善い)商人を待ち望んでいる」（。宝玉は知恵の例えである、と思われる。）

子罕第九 第十四章

子、欲、居、九夷。

或(ある)、曰。「陋。如之何(これ、いかん)？」

子、曰。「君子、居、之(これ)、何、陋、之(これ)、有？」

孔子先生は「九夷」、「中国の東の九つの野蛮な国々」に居ようかと欲した。

ある人が言った。「『九夷』は卑賤で劣悪です。そうではありませんか？」

孔子先生は言った。「王者が、そこに居れば、どうして卑賤で劣悪であろうか？　いいえ！」

子罕第九 第十五章

子、曰。「吾（われ）、自（より）、衛、反（かえる）、魯、然（しかる）、後、楽、正、『雅』、『頌』、各、得、其（その）所」

孔子 先生は言った。「私、孔子は衛という国から魯という国へ帰った。その後、音楽は正しく成ったし、『雅』、『頌』という音楽も各々その居場所を得た」

子罕第九 第十六章

子、曰。「出、則(すなわち)、事(つかえる)、『公卿』。入、則(すなわち)、事(つかえる)、父兄。喪事、不、敢、不、勉(はげむ)。不、為(なす)、酒、困。何、有、於、我(われ)、哉?」

孔子 先生は言った。「家を出れば、役人に仕える。家に入れば、父兄に仕える。葬儀の時は励(はげ)む。酒によって他人を困らせる事をしない。他に何か私、孔子に有るであろうか?」

子罕第九 第十七章

子、在、川上、曰。「逝(いく)、者(もの)、如(のよう)、斯(この)、夫。不、舍(すてる)、昼夜」

孔子先生は川の上にいた時に、言った。「進歩して行く者は、この川のようなのである。昼夜を捨てない(で常に進歩して行く)」

子罕第九 第十八章

子、曰。「吾（われ）、未、見、好、徳、如（のよう）、好、色、者（もの）、也」

孔子先生は言った。「私、孔子は、色を好むのと同様に『徳』、『善行』、『善』を好む者を未だ見た事が無い」

子罕第九 第十九章

子、曰。「譬（たとえば）、如（のよう）、為（なす）、山。未、成、一簣（ひとかご）、止、吾（われ）、止、也。譬（たとえば）、如（のよう）、平（たいらにする）、地。雖（いえども）、覆（おおう）、一簣（ひとかご）、進、吾（われ）、往、也」

孔子　先生は言った。「例えば、山を作るような物なのである。籠（かご）、一つ分でも未だ山を作らないで止めてしまえば、あなた自身が止めてしまっているのである。例えば、地面を平坦にするような物なのである。籠（かご）、一つ分でも地面のへこみを覆（おお）って平坦にして前進すれば、あなた自身が進歩して行っているのである」

子罕第九 第二十章

子、曰。「語、之（これ）、而、不、惰（なまける）、者（もの）、其（それ）、回（＝顔回）、也、与（か）」

孔子先生は言った。「私、孔子が言うと、怠惰ではなく言った通りに行う者が、顔回なのである」

子罕第九 第二十一章

子、謂、顔淵(=顔回)、曰。「惜、乎。吾、見、其進、也。未、見、其止、也」

孔子先生は、(死んだ)顔回について、言った。「顔回が死んだのを惜しむ。私、孔子は、顔回が進歩して行くのを見た。顔回が停滞したのを未だ見た事が無かった」

子罕第九 第二十二章

子、曰。「苗、而、不、秀、者、有、矣夫。秀、而、不、実、者、有、矣夫」

孔子先生は言った。「苗のままで伸びないような者がいるかな。伸びても実らないような者がいるかな」

子罕第九 第二十三章

子、曰。「『後生』、可、畏。焉（どうして）、知、来、者（もの）、之（の）、不如（しかず）、今、也？
四十、五十、而、無（ない）、聞、焉、斯（これ）、亦（また）、不、足（たりる）、畏、也、已（のみ）」

孔子先生は言った。「後世の者を畏敬するべきである。どうして、未来の者が今の者に及ばない、と知る事ができるであろうか？　いいえ！　未来の者が今の者を超越するかもしれない！　四十歳に成っても、五十歳に成っても、名声が聞こえない者は、畏敬するに足りないばかりである」

子罕第九 第二十四章

子、曰。「『法語』之言、能、無（ない）、従、乎？ 改、之（これ）、為（なす）、貴。『巽与（けんそんするくみする）』之言、能、無（ない）、説（よろこぶ）、乎？ 繹（たずねてきわめる）、之（これ）、為（なす）、貴。説（よろこぶ）、而、不、繹（たずねてきわめる）。従、而、不、改。吾（われ）、末（はてている）、如之何、也、已（のみ）、矣」

孔子先生は言った。「正しい教えの言葉に従わない事は不可能ではないか？ ただし、正しい教えの言葉を改良していく者を高貴であるとする。謙虚な、自分に味方してくれる柔和な言葉を喜ばない事は不可能ではないか？ ただし、この言葉の真意を尋ね究める者を高貴であるとする。喜ぶばかりで尋ね究めない者。従うだけで改良していかない者。私、孔子は、これらのような者どもをどうにもできないばかりである」

子罕第九 第二十五章

子、曰。「主、忠信。毋(なかれ)、友、不如(しかざる)、己、者(もの)。過(あやまちをおかす)、則(すなわち)、勿(なかれ)、憚(はばかる)、改(あらためる)」

孔子先生は言った。「『忠信』、『誠実さ』を主(メイン)としなさい。自分に及ばない(劣悪な)者を友にするなかれ。過(あやま)ちを犯したら、改(あらた)めるのをはばかる事なかれ」

子罕第九 第二十六章

子、曰。「三軍、可、奪、帥、也。匹夫、不可、奪、志、也」

孔子先生は言った。「三つの軍団がいても、将軍の命を奪う事は可能であろう。凡人でも、志を奪う事は不可能であろう」

子罕第九 第二十七章

子、曰。「衣(きる)、敝(ぼろぼろの)、『縕袍』、与(と)、衣(きる)、『狐貉(キツネムジナ)』、者(もの)、立、而、不、恥、者(もの)、其(それ)、由(＝子路)、也、与(か)？ 不、忮(ねたむ)。不、求。何、用(もって)、不、臧(よい)？」

子路、終身、誦、之(これ)。

子、曰。「是(この)道、也、何、足(たりる)、以、臧(よい)？」

孔子先生は言った。「ぼろぼろの粗末な衣服を着て、狐(キツネ)や貉(ムジナ)の皮の立派な衣服を着た者と共に立っていても、恥ずかしいと思わない者は、子路であろうか？ 嫉妬しない者。(必要以上に)求めない者。このような者が、どうして善くないであろうか？ いいえ！ 善い者である！」

子路は、身体の命が終わるまで、この「嫉妬しない者。(必要以上に)求めない者。このような者が、どうして善くないであろうか？ いいえ！ 善い者である！」という言葉を唱えた。

孔子先生は言った。「この『道』、『真理』の探求において、どうして、その『嫉妬しない』程度で、『(必要以上に)求めない』程度で、『善い』とするのに十分であろうか？ いいえ！ 『善い』とするのに足りない！」

子罕第九 第二十八章

子、曰。「歳、寒、然(しかる)、後、知、松、柏(かしわ)、之(の)、後(おくれる)、彫(しぼむ)、也」

孔子先生は言った。「寒い季節に成って、（普通の木々が凋んで、）その後、松や柏(かしわ)の木が遅れて凋(しぼ)む事を知る事ができるのである」（。危機に成って、優れた人々が優れている事が明らかに分かる物なのである。）

子罕第九 第二十九章

子、曰。「智者、不惑。仁者、不、憂。勇者、不、懼」

孔子先生は言った。「知者は惑わない。思いやり深い者は心配する必要が無い。勇者は恐れる所など無い」（、「善悪を知っているので、知者は迷わない。他者から思いやり返してもらえて助けてもらえるので、他者に思いやり深い者は心配する必要が無い。善行であると知って善行を恐れず行う勇者は、恐れる所など無い。なぜなら、善行であると知っているからである。また、善行を遂行したからである」。）

子罕第九 第三十章

子、曰。「可、与(ともに)、共(ともに)、学、未、可、与(ともに)、適(いく)、道。可、与(ともに)、適(いく)、道、未、可、与(ともに)、立。可、与(ともに)、立、未、可、与(ともに)、権(はかる)」

孔子 先生は言った。「共に学ぶ事は可能でも、共に『道』、『真理』を探求していく事は未だ不可能である場合が有る。共に『道』、『真理』を探求していく事は可能でも、共に自身を善く確立する事は未だ不可能である場合が有る。共に自身を善く確立する事は可能でも、共に(対等に)相談してはかる事は未だ不可能である場合が有る」

子罕第九 第三十一章

「唐棣之華、偏(ひとえに)、其(それ)、反(ひっくりかえる)、而。豈(どうして)、不、爾(なんじ)、思？ 室、是(これ)、遠、而」

子、曰。「未、之(これ)、思、也。夫(それ)、何、遠、之(これ)、有？」

「唐棣の華の花びらが、ひとえに、ひっくりかえりながら散り落ちている。どうして、あなたの事を思わないであろうか？ いいえ！ 思う！ ただ、あなたの家が遠いのである」（という詩が有った。）

孔子先生は言った。「私、孔子は、このように『相手の家が遠い』と思った事が未だ無い。どうして相手の家が遠いであろうか？ いいえ！」

郷党第十

郷党第十 第一章

孔子、於、郷党、「恂恂如」、也。似、不能、言、者。

其、在、「宗廟」、「朝廷」、「便便」、言。

唯、謹、爾。

孔子先生は、故郷の人々の中では、「恂恂如」と慎んでいて、話す事ができない者に似ていた。

孔子先生は、「宗廟」、「朝廷」では、「便便」と長々と丁寧に話した。

孔子先生は、ただ、慎んでいるだけなのである。

郷党第十 第二章

「朝(廷)」、与、下大夫、言、「侃侃如」、也。

与、上大夫、言、「誾誾如」、也。

君、在、「踧踖如」、也。「与与如」、也。

孔子先生は、「朝廷」で、下級の役人と話す時は、「侃侃如」と和やかに話した。

孔子先生は、上級の役人と話す時は、「誾誾如」と正しく話した。

孔子先生は、君主がいる時は、「踧踖如」と慎んでいた。身心を「与与如」と整えた。

郷党第十 第三章

君、召、使(させる)、擯、色、「勃如」、也。足、「躩如」、也。

揖、所、与(ともに)、立、左右、手。衣、前後、「襜如」、也。

趨進、「翼如」、也。

賓、退、必、「復命」、曰。「賓、不、顧、矣」

孔子先生は、君主が(孔子先生を)召して客を案内させたら、顔色を「勃如」と即座に変えて正して、足を「躩如」と慎んで動かした。

孔子先生は、共に立っている臣下の所に対して会釈する時は、左右の手を正しく組んで、衣服の左右の前後を「襜如」と整えた。

孔子先生は、歩行、進み方が鳥が翼をゆっくりと、はばたかせるようであった。

孔子先生は、客が退出すれば、必ず、命令の結果を報告して、言った。「客は(満足されて)振り返りませんでした」

郷党第十 第四章

入、「公門」、「鞠躬如」、也。如、不、容。

立、不、中、門。

行、不、履、閾。

過、位、色、「勃如」、也。足、「躩如」、也。

其言、似、不足、者。

摂、「斉」、升、「堂」、「鞠躬如」、也。屏、気。似、不、息、者。

出、降、一等、逞、顔色、「怡怡如」、也。

没、階、趨進、「翼如」、也。

復、其位、「踧踖如」、也。

孔子先生は、朝廷の門を入る時は、「鞠躬如」と身をかがめて慎んだ。まるで中に入らないかのようであった。

孔子先生は、朝廷の門の中央に立たなかった。

孔子先生は、朝廷の門を通る時は、「敷居」、「境目」を踏まなかった。

孔子先生は、君主がいる所を通り過ぎる時は、顔色を「勃如」と即座に変えて正して、足を「躩如」と慎んで動かした。

孔子先生の朝廷での言葉は、知恵が不足している者に似ていた。

孔子先生は、朝廷で執務を行う場所である「堂」に上る時は、衣服のすそを手元に引き寄せて持って、「鞠躬如」と身をかがめて慎んだ。また、静かに呼吸して、息をしていない者に似ていた。

孔子先生は、「堂」を出て、階段を一段、降りると、顔色を逞(たくま)しく元気にして、「怡怡如」と和らげた。

孔子先生は、「堂」からの階段を全て降りて、階段が無くなると、歩行、進み方が鳥が翼をゆっくりと、はばたかせるようであった。

孔子先生は、自分の位置、席に戻ると、「踧踖如」と慎んでいた。

郷党第十 第五章

執、「圭」、「鞠躬如」、也。如（のよう）、不、勝（もちこたえる）。

上、如（のよう）、揖。

下、如（のよう）、授。

「勃如」、「戦色」。

足、「蹜蹜如」、有、循（ちつじょただしく）。

「享礼」、有、容色。

私、覿（あう）、「愉愉如」、也。

孔子先生は、「圭」、「天子が身分証として与える宝玉」を執（と）ったら、「鞠躬如」と身をかがめて慎んだ。まるで「圭」の重さに持ちこたえられないかのようであった。

孔子先生は、「圭」を上げる時は、会釈する時のような高さまでであった。

孔子先生は、「圭」を下げる時は、天子から授けられた時のような低さまでであった。

孔子先生は、顔色を「勃如」と即座に変えて、「戦色」、「恐怖の顔色」を作った。

孔子先生は、足を「蹜蹜如」と小刻みに動かして、秩序正しさが有った。

孔子先生には、「享礼」、「贈り物を渡す礼儀作法の儀式」で、正しい姿形と顔色が有った。

孔子先生は、私的に会っている時は、「愉愉如」と和（なご）やかであった。

郷党第十 第六章

君子、不、以、紺、緅(むらさき)、飾。紅、紫、不、以、為(なす)、褻服(ふだんぎ)。

当、暑、袗(ひとえ)、絺綌(くずせいのいふく)、必、表、而、出、之(これ)。

緇衣(こくい)、羔裘(くろひつじかわごろも)。

素衣(はくい)、麑裘(こじかかわごろも)。

黄衣、狐裘(キツネかわごろも)。

褻裘(ふだんぎかわごろも)、長、短、右袂(みぎたもと)。

(必、有、寝衣、長、一身有半。)

狐(キツネ)、貉(ムジナ)之(の)厚、以、居(すわる)。

去(のぞく)、喪、無(ない)、所、不、佩(こしにまとう)。

非、帷裳(せいそう)、必、殺(へらす)、之(これ)。

羔裘(くろひつじかわごろも)、玄冠(くろいかんむり)、不、以、弔。

「吉月」、必、「朝服」、而、朝。

王者は、紺色、紫色で飾らない。紅色、紫色の衣服を普段着にしない。

暑い時に当たったら、裏地が付いていない単衣の、葛製の衣服、これを(外衣として)必ず表に出して着る。

黒衣として黒羊の皮製の衣服を着る。

白衣として子鹿の皮製の衣服を着る。

黄衣として狐(キツネ)の皮製の衣服を着る。

皮製の普段着は長くするが、右袖(みぎそで)は短くする。

必ず寝衣(パジャマ)を所有して、寝衣(パジャマ)の長さを身長の一・五倍にする。

狐(キツネ)と貉(ムジナ)の皮を厚く敷いて、座る。

喪中を除いて、何かを腰に帯びない事は無い。(何かを腰に帯びる。)

正装ではない衣服、これの布を必ず減らした。

黒羊の皮製の黒衣、黒い冠を着て他人の死を悲しむ事はしない。

月の最初の日には必ず「朝服」で正装して朝廷に集まる。

郷党第十 第七章

斉（ものいみ）、必、有、「明衣」。布（あさぬの）。

斉（ものいみ）、必、変、食。居（すわる）、必、遷、坐（ざせき）。

神事の前に身心を清める潔斎では、必ず、「明衣」、「白衣の浄衣」が有って、麻製の衣服である。

潔斎では、必ず、食事内容を(普段とは)変える。座るにも、必ず、座席を(普段とは)変える。

郷党第十 第八章

食（たべもの）、不、厭、精。

膾（なます）、不、厭、細。

食（たべもの）、饐（くさる）、而、餲、魚、餒（くさる）、而、肉、敗、不、食（たべる）。

色、悪、不、食（たべる）。

臭、悪、不、食（たべる）。

失、飪（にる）、不、食（たべる）。

不、時、不、食（たべる）。

割、不、正、不、食（たべる）。

不、得、其（その）醤、不、食（たべる）。

肉、雖（いえども）、多、不、使（させる）、勝、食気。

唯、酒、無（ない）、量、不、及、乱。

沽(かう)、酒、市(かう)、脯(ほしにく)、不、食(たべる)。

不、撤(とりのぞく)、薑(しょうが)、食(たべる)。

不、多、食(たべる)。

祭、于、公、不、宿、肉。

祭、肉、不、出、三日。出、三日、不、食(たべる)、之(これ)、矣。

食(たべる)、不、語。

寝、不、言。

雖(いえども)、疏食、菜羹、瓜、祭、必、斉(つつしむ)、如、也。

米といった食べ物の精白を嫌わない。

魚を細く切って酢(す)を和(あ)えた膾(なます)が細いのを嫌わない。

食べ物が腐って味が変わったり酸味がしたり悪臭がしたり、魚が腐って肉が崩れたりしたら、食べない。

色が悪く成ったら、食べない。

悪臭がしたら、食べない。

煮るのを失敗し(て生の部分が有っ)たら、食べない。

時期でなければ、(旬でなければ、)食べない。

正しく解体して分割できていなければ、(有毒な部位などが混在しているかもしれないので、)食べない。

それに合った調味料を得られなければ、食べない。

肉が多くても、食欲を超えないようにさせる。

ただ、酒だけは量が分からないが、酒乱に及ばないようにする。

酒を買ったり、干し肉を買ったりして、食べない。

生姜(しょうが)などの薬味を取り除かずに、食べる。

多くは食べない(。食べ過ぎない)。

君主の祭儀の肉は、その日の内に食べる。

その他の祭儀の肉は、三日以内に食べる。三日を超過したら、その肉を食べない(。仕方が無い)。

食べながら話さない。

寝ながら(横に成りながら)話さない。

粗食、野菜の吸物(スープ)、瓜(ウリ)といえども、(最初の収穫物を神に捧げるといった)祭儀では、必ず、慎んで捧げる。

郷党第十 第九章

席、不正、不、坐。

席が正しく無ければ、座らない。

郷党第十 第十章

郷人、飲、酒、杖、者(もの)、出、斯(ここ)、出、矣。

郷人、儺、「朝服」、而、立、於、「阼」階。

孔子先生は、故郷の人々と酒を飲んだ時は、杖をつくような高齢者が退出したら、そこで退出した。

孔子先生は、故郷の人々と、悪霊を追い払う儀式である「追儺」をした時は、「朝服」で正装して、堂の東の階段に立った。

郷党第十 第十一章

問、人、於、他邦、「再拜」、而、送、之。

康子(=季康子)、饋、薬。

拝、而、受、之、曰。「丘(=孔子)、未、達。不、敢、嘗」

孔子先生は、他人を他の国へ訪問させる時は、「再拝して」、「二回連続で拝んで」、その人を送り出した。

季康子が、孔子先生に、薬を贈った。

孔子先生は、拝んで、この薬を受け取って、言った。「私、孔子は、薬学に未だ通達しておりません。この薬を試してみるのはやめようと思います」

郷党第十 第十二章

廐(うまや)、焚(もえる)。

子、退、朝、曰。「傷、人、乎？」

不問、馬。

馬の厩舎が燃えてしまった。

孔子先生は、朝廷を退出して、言った。「馬の厩舎の火事で人は傷つきませんでしたか？」

孔子先生は、馬（の損失）については問わなかった。

郷党第十 第十三章

君、賜、食、必、正、席、先、嘗（ししょくする）、之（これ）。

君、賜、腥（なまにく）、必、熟、而、薦（ささげる）、之（これ）。

君、賜、生、必、畜（しいくする）、之（これ）。

「侍食」、於、君、君、祭、先、飯（たべる）。

疾、君、視、之（これ）、「東首」、加、「朝服」、拖（ひく）、紳（おおおび）。

君、命、召、不、俟（まつ）、駕（のりもの）、行、矣。

君主が食べ物を孔子 先生に与えたら、孔子 先生は、（礼儀作法として、）必ず、座席を正して、すぐに先に、それを試食した。

君主が生肉を孔子 先生に与えたら、孔子 先生は、必ず、その生肉を、熟成させてから、神霊に捧げた。

君主が生き物を孔子 先生に与えたら、孔子 先生は、必ず、その生き物を飼育した。

孔子先生は、君主のそばに仕えて食事をする時に、君主が祭儀で食べ物を捧げたら、(毒味として、)君主よりも先に捧げ物を食べた。

孔子先生は、病気に成った時に、君主がそれを見舞いに来たら、東枕にして、「朝服」という正装を上に足してかけ、大帯を引いてかけた。

孔子先生は、君主の命令で呼ばれたら、乗り物を待たずに、君主の所へ行った。

郷党第十 第十四章

入、「太廟」、毎(たびに)、事、問。

孔子先生は、天子や諸侯の先祖の霊廟である「太廟」に入ったら、(礼儀作法として、)何か事が有るたびに質問した。

郷党第十 第十五章

朋友、死、無(ない)、所、帰、曰。「於、我(われ)、殯(ほうむる)」

朋友之饋、雖、車、馬、非、祭、肉、不、拝。

孔子 先生は、友人が死んで遺体が帰る場所が無い時に、言った。「私(、孔子)の所で埋葬までしよう」

孔子 先生は、友人への捧げ物は、(高価で有用な)車や馬といえども、葬儀で捧げた肉以外は、拝んで貰(もら)う事をしなかった。

郷党第十 第十六章

寝、不、尸(したい)。

居、不、容。

見、「斉衰」、者(もの)、雖、狎(したしい)、必、変。

見、冕(かんむり)、者(もの)、与(と)、瞽者(もうじん)、雖、褻(ふだん)、必、以、貌。

「凶服(もふく)」、者(もの)、式、之(これ)。

式、「負版(もふく)」、者(もの)。

有、「盛饌(ごちそう)」、必、変、色、而、作。

「迅雷」、「風烈」、必、変。

孔子先生は、死体のようには寝なかった。

孔子先生は、家に居る時は、容貌を作らなかった。

孔子先生は、「斉衰」という喪服を着た者を見たら、親しい者といえども、必ず、容貌を変えて正した。

孔子先生は、冠(かんむり)をかぶった正装の者と、盲人を見たら、普段でも、必ず、正しい容貌で接した。

孔子先生は、喪服を着た者、この者に、ある形式の敬礼をした。

孔子先生は、「負版」という喪服を着た者に、ある形式の敬礼をした。

孔子先生は、立派なごちそうが有ったら、必ず、顔色を変えて正して、礼儀作法を行(おこな)った。

孔子先生は、激しい雷鳴や激しい風音を聞いたら、(「神霊の合図である」として、)必ず、容貌を変えて正した。

郷党第十 第十七章

升(のぼる)、車、必、正、立、執、綏(くるまのとって)。

車中、不、内、顧。

不、疾言。

不、親(みずから)、指。

孔子先生は、車に上って乗る時は、必ず正しく立って、車の取手(とって)を執(と)った。

孔子先生は、車中では、車内から(後ろの外の景色を)振り返らなかった。

孔子先生は、早口で話さなかった。

孔子先生は、自(みずか)らは、指をささなかった。

郷党第十 第十八章

色、斯、挙、矣、翔、而、後、集。

曰。「『山梁』、雌、雉。時、哉。時、哉」

子路、共、之。

三、嗅、而、作。

孔子先生達が山中の谷川の橋を渡っていると、雌の雉達が、こちら（、孔子先生達）の気配を察知して挙って飛び上がり、飛翔して様子を観察してから、ある木に集合した。

孔子先生は言った。「山中の谷川の橋での、雌の雉達の挙動。時機に適っているかな。時機に適っているかな」

子路は、孔子先生に、（孔子先生が「雌の雉は旬であるかな」と言ったと誤解してしまって、）それらの雌の雉達を殺して食事として提供してしまった。

孔子先生は、三回、食事の肉の匂いを嗅いで、（雉であると知ると、）子路を非難する態度を成した。

先進第十一

先進第十一　第一章

子、曰。「『先進』、於、礼、楽、『野人』、也。後進、於、礼、楽、君子、也。如（のよう）、用、之（これ）、則（すなわち）、吾（われ）、従、『先進』」

孔子先生は言った。「先人、古代人は礼儀作法や音楽において粗野ではあるが力強かった。後世の人は礼儀作法や音楽において王者ではあるが軟弱である。粗野ではあるが力強いか、王者ではあるが軟弱であるか、これらのような物のうち、どちらかを用いるならば、私、孔子は先人、古代人の粗野ではあるが力強い事に従っていこう」

先進第十一 第二章

子、曰。「従、我、於、『陳』、『蔡』、者、皆、不、及、門、也」

徳行、顔淵（＝顔回）、閔子騫、冉伯牛、仲弓（＝雍）。

言語、宰我、子貢。

政事、冉有、季路（＝子路）。

文学、子游、子夏。

孔子 先生は言った。「陳という国と、蔡という国で、私、孔子に従ってくれた者達は皆、私、孔子の家の門を叩かなく成った」

特に「徳行」、「善行」に優れていた孔子 先生の弟子は、顔回、閔子騫、冉伯牛、雍である。

特に雄弁に優れていた孔子 先生の弟子は、宰我、子貢である。

特に政治能力に優れていた孔子 先生の弟子は、冉有、子路である。

特に言葉による文字による知恵の学に優れていた孔子 先生の弟子は、 子游、子夏である。

先進第十一 第三章

子、曰。「回(＝顔回)、也、非、助、我、者、也。於、吾言、無、所、不、説」

孔子先生は言った。「顔回は、私、孔子の助けと成る者ではない。私、孔子の言葉を喜ばない所が無いからである」(。顔回は孔子に質問してくれない。)

先進第十一 第四章

子、曰。「孝、哉、閔子騫。人、不、間、於、其父母昆弟、之、言」

孔子先生は言った。「親孝行である、閔子騫は。他人は、その閔子騫の父母、兄弟についての欠点を言う事ができない」（。閔子騫は父母、兄弟の欠点を他人に言わないからである。）

先進第十一 第五章

南容、三、復、「白圭」。

孔子、以、其兄之子、妻、之。

南容は「詩経」の「白圭」という詩を時々くり返し唱えて、詩の意味を肝に命じていた。

（「詩経」の「白圭」は、「白い宝玉は傷つけてしまっても磨いて直して無かった事にできるが、言葉の傷、誤った言葉、悪い言葉は無かった事にはできない(ので発言には注意しなさい)」という詩である。）

孔子 先生は、孔子 先生の兄の娘をその南容と結婚させた。

先進第十一　第六章

季康子、問。「弟子、孰（だれが）、為（なす）、好、学？」

孔子、対（こたえる）、曰。「有、顔回、者（もの）、好、学。不幸、短命、死、矣。今、也、則（すなわち）、亡（いない）」

季康子が孔子 先生に質問した。「孔子 先生の弟子のうち、誰が、学を好んでいると見なしますか？」

孔子 先生は答えて言った。「顔回という者がいて学を好んでいました。しかし、不幸にして短命で死んでしまいました。今は、いません」

先進第十一　第七章

顔淵(＝顔回)、死。

顔路、請、子之車、以、為、之、椁。

子、曰。「才、不才、亦、各、言、其子、也。鯉、也、死、有、棺、而、無、椁。吾、不、徒行、以、為、之、椁。以、吾、從、大夫之後、不、可、徒行、也」

顔回が死んでしまった。

顔回の父であり、孔子の弟子でもある、顔路は、「孔子先生の車で、その顔回の『椁』、『棺の外囲い』を作りたい」と孔子先生に請い願った。

孔子先生は言った。「才能が有った顔回も、非才の鯉も、それぞれ、顔路の子と、私、孔子の子であったので、言いたくも成るであろうが。私、孔子の子である鯉が死んだ時、棺は有ったが、『椁』、『棺の外囲い』は無かった。私、孔子は徒歩をして(車を壊して)まで鯉の『椁』、『棺の外囲い』を作らなかった。なぜなら、私、孔子は役人の末席であったので、徒歩するべきではなかったからである(。だから、駄目です)」

先進第十一　第八章

顔淵(＝顔回)、死。

子、曰。「噫(ああっ)。天、喪(ほろぼす)、予。天、喪(ほろぼす)、予」

顔回が死んでしまった。

孔子 先生は言った。「ああっ。天の神は私、孔子(の知恵の伝承)を滅ぼすつもりである。天の神は私、孔子(の知恵の伝承)を滅ぼすつもりである」

先進第十一　第九章

顔淵(＝顔回)、死。

子、哭(なく)、之(これ)、慟(みをふるわせる)。

従者、曰。「子、慟(みをふるわせてなく)、矣」

曰。「有、慟(みをふるわせてなく)、乎？　非、夫人之為(そのひとのため)、慟(みをふるわせてなく)、而、誰、為(ため)？」

顔回が死んでしまった。

孔子先生は、その死を嘆(なげ)いて、泣いて身を震わせた。

孔子先生の、ある従者が言った。「孔子先生が泣いて身を震わせた」

孔子先生は言った。「私、孔子は泣いて身を震わせていましたか？　でも、この人の為に泣いて身を震わせないならば、誰の為に泣いて身を震わせるというのでしょうか？」

先進第十一 第十章

顔淵(＝顔回)、死。

門人、欲、厚、葬(ほうむる)、之(これ)。

子、曰。「不、可」

門人、厚、葬、之(これ)。

子、曰。「回(＝顔回)、也、視、予、猶、父、也。予、不、得、視、猶、子、也。非、我(われ)、也。夫(その)二三子、也」

顔回が死んでしまった。

孔子 先生の弟子達は、その顔回に手厚い葬儀をしたいと欲した。

孔子 先生は言った。「(手厚い葬儀を)してはいけません」

しかし、孔子 先生の弟子達は、その顔回に手厚い葬儀をした。

孔子 先生は言った。「顔回は、私、孔子を父のように視てくれた。私、孔子は顔回を子のように視る事ができ得なかった事に成ってしまった。私、孔子のせいではない。私、孔子の弟子達のせいである」

先進第十一 第十一章

季路(＝子路)、問、事、鬼神。

子、曰。「未、能、事、人、焉、能、事、鬼？」

「敢、問、死」

曰。「未、知、生、焉、知、死？」

子路は、神霊への仕え方について質問した。

孔子先生は言った。「未だ(十分に目に見える者である)人に仕える事ができていないのに、どうして(目に見えない者である)霊に仕える事ができるでしょうか？　いいえ！　できない！」

子路が言った。「あえて、死について質問します」

孔子先生は言った。「未だ(十分に)生について知らないのに、どうして死について知る事ができるでしょうか？　いいえ！　できない！」

先進第十一 第十二章

閔子(＝閔子騫)、侍、側（そば）。「誾誾如」、也。

子路、「行行如」、也。

冉有、子貢、「侃侃如」、也。

子、楽。

(曰。)「若（のよう）、由(＝子路)、也、不、得、其（その）死、然?」

閔子騫が、孔子 先生のそばに仕えていた。閔子騫は「誾誾如」と正しく話していた。

子路は「行行如」と、どこまでも突き進むかのようであった。

冉有、子貢は「侃侃如」と和（なご）やかであった。

孔子 先生は、弟子達の様子を楽しく見守っていた。

ただし、孔子先生は言った。「子路のような者は、自然な死を得られるであろうか？　激しい殺され方をされてしまうかもしれない！（気をつけなさい）」

先進第十一　第十三章

魯、人、為(つくる)、「長府」。

閔子騫、曰。「仍(よる)、旧、貫、如之何(これ、いかん)？　何、必、改、作？」

子、曰。「夫(その)人、不、言。言、必、有、中」

魯という国の人が、「長府」という貨幣の蔵を(新しく)建て(直し)た。

閔子騫が言った。「それは、古いまま、貫(つらぬ)いたら、どうでしょうか？　どうして、必ずしも、(新たに)建て直す必要が有るでしょうか？　いいえ！」

孔子先生は言った。「あの人、閔子騫は、普段は何も言わないが、言えば必ず、正しい事を言い当てている」

先進第十一　第十四章

子、曰。「由(=子路)、之(の)、鼓、瑟、奚(どうして)、為(する)、於、丘(=孔子)之門？」

門人、不敬、子路。

子、曰。「由(=子路)、也、升(のぼる)、堂、矣。未、入、於、室、也」

孔子先生は言った。「子路は『瑟』という琴を演奏するが、どうして私、孔子の門下でするのか？」

孔子先生の弟子達に、(この孔子先生の言葉を聞いて、)子路に対して不敬な態度をとる者達がいた。

孔子先生は言った。「子路は、『堂に上っている』、『王者の境地に入っている』。ただ、『入室』、『奥義への到達』が未だなだけなのである」

先進第十一　第十五章

子貢、問。「師(＝子張)、与、商(＝子夏)、也、孰、賢?」

子、曰。「師(＝子張)、也、過。商(＝子夏)、也、不、及」

曰。「然、則、師(＝子張)、愈、与?」

子、曰。「過、猶、不、及」

子貢が孔子先生に質問した。「子張と、子夏のうち、どちらが賢いでしょうか?」

孔子先生は言った。「子張は、やり過ぎである。子夏は、及んでいない」

子貢が言った。「そうであるならば、子張のほうが優れているのでしょうか?」

孔子先生は言った。「やり過ぎるのは、及んでいないのと同様である」

先進第十一　第十六章

季氏、富、於(よりも)、周公。

而(しかし)、求(=冉有)、也、為(ため)、之(これ)、「聚斂」、而、「附益」、之(これ)。

子、曰。「非、吾(わが)徒、也。小子。鳴、鼓、而、攻、之(これ)、可、也」

季氏は周公よりも金持ちであった。

しかし、冉有は、この季氏の為に国民から税を取り立ててしまっていて、この季氏の金銭を増やしてしまっていた。

孔子先生は言った。「冉有は、私、孔子の学徒、弟子ではない(と言える)。弟子達よ。太鼓を鳴らして、その冉有を責めるべきである」

先進第十一　第十七章

柴（＝子羔）、也、愚。

参（＝曾子）、也、魯。

師（＝子張）、也、辟。

由（＝子路）、也、喭。

子羔は、（良くも悪くも）愚直である。

曾子は、（良く言うと慎重であるが、悪く言うと）鈍い（と言えてしまう）。

子張は、凝ってしまう。

子路は、荒々しい。

先進第十一　第十八章

子、曰。「回(=顔回)、也、其(それ)、庶、乎。屢(しばしば)、空(くうにする)。賜(=子貢)、不、受、命、而、貨、殖、焉。億、則(すなわち)、屢(しばしば)、中(あてる)」

孔子先生は言った。「顔回は(道、真理に)最も近い。何度も自身を空(くう)にする。子貢は、命令を受けずに、金銭を増やす。憶測、予想を何度も当てる」

先進第十一　第十九章

子張、問、善人之道。

子、曰。「不、踐(ふみおこなう)、跡、亦、不、入、於、室」

子張が、善人への道を質問した。

孔子 先生は言った。「先人の善人の行跡を踏襲(とうしゅう)しなければ、『入室』、『奥義への到達』もまたできないであろう」(、「先人の善人の行跡を踏襲すれば、奥義へ到達できるであろう」、「先人の善人の行跡を踏襲しなさい」。)

先進第十一 第二十章

子、曰。「論、篤、是(これ)、与(くみする)、君子、者(もの)、乎？　色、荘、者(もの)、乎？」

孔子 先生は言った。「弁論が重厚な者に味方するのは、王者である者であろうか？　色形を荘厳に飾りたがる、うわべだけの者であろうか？　どちらかである可能性が高い！　（熟考しなさい！）」

先進第十一 第二十一章

子路、問。「聞、斯、行、諸？」

子、曰。「有、父兄、在。如之何、其、聞、斯、行、之？」

冉有、問。「聞、斯、行、諸？」

子、曰。「聞、斯、行、之」

公西華(＝子華)、曰。「由(＝子路)、也、問。『聞、斯、行、諸？』。子、曰。『有、父兄、在』。求(＝冉有)、也、問。『聞、斯、行、諸？』。子、曰。『聞、斯、行、之』。赤(＝子華)、也、惑、敢、問」

子、曰。「求(＝冉有)、也、退。故、進、之。由(＝子路)、也、兼 、人。故、退、之」

子路が孔子 先生に質問をした。「(真理を)聞いたら、行いますか？」

孔子 先生は言った。「父兄がいます。どうして父兄がいるのに、(真理を)聞いたら、行えますか？ いいえ！」

冉有が孔子先生に(同じ)質問をした。「(真理を)聞いたら、行いますか？」

孔子先生は言った。「(真理を)聞いたら、行います」

子華が孔子先生に言った。「子路が孔子先生に質問をしました。『真理を聞いたら、行いますか？』と。孔子先生は言いました。『父兄がいます』と。冉有が孔子先生に(同じ)質問をしました。『真理を聞いたら、行いますか？』と。孔子先生は言いました。『真理を聞いたら、行います』と。私、子華は困惑して、孔子先生に、あえて、質問します(。『同じ質問なのに、どうして子路と冉有に対する孔子先生の答えは異なるのでしょうか？』と)」

孔子先生は言った。「冉有は後退してしまうので、冉有には勧めたのである。子路は他人以上に、やり過ぎてしまうので、子路は退けたのである」(。相手に応じて答えを変える必要が有る場合が有る。)

先進第十一　第二十二章

子、畏、於、匡、顔淵（＝顔回）、後。

子、曰。「吾、以、女、為、死、矣」

曰。「子、在。回（＝顔回）、何、敢、死？」

孔子先生が匡で命を脅かされた時に、顔回が遅れて来た。

孔子先生は言った。「私、孔子は、あなた、顔回が死んでしまったと見なしていましたよ」（、「心配しましたよ」。）

顔回が言った。「孔子先生が御存命なのに、私、顔回が、どうして、あえて、死ぬでしょうか？　いいえ！」

先進第十一 第二十三章

季子然、問。「仲由(＝子路)、冉求(＝冉有)、可、謂、大、臣、与？」

子、曰。「吾、以、子、為、異、之、問。曾、由(＝子路)、与、求(＝冉有)、之、問。所謂、大、臣、者、以、道、事、君。不可、則、止。今、由(＝子路)、与、求(＝冉有)、也、可、謂、具臣、矣」

曰。「然、則、従、之、者、与？」

子、曰。「弑、父、与、君、亦、不、従、也」

季子然が孔子 先生に質問した。「子路と冉有は大いなる臣下と言えますか？」

孔子 先生は言った。「私、孔子は、あなたが(文字通りとは)異なる事を(別の真意で)質問していると見なしました。すなわち、子路と冉有(の人となり)について質問していますね。いわゆる、大いなる臣下とは、道理に基づいて君主に仕えます。そのため、道理に基づいて君主に仕える事が不可能な場合は、その君主の臣下をやめます。今の子路と冉有は君主が臣下の頭数をそろえるためだけの臣下と言えます」

季子然が言った。「そうであるならば、子路と冉有は君主の命令には何でも従う者であるのでしょうか？」

孔子 先生は言った。「子路と冉有は、父と上司の君主を殺す君主には従いません」

先進第十一　第二十四章

子路、使(させる)、子羔、為(なる)、費、宰。

子、曰。「賊(そこなう)、夫(その)、人之子」

子路、曰。「有、民人、焉。有、『社』、『稷』、焉。何、必、読、書、然(しかる)、後(のち)、為(なす)、学？」

子、曰。「是(この)故、悪(にくむ)、夫(その)、佞、者」

子路が、子羔を費の「宰」、「長として司って取り仕切る者」に成らせてしまった。

孔子先生は子路に言った。「あの、人の子である子羔を駄目にしてしまう」

子路が言った。「民である人がいます。『社』、『土地神用の祭壇』と『稷』、『穀物神用の祭壇』が有ります。必ずしも、書物を読んでから、その後で、学を実践する必要が、どうして有るでしょうか？」

孔子 先生は言った。「このように言うので、あの口先だけの者である子路を憎むとしよう(。私、孔子に憎まれるのが嫌ならば、改めなさい)」

先進第十一 第二十五章

子路、曾晳、冉有、公西華(=子華)、侍、坐。

子、曰。「以、吾、一日、長、乎、爾、毋、吾、以、也。居、則、曰。
『不、吾、知、也』。如、或、知、爾、則、何、以、哉？」

子路、「率爾」、而、対、曰。「千乗之国、摂、乎、大国之間、加、之、
以、『師旅』、因、之、以、饑饉、由(=子路)、也、為、之、比、及、三年、
可、使、有、勇、且、知、方、也」

夫子、哂、之。

「求(=冉有)。爾、何如？」

対、曰。「方、六、七十、如、五、六十。求(=冉有)、也、為、之、比、
及、三年、可、使、足、民。如、其礼楽、以、俟、君子」

「赤(=子華)。爾、何如？」

対、曰。「非、曰、能、之。願、学、焉。『宗廟』之事。如、『会
同』、『(玄)端』、『章甫』、願、為、『小相』、焉」

「点(＝曾晳)。爾、何如？」

鼓、瑟、希、鏗爾、舎、瑟、而、作、対、曰。「異、乎、三子者之撰」

子、曰。「何、傷、乎？ 亦、各、言、其志、也」

曰。「『莫春』、者、春服、既、成。『冠者』、五、六人、童子、六、七人。浴、乎、沂、風、乎、舞雩、詠、而、帰」

夫子、喟然、嘆、曰。「吾、与、点(＝曾晳)、也」

三子者、出、曾晳、後。

曾晳、曰。「夫、三子者之言、何如？」

子、曰。「亦、各、言、其志、也、已、矣」

曰。「夫子、何、哂、由(＝子路)、也？」

曰。「為、国、以、礼。其言、不、譲。是故、哂、之」

「唯、求(＝冉有)、則、非、邦、也、与？」

「安、見、方、六、七十、如、五、六十、而、非、邦、也、者？」

「唯、赤(＝子華)、則(すなわち)、非、邦、也、与(か)？」

「『宗廟』、『会同』、非、諸侯、而、何？　赤(＝子華)、也、為(なす)、之(これ)、小、孰(だれを)、能、為(なす)、之(これ)、大？」

子路、曾子の父である曾皙、冉有、子華が孔子 先生のそばに仕えて座っていた。

孔子 先生は言った。「私、孔子が、あなた達よりも年長者である事によって、私、孔子に遠慮する事なかれ。あなた達は、普段、私、孔子のそばにいると、言いますね。『自分を知ってもらえない』と。もし、ある人々に、あなたを知ってもらえるとすれば、何によって知ってもらいますか？」

子路が急に答えて言った。「千台の戦車がある諸侯の大国を、大国の間で、統治して、この(大国の間という)状況に加えて戦争が起きていて、これらの状況によって飢饉が起きていても、私、子路が、その、ある大国を統治すれば、三年間に及ぶ頃には、勇気が有るようにさせる事が可能ですし、かつ、品行方正を知らせる事が可能です」

孔子 先生は、この子路の言葉を聞いて、笑ってしまった。

孔子 先生は言った。「冉有よ。あなたは、どうですか？」

冉有が答えて言った。「四方が六、七十里、もしくは、五、六十里の小国。私、冉有が、その小国を統治すれば、三年間に及ぶ頃には、国民を満足させる事が可能です。ただし、その小国の礼儀作法や音楽のような物事については、他の王者を待ち望むとします」

孔子先生は言った。「子華よ。あなたは、どうですか？」

子華が答えて言った。「私、子華は『こういう事が可能である』とは言いません。願わくば、『宗廟』、『天子や諸侯の先祖の霊廟』の事を学びたいです。もしくは、会合で、『玄端』という黒い正装を着て、『章甫』という冠をかぶって、願わくば、『小相』という補佐役に成りたいです」

孔子先生は言った。「曾皙よ。あなたは、どうですか？」

曾皙が、「瑟」という琴の演奏を止めて、琴の演奏を止めて下に置いた時の「コーン」という音を響かせながら「瑟」という琴を下に置いて、答えて言った。「私、曾皙の選択は、他の三人の選択とは異なります」

孔子先生は言った。「どうして気にしてしまうのですか？　各々、その志を言っているだけです」

曾皙が言った。「春の終わり頃には、春用の服を既に完成させておきます。(そして、夏に、暑く成ったら、)若者、五、六人と、幼子、六、七人と共に、

『沂』という河で水浴びして、『舞雩』、『雨乞いの祭場』で涼んで、歌って帰ります」

孔子 先生は嘆息して感嘆して言った。「私、孔子は、曾皙に賛同する」

三人の弟子が退出したが、曾皙が残った。

曾皙が孔子 先生に言った。「あの三人の言葉は、どうだったのでしょうか？」

孔子 先生は言った。「各々、その志を言っただけです」

曾皙が言った。「孔子 先生は、なぜ、子路を笑ったのですか？」

孔子 先生は言った。「礼儀によって国を統治します。子路の言葉は謙遜しておらず、礼儀に反していました。そのため、子路の言葉に(思わず)笑ってしまいました」

曾皙が言った。「冉有の言葉の小国は、規模は違えど、国ではないですか？」

孔子 先生は言った。「四方、六、七十里、もしくは、五、六十里の小国を『国ではない』と見なす者を見つける事が、どうしてできるであろうか？いいえ！ 小国は、規模は違えど、国である」

曾皙が言った。「子華の言葉の『会合を補佐する』事は、国を統治する事の一部ではないですか？」

孔子先生は言った。「『宗廟』、『諸侯の先祖の霊廟』を祭る事も、会合する事も、諸侯の務めでなければ、何であると言うのか？　いいえ！　諸侯の務めである！　子華の言葉を『矮小である』と見なしてしまうならば、誰の言葉を『大いなる物である』と見なす事が可能であろうか？　いいえ！　子華の言葉は大いなる物である」

顔淵第十二

顔淵第十二第一章

顔淵(＝顔回)、問、仁。

子、曰。「『克己』、復、礼、為(なす)、仁。一日、『克己』、復、礼、天下、帰、仁、焉。為(なす)、仁、由(よる)、己。而、由(よる)、人、乎哉？」

顔淵(＝顔回)、曰。「請、問、其(その)目」

子、曰。「非礼、勿(なかれ)、視。非礼、勿(なかれ)、聴。非礼、勿(なかれ)、言。非礼、勿(なかれ)、動」

顔淵(＝顔回)、曰。「回(＝顔回)、雖、『不敏』、請、事(じゅうじする)、斯(この)語、矣」

顔回が孔子先生に「仁」、「思いやり深く知的である事」について質問した。

孔子先生は言った。「『克己』、『自制』、『節制』して礼儀を実行する事を『仁』、『思いやり深く知的である事』とします。一日でも『克己』、『自制』、『節制』して礼儀を実行すれば、天下の全てのものを『仁』、

『思いやり深く知的である事』に帰す事に成ります。『仁』、『思いやり深く知的である行動』をするかは、自分次第なのです。他人次第でしょうか？いいえ！」

顔回が言った。「答えてくださる事を請い願って、その『仁』、『思いやり深く知的である行動』の細目を質問します」

孔子 先生は言った。「非礼な行動を視る事を好むなかれ。非礼な言葉を聞き入れて行うなかれ。非礼な言葉を言うなかれ。非礼な行動を行う事なかれ」

顔回が言った。「私、顔回は、非才でも、請い願わくば、この孔子 先生の言葉通りに行えるように取り組みます」

顔淵第十二第二章

仲弓(＝雍)、問、仁。

子、曰。「出、門、如（のよう）、見、大賓。使（つかう）、民、如（のよう）、承、大祭。己、所、不、欲、勿（なかれ）、施、於、人。在、邦、無（ない）、怨。在、家、無（ない）、怨」

仲弓(＝雍)、曰。「雍、雖、『不敏』、請、事（じゅうじする）、斯（この）語、矣」

雍が孔子 先生に「仁」、「思いやり深い知的な言動」について質問した。

孔子 先生は言った。「(『思いやり深い知的な言動』をするとは、)門を出たら、全ての他人を大事な御客様として見るような物なのである。(『思いやり深い知的な言動』をするとは、役人として)国民を使役するのを、大いなる神霊を祭る事を 承（うけたまわ）るようにするような物なのである。(『思いやり深い知的な言動』をするには、)自分が、されたくないと欲する言動を他人にする事なかれ。(『思いやり深い知的な言動』をするとは、)自国にいて怨まれないようにする事である。(『思いやり深い知的な言動』をするとは、)自宅にいて怨まれないようにする事である」

雍が言った。「雍は、非才でも、請い願わくば、この孔子 先生の言葉通りに行えるように取り組みます」

顔淵第十二第三章

司馬牛、問、仁。

子、曰。「仁者、其(その)言、也、訒(くちがおもい)」

曰。「其(その)言、也、訒(くちがおもい)、斯(すなわち)、謂、之(これ)、仁、已(のみ)、夫？」

子、曰。「為(なす)、之(これ)、難。言、之(これ)、得、無(ない)、訒(くちがおもい)、乎？」

司馬牛が孔子 先生に「仁」、「思いやり深い知的である言動」について質問した。

孔子 先生は言った。「思いやり深い知者は、その言葉が慎重である」

司馬牛が言った。「言葉が慎重であるのを『思いやり深い知的である言動』と言うだけですか？」

孔子 先生は言った。「言葉を慎重にするのは、行うのが難しいのです。行うのが難しい事を言ってしまう者は、言葉が慎重ではなく軽率な者である、と言う事ができ得てしまいませんか？　はい！　でき得てしまう！　思いやり深い知者は、行うのが難しい事を言わないので、言葉が慎重に成る！」

顔淵第十二第四章

司馬牛、問、君子。

子、曰。「君子、不、憂。不、懼」

曰。「不、憂。不、懼。斯（すなわち）、謂、之（これ）、君子、矣、夫？」

子、曰。「『内省』、不、疚（やましい）、夫（それ）、何、憂？　何、懼？」

司馬牛が孔子 先生に(知恵による真の)王者について質問した。

孔子 先生は言った。「王者は、心配する必要が無い。恐れる所など無い」

司馬牛が言った。「心配しない人。恐れない人。これらの人々が王者であると言うのですか？」

孔子 先生は言った。「自身を反省してみて疚（やま）しい所が無ければ、(思いやり深い善い言動をしていれば、他人に助けてもらえるので)心配する必要が無いですよね？　はい！　心配する必要が無い！　(善行であると知って善行を恐れず行えば、)恐れる所など無いですよね？　はい！　恐れる所など無い！

（なぜなら、善行であると知っているからである。また、善行を遂行したからである）」

顔淵第十二第五章

司馬牛、憂、曰。「人、皆、有、兄弟。我、独、亡（ない）」

子夏、曰。「商（＝子夏）、聞、之（これ）、矣。『死、生、有、命。富貴、在、天』。君子、敬、而、無（ない）、失（あやまち）、与（と）、人、恭、而、有、礼、四海之内、皆、兄弟、也。君子、何、患（うれう）、乎、無（ない）、兄弟、也」

司馬牛が心配に成ってしまって言った。「他人には皆、兄弟がいるのに、私、司馬牛、独りだけには兄弟がいない」

子夏が司馬牛に言った。「私、子夏は、このような言葉を聞いた事が有ります。『生死は運命次第である。金銭と高貴な地位は天の神次第である（。生死も金銭も高貴な地位も人には、どうしようもない）』と。また、（知恵による真の）王者が、敬った言動をして、過失が無くて、他人へと恭しくして謙遜して、礼儀が有れば、世界中の全てのものが皆、兄弟、同胞なのです。（知恵による真の）王者が、どうして、兄弟がいない事を心配するでしょうか？　いいえ！」

顔淵第十二第六章

子張、問、明。

子、曰。「浸潤之譖、膚受之愬、不、行、焉、可、謂、明、也、已、矣。
浸潤之譖、膚受之愬、不、行、焉、可、謂、遠、也、已、矣」

子張が孔子 先生に賢明さについて質問した。

孔子 先生は言った。「侵し広がるような悪口、知らない間に汚染するような悪口を行われなければ、（過失が無ければ、油断が無ければ、）『賢明である』と言えるばかりである。侵し広がるような悪口、知らない間に汚染するような悪口を行われなければ、（過失が無ければ、油断が無ければ、）『深謀遠慮できている』と言えるばかりである」

顔淵第十二第七章

子貢、問、政。

子、曰。「足（たらせる）、食。足（たらせる）、兵。民、信、之（これ）、矣」

子貢、曰。「必、不得已（やむをえず）、而、去、於、斯（この）三者、何、先？」

曰。「去、兵」

子貢、曰。「必、不得已（やむをえず）、而、去、於、斯（この）二者、何、先？」

曰。「去、食。自（より）、古、皆、有、死。民、無（ない）、信、不、立」

子貢が孔子先生に「政治とは何でしょうか？」と質問した。

孔子先生は言った。「(政治とは、)食べ物を充足させる事、兵(士と兵器の質と量)を充足させる事、国民に善を信じさせる事である」

子貢が言った。「必ず、やむを得ず、捨て去って、あきらめる必要が有ったならば、それらの三つの事のうち、どれを先に、捨て去って、あきらめますか？」

孔子 先生は言った。「兵(士と兵器の質と量を充足させる事)を、捨て去って、あきらめます」

子貢が言った。「必ず、やむを得ず、捨て去って、あきらめる必要が有ったならば、それらの残りの二つの事のうち、どちらを先に、捨て去って、あきらめますか?」

孔子 先生は言った。「食べ物(を充足させる事)を、捨て去って、あきらめます。古くから、人には、皆、死が有ります。(死は不可避である。)国民、人々は、善を信じなければ、(学を)確立できない(。学を確立できなければ、知恵に到達できない。知恵に到達できなければ、本当の意味で善行できない。本当の意味で善行できなければ、生きている意味が無い。生きている価値が無い)」

顔淵第十二第八章

棘子成、曰。「君子、質、而、已(のみ)、矣。何、以、文、為(する)?」

子貢、曰。「惜、乎。夫子、之(の)、説、君子、也。『駟(四頭立ての馬車)』、不、及、舌。文、猶(のよう)、質、也。質、猶(のよう)、文、也。虎(トラ)、豹(ヒョウ)之『鞹(かわ)』、猶(のよう)、犬、羊之『鞹(かわ)』」

棘子成が言った。「王者は、(先天的な)素質だけによる者である。言葉による文字による知恵によって、どうするつもりですか? 無意味です!」

子貢が言った。「王者についての、あなた、棘子成の説は残念な説です。四頭立ての馬車の速さは、舌による失言の速さに及ばない。言葉による文字による知恵は、(心の)性質に似ている。(心の)性質は、言葉による文字による知恵に似ている。虎(トラ)や豹(ヒョウ)の皮膚が、犬や羊の皮膚と似ているような物なのである」

(心の単一性と、知恵の統一性は、似ている。)

顔淵第十二第九章

哀公、問、於、有若、曰。「年、饑、用(ひょう)、不足。如之何(これ、いかん)?」

有若、対(こたえる)、曰。「盍(どうして)、『徹』、乎?」

曰。「二、吾(われ)、猶(なお)、不足。如之何(これ、いかん)、其(それ)、『徹』、也?」

対(こたえる)、曰。「百姓、足(たりる)、君、孰(だれと)、与(ともに)、不足? 百姓、不足、君、孰(だれと)、与(ともに)、足?」

哀公が有若 先生に質問して言った。「饑饉(ききん)の年で費用が不足している。これ(、費用不足)をどうしたら良いでしょうか?」

有若 先生は答えて言った。「どうして、『徹』という『十分の一税』へ税率を下げないのですか?」

哀公が言った。「十分の二税でもなお、私、哀公には費用が不足している。それなのに、どうして、『徹』という『十分の一税』へ税率を下げるのか? いいえ!」

有若先生は答えて言った。「百姓が満ち足りていれば、君主は、誰と共に、(費用が)不足するであろうか？（心が満ち足りないであろうか？）いいえ！　百姓が何かに不足していれば、君主は、誰と共に、(心が)満ち足りる事ができようか？　いいえ！」

顔淵第十二第十章

子張、問、崇、徳、弁、惑。

子、曰。「主、忠信、徙、義、崇、徳、也。愛、之、欲、其生。悪、之、欲、其死。既、欲、其生、又、欲、其死、是、惑、也(。誠、不、以、富、亦、祇、以、異)」(※「誠、不、以、富、亦、祇、以、異」は、季氏第十六第十二章の一部であり、顔淵第十二第十章に誤って重複して挿入されたそうです。)

子張が孔子 先生に、「徳」、「善」を高める方法と、惑い、迷いを区別する方法を質問した。

孔子 先生は言った。「『忠信』、『誠実さ』を主として、(悪から)正義(、善)へ移れば、『徳』、『善』を高められる。あるものを愛すれば、そのものに生きて欲しいと思う。あるものを憎悪すれば、そのものに死んで欲しいと思う。そのものに生きて欲しいと既に思っていながら、そのものに死んで欲しいと思ってしまうのは、惑っている、迷っているのである」

顔淵第十二第十一章

斉、景公、問、政、於、孔子。

孔子、対(こたえる)、曰。「君、君。臣、臣。父、父。子、子」

公、曰。「善、哉。信(まことに)、如(もし)、君、不、君、臣、不、臣、父、不、父、子、不、子、雖(いえども)、有、粟(こくもつ)、吾(われ)、得、而、食、諸(これ)?」

斉という国の景公が孔子 先生に統治方法について質問した。

孔子 先生は答えて言った。「君主が真の君主である事です。臣下が真の臣下である事です。父が真の父である事です。子が真の子である事です」

景公が言った。「(孔子 先生の答えは)善いかな。まことに、もし、君主が君主でなければ、臣下が臣下でなければ、父が父でなければ、子が子でなければ、穀物が有っても、私、景公が、その穀物を得て食べる事ができようか? 不確かである!」

顔淵第十二第十二章

子、曰。「片言(ひとこと)、可、以、折(はんだんする)、獄(うったえ)、者(もの)、其(それ)、由(＝子路)、也、与(か)」

子路、無(ない)、宿(とめておく)、諾(ひきうける)。

孔子先生は言った。「一言で他人による訴えを判断できる者は子路であろうか」

子路は、引き受けた事を置いておかなかった。

顔淵第十二第十三章

子、曰。「聴、訟、吾(われ)、猶(のよう)、人、也。必、也、使(させる)、無(ない)、訟、乎」

孔子 先生は言った。「他人による訴えを聴いて判断する力では、私、孔子は、他人と同程度である。しかし、私、孔子は、必ず、訴えが無く成るようにさせたい(。私、孔子は他人を訴えずに許す事ができる社会にしたい)」

顔淵第十二第十四章

子張、問、政。

子、曰。「居、之(これ)、無(ない)、倦(あきる)。行、之(これ)、以、忠」

子張が孔子 先生に統治方法について質問した。

孔子 先生は言った。「(統治方法とは、)上位にいて(下位の者のために奉仕して)飽きない事である。また、誠実に統治を行う事である」

顔淵第十二第十五章

子、曰。「博、学、以、文。約、之、以、礼。亦、可、以、弗、畔、矣夫」

孔子先生は言った。「言葉による文字による知恵を広く学ぶ。礼儀で学を要約する。これらによって、善、正義に違反しない事が可能である」

顔淵第十二第十六章

子、曰。「君子、成、人之美。不、成、人之悪。小人、反、是(これ)」

孔子先生は言った。「王者は、人にとっての美(、善)を形成する。人にとっての悪は形成しない。矮小な人は、これ(、王者)とは正反対なのである」

顔淵第十二第十七章

季康子、問、政、於、孔子。

孔子、対（こたえる）、曰。「政、者（とは）、正、也。子、帥（ひきいる）、以、正、孰（だれが）、敢、不正？」

季康子が孔子 先生に政治方法、統治方法について質問した。

孔子 先生は答えて言った。「政治の『政』とは正義の『正』なのです。あなた、季康子が正義によって臣下達を率（ひき）いれば、誰が、あえて不正を行うでしょうか？　いいえ！」

顔淵第十二第十八章

季康子、患(うれう)、盗、問、於、孔子。

孔子、対(こたえる)、曰。「苟(かりに)、子、之(の)、不、欲、雖(いえども)、賞、之(これ)、不、竊(ぬすむ)」

季康子が孔子先生に、強盗を心配して強盗の対策方法を質問した。

孔子先生は答えて言った。「仮に、あなた、季康子が無欲で(清貧で)あれば、他人は、それを称賛する事は有っても、季康子から強盗しようとはしないであろう(。季康子が貪欲で不正に贅沢をしているから、他人は、それを憎悪して強盗するのである。改めなさい)」

顔淵第十二第十九章

季康子、問、政、於、孔子、曰。「如、殺、無道、以、就、有道、何如？」

孔子、対、曰。「子、為、政、焉、用、殺？ 子、欲、善、而、民、善、矣。君子之徳、風。小人之徳、草。草、上、之、風、必、偃」

季康子が孔子 先生に統治方法について質問して言った。「もし、『無道』な人を殺すという『有道』な事を行えば、どうでしょうか？ (よろしいでしょうか？)」

孔子 先生は答えて言った。「あなた、季康子は統治をしたいのに、どうして殺人を用いようとするのですか？ (殺したら統治できないので、矛盾している！) あなた、季康子が善を欲して望めば、国民は善く成るのです。王者の『徳』、『善行』、『善い言動』は風のような物なのです。矮小な人の『徳』、『力』は草のような物なのです。この草(のような矮小な人の力)に風(のような王者の善い言動)を加えてあげると、草は必ず伏せて(従って)くれるのです(。これが統治方法です)」

顔淵第十二第二十章

子張、問。「士、何如(いかん)、斯(ここで)、可、謂、之(これ)、達、矣?」

子、曰。「何、哉、爾(なんじ)、所謂(いわゆる)、達、者(もの)?」

子張、対(こたえる)、曰。「在、邦、必、聞。在、家、必、聞」

子、曰。「是(これ)、聞、也。非、達、也。夫(それ)、達、也(なる)、者(もの)、質、直、而、好、義。察、言、而、観、色、慮、以、下(はんだんをくだす)、人。在、邦、必、達。在、家、必、達。夫(それ)、聞、也(なる)、者(もの)、色、取、仁、而(しかし)、行、違。居、之(これ)、不、疑。在、邦、必、聞。在、家、必、聞」

子張が孔子 先生に質問した。「『士』、『一人前の人』は、この段階から、どうすれば、達道者と言えるように成りますか?」

孔子 先生は言った。「あなた、子張が言っている『達道者』とは、どのような者なのですか?」

子張が答えて言った。「(私、子張が言っている『達道者』とは、)国においても必ず名声が聞こえて来るし、家にいても必ず名声が聞こえて来る者です」

孔子 先生は言った。「そのような者は『名声に執着してしまう者ども』であって、『達道者』ではないです。『達道者』は、(心の)性質が正直であり、正義を好みます。言動を観察し、顔色、色形、姿形、様子、行動を観察して熟慮して他人を判断します。どんな国にいても必ず『道』、『真理』に到達しますし、家にいても必ず『道』、『真理』に到達します。『名声に執着してしまう者ども』は、善い正しい顔色、色形、姿形、様子、行動を取ろうとしても、行動が善、正義に違反します。このように、行動が善、正義に違反しているのに停滞していて、その停滞を疑問にも思わないです。しかし、国においても必ず名声が聞こえてしまうし、家にいても必ず名声が聞こえてしまうのです(。名声をそのまま信じてはいけない。名声に執着してはいけない。名声に執着すると正しい人に成れない)」

顔淵第十二第二十一章

樊遅、従、遊、於、舞雩之下、曰。「敢、問、崇(たかくする)、徳、修、慝(じゃあく)、弁(わきまえる)、惑？」

子、曰。「善、哉、問。先、事(こと)、後、得、非、崇(たかくする)、徳、与(か)？ 攻(ひなんする)、其(その)悪、無(ない)、攻(ひなんする)、人之悪、非、修、慝(じゃあく)、与(か)？ 一朝之忿、忘、其(その)身、以、及、其(その)親、非、惑、与(か)？」

樊遅が孔子 先生に従者として従ってついていき、雨乞いの祭場の下(もと)まで行った時に、孔子 先生に言った。「『徳』、『善』を高める方法、悪い所を直すために修行する方法、惑い、迷いを区別する方法について、あえて質問します」

孔子 先生は言った。「善いですね、それを質問するのは。事態を優先して先に善行、労苦して、利益を得るのを後回しにする事が、『徳』、『善』を高める方法です！ 自身の悪い所を非難して、他人の悪い所を非難しない事が、悪い所を直すために修行する方法です！ 一時の怒りに我を忘れて、自身の親しい人達に迷惑を及ぼしてしまう事が、惑い、迷いです！」

顔淵第十二第二十二章

樊遲、問、仁。

子、曰。「愛、人」

問、知。

子、曰。「知、人」

樊遲、未、達。

子、曰。「挙、直、錯（うえにおく）、諸（これ）、枉（まがっている）、能、使（させる）、枉（まがっている）、者（もの）、直」

樊遲、退、見（あう）、子夏、曰。「郷（さきに）、也、吾（われ）、見（あう）、於、夫子、而、問、知。子、曰。『挙、直、錯（うえにおく）、諸（これ）、枉（まがっている）、能、使（させる）、枉（まがっている）、者（もの）、直』。何、謂、也？」

子夏、曰。「富、哉、言、乎。舜、有、天下、選、於、衆、挙、皋陶、不、仁、者（もの）、遠、矣。湯、有、天下、選、於、衆、挙、伊尹、不、仁、者（もの）、遠、矣」

樊遅が孔子 先生に「『仁』、『思いやり』とは何か?」と質問した。

孔子 先生は言った。「(思いやりとは、)他人を愛する事です」(、「思いやりとは他者を自分よりも優先する事です」。)

樊遅が孔子 先生に「知恵とは何か?」と質問した。

孔子 先生は言った。「(知恵とは、)他人を(真に)知る事です」

樊遅は知恵について未だ通達できなかった。

孔子 先生は言った。「正直な人を上位に挙げて、心がねじ曲がっている人よりも上位に置けば、心がねじ曲がっている人に心を直させる事が可能である(。これが知恵である)」

樊遅は、退出すると、子夏に会ったので、言った。「先ほど、私、樊遅は孔子 先生にお会いして『知恵とは何か?』と質問しました。孔子 先生は言いました。『正直な人を上位に挙げて、心がねじ曲がっている人よりも上位に置けば、心がねじ曲がっている人に心を直させる事が可能である。これが知恵である』と。孔子 先生は、どのような事を言っていたのでしょうか?」

子夏が言った。「知恵に富んでいる、孔子 先生の言葉は。古代の聖王である舜が、天下を所有して、大衆の中から皐陶を選んで上位に挙げると、思いやりが無い愚者どもは舜から遠ざかりました。古代の聖王である殷王朝の湯

王が、天下を所有して、大衆の中から伊尹を選んで上位に挙げると、思いやりが無い愚者どもは湯王から遠ざかりました(。孔子先生の言葉は、これらの事を言っていたのです)」

顔淵第十二第二十三章

子貢、問、友。

子、曰。「忠告、而、善、道（みちびく）、之（これ）。不可、則（すなわち）、止。毋（なかれ）、自（みずから）、辱（はずかしめ）、焉」

子貢が孔子 先生に友としての在り方について質問した。

孔子 先生は言った。「忠告して友を善に導きなさい。友を善に導くのが不可能であれば友である事をやめなさい。友が自分を侮辱するようになるなかれ(。相手が不要としているのに相手を思いやると、相手に、お節介をすると、相手に嫌われて、相手に侮辱されてしまう。注意しなさい)」

顔淵第十二第二十四章

曾子、曰。「君子、以、文、会、友。以、友、輔、仁」

曾子先生は言った。「王者は、言葉による文字による知恵によって友と出会う。友は『仁』、『思いやり』を助けてくれる」

子路第十三

子路第十三第一章

子路、問、政。

子、曰。「先、之(これ)。労(いたわる)、之(これ)」

「請益」

曰。「無(なかれ)、倦(あきる)」

子路が孔子 先生に統治方法について質問した。

孔子 先生は言った。「国民よりも先んじて行(おこな)ってみせなさい。国民を大事にしなさい」

子路が言った。「重ねて教えを請いたいです」

孔子 先生は言った。「(下位の者達を大事にする事に)飽(あ)きる事なかれ」

子路第十三第二章

仲弓(＝雍)、為(なる)、季氏、宰、問、政。

子、曰。「先、有司。赦、小、過(あやまち)。挙、賢才」

曰。「焉(どのようにして)、知、賢才、而、挙、之(これ)？」

曰。「挙、爾(なんじ)、所、知。爾(なんじ)、所、不、知、人、其(それ)、舎(すてる)、諸(これ)？」

雍が、季氏の「宰」、「長として司って取り仕切る者」に成ったので、統治方法について孔子 先生に質問した。

孔子 先生は言った。「担当者を優先させなさい。小さな過(あやま)ちは許しなさい。賢明で有能な者を上位に挙げなさい」

雍が言った。「どのようにして、賢明で有能な者を知って上位に挙げるのですか？」

孔子 先生は言った。「あなた、雍が知っている賢明で有能な者を上位に挙げなさい。そうすれば、あなた、雍が知らない賢明で有能な者を、他人は捨

て置くであろうか？　いいえ！　他人は賢明で有能な者を雍に知らせてくれるはずである！」

子路第十三第三章

子路、曰。「衛、君、待(ていちょうにあつかう)、子、而、為政、子、将(まさに)、奚(なにを)、先？」

子、曰。「必、也、正(ただす)、名、乎」

子路、曰。「有、是(これ)、哉？ 子、之(の)、迂、也。奚(どうして)、其(それ)、正(ただす)？」

子、曰。「野、哉、由(＝子路)、也。君子、於、其(その)、所、不、知、蓋(かんがえるに)、闕如、也。名、不正、則(すなわち)、言、不、順(したがう)。言、不、順(したがう)、則(すなわち)、事(こと)、不、成。事、不、成、則(すなわち)、礼、楽、不、興。礼、楽、不、興、則(すなわち)、刑罰、不、中(あたる)。刑罰、不、中(あたる)、則(すなわち)、民、無(ない)、所、措(ふるまう)、手足。故、君子、名、之(の)、必、可、言、也。言、之(これ)、必、可、行、也。君子、於、其(その)言、無(ない)、所、苟(けいそつ)、而、已(のみ)、矣」

子路が孔子先生に言った。「衛という国の君主が孔子先生を丁重に扱って統治するならば、孔子先生は、まさに、何を優先しますか？」

孔子先生は言った。「必ず名前を正しくします」

子路が言った。「そんな事が有りますか？ 孔子先生は『迂遠』、『遠回り過ぎて無意味』です。どうして名前を正しくするのですか？」

孔子 先生は言った。「粗野である、子路は。私、孔子が考えるに、王者は、知らない事については『知らない』とする物なのです。さて、名前が不正であれば、言葉が事実に反してしまいます。言葉が事実に反してしまえば、何事かを成就できなく成ってしまいます。何事かを成就できなく成ってしまえば、礼儀作法や音楽(の心)が盛んにできなく成ってしまいます。礼儀作法や音楽(の心)が盛んにできなく成ってしまえば、刑罰が(心無い物と成ってしまって)不適切に成ってしまいます。刑罰が(心無い物と成ってしまって)不適切に成ってしまえば、国民は自ら自由に適切に振る舞う事ができなく成ってしまいます。だから、王者は、名前を必ず適切に言えるように正します。言った事は必ず行えるように正します。王者は言葉を軽率に言わないだけなのです」

子路第十三第四章

樊遅、請、学、稼(こくもつをうえる)。

子、曰。「吾(われ)、不如(しかず)、老、農」

請、学、為(つくる)、圃(はたけ)。

曰。「吾(われ)、不如(しかず)、老、圃(のうふ)」

樊遅、出。

子、曰。「小人、哉、樊須(＝樊遅)、也。上、好、礼、則(すなわち)、民、莫(ない)、敢、不敬。上、好、義、則(すなわち)、民、莫(ない)、敢、不、服。上、好、信、則(すなわち)、民、莫(ない)、敢、不、用、情。夫(それ)、如(のよう)、是(この)、則(すなわち)、四方之民、『襁負(おさなごをせおう)』、其(その)子、而、至、矣。焉(どうして)、用、稼(こくもつをうえる)？」

樊遅が孔子 先生から穀物の植え方について学びたいと請い願った。

孔子 先生は言った。「私、孔子は老練の農業従事者には及ばない」

樊遅が孔子 先生から畑の作り方について学びたいと請い願った。

また、孔子 先生は言った。「私、孔子は老練の農業従事者には及ばない」

樊遅が退出した。

孔子 先生は言った。「矮小である、樊遅は。上位の者が礼儀を好めば、下位の国民は、あえて不敬ではなく成る(。敬ってくれる)。上位の者が正義を好めば、下位の国民は、あえて逆らわなく成る(。従ってくれる)。上位の者が『信』、『誠実さ』を好めば、下位の国民は愛情を用いるように成る。上位の者が、このようにすれば、四方から国民が自分の幼子を背負ってでも、その国へ到来してくれる。上位の知者が、どうして『穀物を植える』などという手段を用いるであろうか? いいえ! 用いない!」

子路第十三 第五章

子、曰。「誦、『詩』、三百。授、之（これ）、以、政、不、達。使（はけんする）、於、四方、不能、『専対（独りでも対応できる）』。雖（いえども）、多、亦、奚（なにを）、以、為（なす）？」

孔子先生は言った。「『詩経』の約三百の詩を唱えるだけの人。こんな人に統治者の地位を授けても、何も達成できないであろう。こんな人を四方へ派遣しても独りでも対応できないであろう。こんな人は、唱えた詩の数が多くても、唱えた詩の数によって何をできるというのか？　いいえ！　何もできない！」

子路第十三 第六章

子、曰。「其（その）身、正、不、令（めいれいする）、而、行。其（その）身、不正、雖（いえども）、令（めいれいする）、不、従」

孔子 先生は言った。「その人の身心、言動が正しければ、命令しなくても、他人は行動してくれるであろう。その人の身心、言動が不正であれば、命令しても、他人は従ってくれないであろう」

子路第十三 第七章

子、曰。「魯、衛之政、兄弟、也」

孔子 先生は言った。「魯という国と、衛という国の統治は、兄弟のように似ている」

子路第十三 第八章

子、謂、衛、公子、荊。「善、居（たくわえる）、室。始、有、曰。『苟（かろうじて）、合、矣』。少、有、曰。『苟（かろうじて）、完、矣』。富、有、曰。『苟（かろうじて）、美、矣』」

孔子 先生は衛という国の公子である荊について言った。「荊は、家の財産を善く蓄える事ができた。財産を所有し始めた時に言った。『家の財産が、かろうじて生きていくのに間に合いそうである』と。少し蓄財した時に言った。『家の財産が、かろうじて完璧に成った』と。豊富に蓄財した時に言った。『家の財産が、かろうじて華美に成った』」（。荊は、財産について少欲であった、と共に、蓄財について向上心が有った。）

子路第十三 第九章

子、適（いく）、衛。冉有、僕（しもべ）。

子、曰。「庶（おおい）、矣、哉」

冉有、曰。「既（すでに）、庶（おおい）、矣。又、何、加（くわえる）、焉？」

曰。「富、之（これ）」

曰。「既（すでに）、富、矣、又、何、加（くわえる）、焉？」

曰。「教、之（これ）」

孔子 先生が衛という国へ行った、ある時、冉有が従者として従っていた。

孔子 先生は言った。「衛という国は、人数が多い」

冉有が孔子 先生に言った。「既（すで）に多いです。さらに、何を加えますか？」

孔子 先生は言った。「衛という国を豊かにしたいですね」

冉有が孔子 先生に言った。「既に豊かに成ったら、さらに、何を加えますか？」

孔子 先生は言った。「衛という国の人達に(真理、善を)教えたいですね」

子路第十三 第十章

子、曰。「苟(かりに)、有、用、我(われ)、者(もの)、期、月(一年間)、而、已(すでに)、可、也。三年、有、成」

孔子先生は言った。「仮に、私、孔子を採用してくれる者がいれば、一年間、十二か月間でも既に良い結果を残す事が可能である。三年間、有れば、完全に成就できる」

子路第十三第十一章

子、曰。「『善人、為、邦、百年、亦、可、以、勝、残、去、殺、矣』。
誠(まこと)、哉、是(この)言、也」

孔子先生は言った。「『善人が百年間、国を統治すれば、悪人の残忍さに(思いやりで)勝利できるであろうし、殺人刑を無くし去らせる事ができるであろう』と言われている。真実である、この言葉は」

子路第十三 第十二章

子、曰。「如(もし)、有、王者、必、世(三十年間)、而、後、仁」

孔子先生は言った。「もし、王者がいても、必ず三十年間の治世後に、国民を『仁にする』、『思いやり深くする』」

子路第十三 第十三章

子、曰。「苟、正、其身、矣、於、従、政、乎、何、有？ 不能、正、其身、如正人何？」

孔子 先生は言った。「本当に、自身の身心、言動を正しくすれば、政治に従事して、何か問題が有るであろうか？ いいえ！ 問題無い！ 自身の身心、言動を正しくする事が不可能であれば、正に、どうして、他人の身心、言動を正しくする事が可能であろうか？ いいえ！ 不可能である！」

子路第十三 第十四章

冉子(＝冉有)、退、「朝」。

子、曰。「何(どうして)、晏(おそい)、也？」

対(こたえる)、曰。「有、政」

子、曰。「其(それ)、事(こと)、也？！ 如(もし)、有、政、雖(いえども)、不、吾(われ)、以(もちいる)、吾(われ)、其(それ)、与(あずかる)、聞、之(これ)」

冉有 先生が「朝廷」を退出して来た。

孔子 先生は冉有 先生に言った。「どうして遅く成ったのですか？」

冉有 先生が答えて言った。「政治的な会議が有りました」

孔子 先生は言った。「それは天子による公事ですか？ いいえ！ 天子気取りの季氏による私事ですよね！ もし天子による政治的な会議が有れば、私、孔子が役人として採用されていなくても、私、孔子は、それを聞く事にあずかる事ができるはずです」

子路第十三第十五章

定公、問。「一言、而、可、以、興、邦、有、諸？」

孔子、対、曰。「言、不可、以、若、是、其、幾、也。人之言、曰。『為、君、難。為、臣、不、易』。如、知、為、君、之、難、也、不、幾、乎、一言、而、興、邦、乎？」

曰。「一言、而、喪、邦、有、諸？」

孔子、対、曰。「言、不可、以、若、是、其、幾、也。人之言、曰。『予、無、楽、乎、為、君。唯、其言、而、莫、予、違、也』。如、其、善、而、莫、之、違、也、不、亦、善、乎？ 如、不善、而、莫、之、違、也、不、幾、乎、一言、而、喪、邦、乎？」

定公が孔子 先生に質問した。「一言で国を生む事が可能である。このような事は有りますか？」

孔子 先生は答えて言った。「言葉では、そのような事は不可能ですが、それに近い事は有ります。人々は言っています。『真の王者に成る事は困難である。真の王者と比べると、真の臣下に成る事は簡単である』と。もし、真の王者に成る困難さを知れば、一言で国を生むのに近づいている！」

定公が言った。「一言で国を滅ぼしてしまう。このような事は有りますか？」

孔子先生は答えて言った。「言葉では、そのような事は不可能ですが、それに近い事は有ります。人々は言っています。『私は君主である事を楽しまない。ただ、私が言うと、私に反対する臣下がいないだけなのである』と。もし、君主が善人であり、その善い君主に反対する臣下がいないのであれば、善いのであるが！　もし、君主が悪人であり、その悪い君主に反対する臣下がいないのであれば、一言で国を滅ぼしてしまう状況に近いのである！」

子路第十三 第十六章

葉公、問、政。

子、曰。「近、者(もの)、説(よろこぶ)、遠、者(もの)、来」

葉公が孔子 先生に統治方法について質問した。

孔子 先生は言った。「自国の近い者達が喜ぶ統治をすれば、他国の遠い者達も集まって来てくれる(。このような統治を目指すべきなのです)」

子路第十三第十七章

子夏、為（なる）、莒父、「宰」、問、政。

子、曰。「無（なかれ）、欲、速。無（なかれ）、見、小、利。欲、速、則（すなわち）、不、達。見、小、利、則（すなわち）、大事、不、成」

子夏が、莒父という所の「宰」、「長として司って取り仕切る者」に成ったので、孔子 先生に統治方法について質問した。

孔子 先生は言った。「拙速を欲するなかれ。矮小な利益を見るなかれ。拙速を欲してしまえば、結果を達成できないであろう。矮小な利益を見てしまえば、大事な事が成就できないであろう」

子路第十三 第十八章

葉公、語、孔子、曰。「吾（わが）党、有、直、『躬』、者（もの）。其（その）父、攘（ぬすむ）、羊。而（しかし）、子、証（じじつをあきらかにする）、之（これ）」

孔子、曰。「吾（わが）党之、直、者（もの）、異、於、是（これ）。父、為（ため）、子、隠。子、為（ため）、父、隠。直、在、其（その）中、矣」

葉公が孔子先生に語って言った。「私、葉公の国民には躬という正直者がいます。その躬の父が羊を盗むと、子である躬は、この事実を明らかにしました」

孔子先生は言った。「私、孔子の国の(真の)正直者は、そんな者とは異なります。父は子の為に子の罪を覆い隠してあげます。子は父の為に父の罪を覆い隠してあげます。真の正直とは、それらの中に在るのです」

子路第十三第十九章

樊遅、問、仁。

子、曰。「居、処、恭。執、事、敬。与、人、忠。雖、之、『夷狄』、不可、棄、也」

樊遅が「仁」、「思いやり深く知的である事」について質問した。

孔子先生は言った。「家に居ても家族を恭しく敬う人、公事を執り行っても他人を敬う人、他人と組んでも誠実である人は、野蛮な未開の国に行っても、捨て置かれないであろう(。これが、思いやり深く知的である事である)」

子路第十三第二十章

子貢、問、曰。「何如(いかなる)、斯(これ)、可、謂、之(これ)、『士』、矣？」

子、曰。「行、己、有、恥。使(はけんする)、於、四方、不、辱、君、命。可、謂、『士』、矣」

曰。「敢、問、其(その)次」

曰。「『宗族』、称、孝、焉。郷党、称、弟、焉」

曰。「敢、問、其(その)次」

曰。「言、必、信。行、必、果(はたす)。『硜硜然』、小人、哉。抑(そもそも)、亦、可、以、為(なす)、次、矣」

曰。「今之、従(じゅうじする)、政、者(もの)、何如(いかん)？」

子、曰。「噫(ああっ)。『斗筲』之人。何(どうして)、足(たりる)、算(かぞえる)、也？」

子貢が孔子先生に質問して言った。「どのような者が『士』、『一人前である者』であると言えますか？」

孔子 先生は言った。「自身の言行に恥じる(悪い)所が有る(のを知る事ができる)者、四方に派遣して派遣元の任命が侮辱されない者は、『士』、『一人前である者』であると言えます」

子貢が言った。「あえて、その一つ下の段階の者を質問します」

孔子 先生は言った。「一族が『親孝行である』と称賛する者です。故郷の人々が『目上の人達を敬っている』と称賛する者です」

子貢が言った。「あえて、その一つ下の段階の者を質問します」

孔子 先生は言った。「言葉が必ず誠実である者です。行動したら必ず最後まで果たす者です。ただし、『硜硜然』と融通が利かず矮小な者ですが。しかし、『一人前である者の、二つ下の段階の者である』と見なす事が可能です」

子貢が言った。「今の、政治に従事する者は、どうでしょうか？」

孔子 先生は言った。「ああっ。矮小な人である。どうして『一人前である者』のうちに数えるに足りるであろうか？　いいえ！　『一人前である者』ではない！」

子路第十三第二十一章

子、曰。「不、得、『中行』、而、与(くみする)、之(これ)、必、也、狂狷、乎。狂、者(もの)、進、取。狷、者、有、所、不、為(なす)、也」

孔子先生は言った。「両極端に偏(かたよ)らず正しい言行をする人を得て組めなかったら、必ず、(良い意味で)狂人的な人か、(良い意味で)頑固な人と組むであろう。(良い意味で)狂人的な人は、自発的に進んで取り組んでいく。(良い意味で)頑固な人は悪事をしない所が有る」

子路第十三第二十二章

子、曰。「南、人、有、言。曰。『人、而、無（ない）、恒（つね）、不可、以、作、巫、医』。善、夫。『不、恒（つね）、其（その）徳、或、承、之（これ）、羞』」

子、曰。「不、占、而、已（のみ）、矣」

孔子先生は言った。「南の人々が言っている事が有る。『常に善い言動をしない人は、神の巫女と医者をするべきではない』と。善い言葉である。（『易経』には記されている。）『常に善行しない人は、あるいは、辱（はずかし）めを受けてしまう事が有る』と」

さらに、孔子先生は言った。「占わなくても分かる事に過ぎない」

子路第十三 第二十三章

子、曰。「君子、和、而、不、同。小人、同、而、不和」

孔子 先生は言った。「王者は、他人と和合して仲良くするが、自分で考えずに他人に同調しない。矮小な人は、自分で考えずに他人に同調するが、他人と不和で争う」

子路第十三第二十四章

子貢、問、曰。「郷人、皆、好、之、何如?」

子、曰。「未、可、也」

「郷人、皆、悪、之、何如?」

子、曰。「未、可、也。不、如、郷人之善者、好、之、其不善者、悪、之」

子貢が孔子先生に質問して言った。「故郷の人々が皆、好きである人は、どうでしょうか? (正しい人でしょうか?)」

孔子先生は言った。「(『正しい人である』とは)未だ言えない」

子貢が言った。「故郷の人々が皆、憎悪する人は、どうでしょうか? (正しい人でしょうか?)」

孔子先生は言った。「(『正しい人である』とは)未だ言えない。故郷の人々のうち善人が好きであり、それらの故郷の人々のうち悪人が憎悪する人

のようでないと」（。本当に正しい人は悪人どもに憎悪されてしまうので、本当に正しい人は全ての人々には好かれない。）

子路第十三第二十五章

子、曰。「君子、易(やさしい)、事(つかえる)、而、難、説(よろこばせる)、也。説(よろこばせる)、之(これ)、不、以、道、不、説(よろこぶ)、也。及(およぶ)、其(その)、使(つかう)、人、也、器(おもんじる)、之(これ)。小人、難、事(つかえる)、而、易、説(よろこばせる)、也。説(よろこばせる)、之(これ)、雖(いえども)、不、以、道、説(よろこぶ)、也。及(およぶ)、其(その)、使(つかう)、人、也、求、備、焉」

孔子先生は言った。「王者に仕えるのは簡単であるが、王者を喜ばせるのは困難である。外道、非道な言動で王者を喜ばせようとしても、王者は喜ばない。王者が他人を使役する時には、他人を尊重する。矮小な人に仕えるのは困難であるが、矮小な人を喜ばせるのは簡単である。外道、非道な言動でも矮小な人を喜ばせようとすると、矮小な人は喜んでしまう。矮小な人が他人を使役する時には、他人に何でも備わっている事を求めてしまう」

子路第十三 第二十六章

子、曰。「君子、泰、而、不、驕。小人、驕、而、不、泰」

孔子 先生は言った。「王者は安らかに落ち着いていて、傲慢ではない。矮小な人は傲慢であり、安らげず落ち着けない」

子路第十三第二十七章

子、曰。「『剛毅』、『木訥』、近(ちかい)、仁」

孔子先生は言った。「(良い意味で)頑固な者、飾り気が無い、ありのままの者は、思いやり深い知者に近い」

子路第十三第二十八章

子路、問、曰。「何如（いかん）、斯（これ）、可、謂、之（これ）、『士』、矣？」

子、曰。「『切切偲偲』、『怡怡如』、也、可、謂、『士』、矣。朋友、『切切偲偲』。兄弟、『怡怡』」

子路が孔子 先生に質問して言った。「どのような者が、『士』、『一人前である者』であると言えますか？」

孔子 先生は言った。「相互に励（はげ）まし合って切磋琢磨する者、和（なご）やかな者は、『士』、『一人前である者』であると言えます。友とは相互に励（はげ）まし合って切磋琢磨します。兄弟とは和（なご）やかにします」

子路第十三第二十九章

子、曰。「善人、教、民、七年、亦、可、以、即（つく）、戎（いくさ）、矣」

孔子先生は言った。「善人が国民に七年間、教えれば、戦争させる事が可能に成る」

子路第十三第三十章

子、曰。「以、不、教、民、戦、是、謂、棄、之」

孔子 先生は言った。「教えていない国民に戦争させるのは、国民を捨てる事である、と言える」

憲問第十四

憲問第十四第一章

憲（＝子思）、問、恥。

子、曰。「邦、『有道』、穀（給料）。邦、『無道』、穀（給料）、恥、也」

子思が孔子先生に恥について質問した。

孔子先生は言った。「国が有道であれば、役人として国に仕えて給料を得る。国が無道、非道であるのに、役人として国に仕えて給料を得るのは、恥である」

憲問第十四 第二章

「克、伐、怨、欲、不、行、焉、可、以、為、仁、矣？」

子、曰。「可、以、為、難、矣。仁、則、吾、不、知、也」

（多分、子思が孔子先生に質問した。）「勝つ事、誇りを持つ事、怨む事、欲して望む事を行わなければ、『仁』、『思いやり深く知的である』と見なす事ができますか？」

孔子先生は言った。「『難しい事である』と見なす事ができますが、『仁』、『思いやり深く知的である』かは、私、孔子には分かりません」（。自身の欲望に勝つ事、神に感謝しながら正しい誇りを持つ事、悪人を怨んでしまう事、正しい事を欲して望む事は、悪い事ではない。）

憲問第十四 第三章

子、曰。「士、而、懐(おもう)、居、不足、以、為(なす)、士、矣」

孔子先生は言った。「一人前である歳であるのに、家に(帰る事や)居る事ばかり思う人は、『士』、『一人前である者』と見なすには不足している(。『士』、『一人前である者』ではない)」

憲問第十四 第四章

子、曰。「邦、『有道』、危（ただしい）、言。危（ただしい）、行。邦、『無道』、危（ただしい）、行。言、孫(↓遜)」

孔子先生は言った。「国が有道であれば、言葉も正しくするし、行動も正しくする。国が無道、非道であれば、行動は正しくするが、言葉は謙遜する」

憲問第十四 第五章

子、曰。「有、徳、者（もの）、必、有、言。有、言、者（もの）、不、必、有、徳。仁、者（もの）、必、有、勇。勇者、不、必、有、仁」

孔子　先生は言った。「『徳』、『善行』している者は必ず善（よ）い言葉を話している。正しい事を言っている者は必ずしも善行している訳ではない（。正しい事を言っている者は口先だけの者である場合が有る）。『仁』、『思いやり深く知的』である者は必ず勇敢に恐れず善行している。勇者は必ずしも思いやり深く知的である訳ではない（。大胆な者は心無い者か無知なだけの者である場合が有る）」

憲問第十四 第六章

南宮适(＝南容)、問、於、孔子、曰。「羿(＝后羿)、善、射。奡、盪、舟。倶、不、得、其死、然。禹、稷(＝后稷)、躬、稼、而、有、天下」

夫子、不、答。

南宮适(＝南容)、出。子、曰。「君子、哉、若人。尚、徳、哉、若人」

南容は孔子 先生に質問して言った。「夏王朝の時代の、后羿は弓で矢を射るのに優れた名射手であったし、夏王朝の時代の、奡は陸上で船を動かすほどの怪力であったが、共に、自然な死を得られなかった(。殺されてしまった)。しかし、古代の聖王の禹と、古代の聖王の舜に仕えた后稷は、自ら穀物を植えた(りと普通の人と同じ事をした)が、天下を所有しました(。后羿と奡と、禹と后稷の差は、『徳』、『善行』ですよね?)」

孔子 先生は(、あえて)答えなかった。

南容が退出すると、孔子 先生は言った。「王者であるかな、あの若い人、南容は。『徳』、『善行』を尊敬しているかな、あの若い人、南容は」

憲問第十四 第七章

子、曰。「君子、而、不、仁、者、有、矣夫？ 未、有、小人、而、仁、者、也」

孔子先生は言った。「王者でありながら思いやりが無い愚者がいるであろうか？ いいえ！ いない！ 矮小な人で思いやり深い知者である人は未だいない」

憲問第十四 第八章

子、曰。「愛、之(これ)、能、勿(ない)、労、乎？ 忠、焉(これ)、能、勿(ない)、誨(おしえる)、乎？」

孔子先生は言った。「愛する相手のために労苦しないであろうか？ いいえ！ 愛する相手のために労苦する！ 誠実でありたい相手のために教育しないであろうか？ いいえ！ 誠実でありたい相手を教育する！」

憲問第十四 第九章

子、曰。「為(つくる)、命、、裨諶、『草創』、之(これ)。世叔、討論、之(これ)。『行人』、子羽、修飾、之(これ)。『東里』、子産、潤色、之(これ)」

孔子先生は言った。「(鄭という国で)命令書(めいれいしょ)を作る時には、裨諶が草案、下書きを創(つく)った。世叔が討論会を開いた。『行人』という役職の子羽が美しく修飾した。東里という所にいた子産が誇張して脚色して潤色した」

憲問第十四 第十章

或、問、子産。

子、曰。「恵（おもいやりぶかくかしこい）、人、也」

問、子西。

曰。「彼、哉。彼、哉」

問、管仲。

曰。「人、也、奪、伯氏、駢邑、三百。飯、疏食。没、歯、無（ない）、怨言」

ある人が子産について孔子先生に質問した。

孔子先生は言った。「思いやり深い賢人である」

ある人が子西について質問した。

孔子 先生は言った。「あの人かぁ。あの人かぁ」(。子西には王位を他人に譲る良い所も有ったが、孔子を排斥したり他人を見誤ったりする悪い所も有ったので、いまいちな人なので、明言を避けた。)

ある人が管仲について質問した。

孔子 先生は言った。「あの人、管仲は、(伯氏を裁いて、)伯氏の三百の規模の駢邑という土地を奪った。そのため、伯氏は、(貧困で、)粗食を食べる羽目に成ったが、(管仲は公明正大であったので、)死没に至っても(管仲に対して)怨(うら)み言(ごと)を言わなかった」

憲問第十四 第十一章

子、曰。「貧、而、無（ない）、怨（うらみ）、難。富、而、無（ない）、驕、易（やさしい）」

孔子 先生は言った。「貧しくても他者を怨まないのは困難である。金持ちに成っても傲慢に成らないのは簡単である」

憲問第十四 第十二章

子、曰。「孟公綽、為、趙、魏、老、則、優。不可、以、為、滕、薛、大夫」

孔子 先生は言った。「孟公綽は、趙や魏という家の臣下の長として司って取り仕切る者に成るのであれば、優秀であろう。滕や薛という国の役人には成るべきではない」

憲問第十四 第十三章

子路、問、「成人」。

子、曰。「若(のよう)、臧武仲之知、公綽(＝孟公綽)之不欲、卞荘子之勇、冉求(＝冉有)之芸、文(かざる)、之(これ)、以、礼、楽、亦、可、以、為(なす)、『成人』、矣」

曰。「今之『成人』、者(は)、何、必、然(しかる)？ 見、利、思、義。見、危、授(さずける)、命。『久要』、不、忘、『平生』之言、亦、可、以、為(なす)、『成人』、矣」

子路が「成人」、「立派に成った人」について孔子 先生に質問した。

孔子 先生は言った。「臧武仲の知恵、孟公綽の無欲、卞荘子の勇気、冉有の技術などが有る人を、礼儀、音楽で飾れば、『成人』、『立派に成った人』と見なせます」

孔子 先生は言った。「今の、『成人』、『立派に成った人』は、どうして必ずしも、このようであろうか？ いいえ！ 利益を見ても正義について思考し、正しい自国の危機を見たら自身の命を自国にあずけ、古くからの約束、普段の言葉による約束を忘れず果たそうとすれば、今の、『成人』、『立派に成った人』と見なせます」

憲問第十四 第十四章

子、問、公叔文子、於、公明賈、曰。「信、乎？ 夫子、不、言、不、笑、不、取、乎？」

公明賈、対(こたえる)、曰。「以、告、者(もの)、過(あやまっている)、也。夫子、時、然(しかる)、後、言。人、不、厭(きらう)、其(その)言。楽、然(しかる)、後、笑。人、不、厭(きらう)、其(その)笑。義、然(しかる)、後、取。人、不、厭(きらう)、其(その)取」

子、曰。「其(それ)、然(しかる)。豈(どうして)、其(それ)、然(しかる)、乎？」

孔子 先生は公叔文子について公明賈に質問して言った。「(公叔文子は、)誠実ですか？ 彼、公叔文子は、無言であるし、笑わないし、取らないのですか？」

公明賈が答えて言った。「公叔文子について孔子 先生に告げた者による過失です(。そうでは、ありません)。彼、公叔文子は、適切な時にだけ発言します。そのため、他人は公叔文子の発言を嫌う事が無いのです。誰もが楽しいはずである時にだけ笑います。そのため、他人は公叔文子の笑顔や笑い声を嫌う事が無いのです。正義である時にだけ取ります。そのため、他人は公叔文子の取得を嫌う事が無いのです」

孔子 先生は言った。「そうでしょう。そうでしょう！」

憲問第十四 第十五章

子、曰。「臧武仲、以、防、求、為(なす)、後、於、魯。雖(いえども)、曰、『不、要(きょうようする)、君』、吾(われ)、不、信、也」

孔子先生は言った。「臧武仲は、臧武仲が統治していた、防という領土を統治したまま占領して、防の統治を臧武仲の後継者に認めるように、魯という国に対して要求した。『魯の君主に強要していない』と言っても、私、孔子は信じない」

憲問第十四 第十六章

子、曰。「晋、文公、譎、而、不、正。斉、桓公、正、而、不、譎」

孔子先生は言った。「晋の文公は、敵を欺（あざむ）く事ができた代わりに、正当な手段は用いる事ができなく成ってしまった。斉の桓公は、正当な手段を用いる事ができたので、敵を欺（あざむ）くにまで至らずに済んだ」

憲問第十四 第十七章

子路、曰。「桓公、殺、公子、糾。召忽、死、之（これ）。管仲、不、死」

曰。「未、仁、乎？」

子、曰。「桓公、『九合（糾合）』、諸侯、不、以（もちいる）、『兵車（戦車）』。管仲之力、也。如（しく）、其（その）仁？ 如（しく）、其（その）仁？」

子路が言った。「桓公は公子の糾を殺してしまいました。召忽はそれによって死にました。しかし、管仲は死にませんでした」

子路が言った。「(管仲は)未だ『仁』、『思いやり深く知的』ではない、ですよね？」

孔子先生は言った。「桓公が暴力を用いずに諸侯達を一つにまとめる事ができたのは、管仲の力による物なのです。管仲の『仁』、『思いやり深い知的な行動』に及ぶ事ができますか？ 管仲の『仁』、『思いやり深い知的な行動』に及ぶ事ができますか？」

憲問第十四 第十八章

子貢、曰。「管仲、非、仁、者、与？ 桓公、殺、公子、糾、不能、死。又、相、之」

子、曰。「管仲、相、桓公、覇、諸侯、『一匡』、天下。民、到、于、今、受、其賜。微、管仲、吾、其、『被髪左衽』、矣。豈、若、匹夫、匹婦、之、為、諒、也、自、経、於、『溝涜』、而、莫、之、知、也？」

子貢が孔子先生に言った。「管仲は『仁者』、『思いやり深い知者』ではないですよね？ 桓公が公子の糾を殺してしまっても、管仲は死ぬ事ができませんでした。また、その桓公を助けてしまいました」

孔子先生は言った。「管仲は、桓公を助けて、諸侯を制覇させて、天下を正させて統治させました。国民は、今に至るまでも、その恩恵を受けています。管仲がいなければ、私、孔子は、髪を束ねず乱れ髪で衣服を左を前にして着る、未開の粗野な文明の所作をしていたであろう。ただの暗愚な男または女が誠実な行動として溝で首を吊って自殺しても、それを知る人がいないのと、どうして同様であろうか？ いいえ！ 違う！」

憲問第十四 第十九章

公叔文子之臣、「大夫」、僎、与(と)、文子(＝公叔文子)、同、升(のぼる)、諸(これ)、公。

子、聞、之(これ)、曰。「可、以、為(なす)、文、矣」

(公叔文子の推薦によって、)公叔文子の臣下であり、「大夫」である、僎が、公叔文子と同じ位階の役人に昇進した。

孔子 先生は、この事を聞いて、言った。「公叔文子に『公叔文子』と『文』をつけて当然である」

憲問第十四 第二十章

子、言、衛、霊公之無道、也。

康子(＝季康子)、曰。「夫(それ)、如(のよう)、是(この)、奚(どうして)、而、不、喪(ほろびる)？」

孔子、曰。「仲叔圉、治、賓客。祝鮀、治、『宗廟』。王孫賈、治、『軍旅』。夫(それ)、如(のよう)、是(この)、奚(どうして)、其(それ)、喪(ほろびる)？」

孔子 先生は、衛という国の霊公による無道について言った。

季康子が孔子 先生に言った。「そのようであるならば、どうして霊公は滅びないのか？」

孔子 先生は言った。「仲叔圉が外国からの客を統治して(外交を統治して)います。祝鮀が『宗廟』、『諸侯の先祖の霊廟』を統治しています。王孫賈が軍隊を統治しています。(有能な臣下が霊公を助けてしまっている。)このようであるならば、どうして霊公は滅びるでしょうか？　いいえ！　滅びない！」

憲問第十四 第二十一章

子、曰。「其(それ)、言、之(これ)、不、怍(はじる)、則(すなわち)、為、之(これ)、也、難」

孔子 先生は言った。「大言壮語を言って、恥じないような者どもは、その大言壮語を行うのが困難である」

憲問第十四 第二十二章

陳成子、弑、簡公。

孔子、沐浴、而、「朝」、告、於、哀公、曰。「陳恒(＝陳成子)、弑、其君。請、討、之」

公、曰。「告、夫三子」

孔子、曰。「以、吾、従、大夫之後、不、敢、不、告、也。君、曰。『告、夫、三子者』」

之、三子、告。

不、可。

孔子、曰。「以、吾、従、大夫之後、不、敢、不、告、也」

陳成子が、(上司の君主である)簡公を殺してしまった。

孔子先生は、沐浴して、朝廷へ行って君主(である哀公)に会って、哀公に告げて言った。「陳成子が、その陳成子の上司の君主(である簡公)を殺してしまいました。この陳成子の討伐を要請します」

哀公が言った。「あの三者(、有力な僭越な三つの臣下の家門)に告げなさい」

孔子先生は言った。「私、孔子は、役人の末席に連なっているので、あえて、告げざるを得なかった。君主である哀公が言った。『あの三者、有力な僭越な三つの臣下の家門に告げなさい』と」

孔子先生は、有力な僭越な三つの臣下の家門の所へ言って、(陳成子の討伐の要請を)告げた。

しかし、有力な僭越な三つの臣下の家門は、許可しなかった。

孔子先生は言った。「私、孔子は、役人の末席に連なっているので、あえて、(君主の言葉通りに)告げざるを得なかった」

憲問第十四 第二十三章

子路、問、事（つかえる）、君。

子、曰。「勿（なかれ）、欺（あなどる）、也。而、犯（せんえつないけないことをする）、之（これ）」

子路が孔子 先生に、君主への仕え方を質問した。

孔子 先生は言った。「(君主を)見下して侮辱するなかれ。しかし、(場合によっては、君主に)僭越でも、いけない事でも、忠告しなさい」

憲問第十四 第二十四章

子、曰。「君子、上、達。小人、下、達」

孔子 先生は言った。「王者は上に到達する(。向上していく)。矮小な人は下に到達してしまう(。悪化していってしまう)」

憲問第十四 第二十五章

子、曰。「古之学者、為（ため）、己。今之学者、為（ため）、人」

孔子先生は言った。「古代の真の学者、学徒は自分の為に学んだ。今の似非（えせ）学者は他人(からの名声と利益)の為に学んでしまう」

憲問第十四 第二十六章

蘧伯玉、使(はけんする)、人、於、孔子。

孔子、与(あたえる)、之(これ)、坐、而、問、焉、曰。「夫子、何、為(なす)？」

対(こたえる)、曰。「夫子、欲、寡、其過(そのあやまち)、而、未、能、也」

使者、出。子、曰。「使、乎。使、乎」

蘧伯玉が孔子 先生に使者を派遣した事が有った。

孔子 先生は、蘧伯玉の使者に席を与えて(座らせて)、質問して言った。
「あの方(かた)、蘧伯玉は、どうしていますか？」

蘧伯玉の使者が答えて言った。「あの方(かた)、蘧伯玉は、自身の過(あやま)ちを少なくしたいと欲していますが、未だ、できないでいます」

蘧伯玉の使者が退出すると、孔子 先生は言った。「蘧伯玉は善い使者を派遣した。蘧伯玉は善い使者を派遣した」

憲問第十四 第二十七章

子、曰。「不、在、其(その)位、不、謀、其(その)政」(※泰伯第八 第十四章と完全一致している。)

孔子先生は言った。「政治を行う地位、立場にいないのであれば、政治的な計画に口出ししてはいけない」

憲問第十四 第二十八章

曾子、曰。「君子、思、不、出、其位」

曾子先生は言った。「王者は、自分の地位(、自分の務め)以外について思考しない」

憲問第十四 第二十九章

子、曰。「君子、恥、其言、而、過、其行」

孔子 先生は言った。「王者は、自身の行動には過ぎた事を自分が言うのを恥じる」（、「王者は大言壮語を恥じる」。）

憲問第十四 第三十章

子、曰。「君子、道(みち)、者(もの)、三。我(われ)、無(ない)、能、焉。仁者、不、憂。知者、不惑。勇者、不、懼(おそれる)」(※後半が、順序は異なるが、子罕第九第二十九章「智者、不惑。仁者、不、憂。勇者、不、懼」と一致している。)

子貢、曰。「夫子、自(みずからを)、道(いう)、也」

孔子先生は言った。「王者への道にいる者達は、(次のように、仁者、知者、勇者という、)三者達である。私、孔子には、できない事(ができる者達)であるが。思いやり深い者は心配する必要が無い。知者は惑(まど)わない。勇者は恐れる所など無い」(。他者から思いやり返してもらえて助けてもらえるので、他者に思いやり深い者は心配する必要が無い。善悪を知っているので、知者は迷わない。善行であると知って善行を恐れず行う勇者は、恐れる所など無い。なぜなら、善行であると知っているからである。また、善行を遂行したからである。)

子貢が言った。「孔子先生は、自身の事について言っている」

憲問第十四 第三十一章

子貢、方(くらべる)、人。子、曰。「賜(＝子貢)、也、賢、乎、哉？ 夫(それ)、我(われ)、則、不、暇(ひま)」

子貢が、自分と他人や、他人同士を比較していると、孔子先生は言った。「子貢は賢者であるのか？ 私、孔子には、そんな比較をして遊んでいる暇が無いのだが(。比較する暇が有ったら、精進しなさい)」

憲問第十四 第三十二章

子、曰。「不、患（うれう）、人、之（の）、不、己、知。患（うれう）、其（その）不能、也」

孔子先生は言った。「他人が自分を知ってくれない事は心配しない。他(の正しい)人が自分を知ってくれるほどの(正しい)言動ができない事を心配する」

憲問第十四 第三十三章

子、曰。「不、逆、詐。不、億、不、信。抑、亦、先、覚、者、是、賢、乎」

孔子 先生は言った。「(真理に明確に反している虚偽に)だまされない者。(自分が誠実なので)自分に対する(正しい者による)不信の心配が無い者。そもそも、機先を制して覚知する者が、賢者である」

憲問第十四 第三十四章

微生畝、謂、孔子、曰。「丘(=孔子)、何、為(なす)、是(この)、栖栖、者(もの)、与(か)? 無(ない)、乃(すなわち)、為(なす)、佞、也、乎?」

孔子、曰。「非、敢、為(なす)、佞、也。疾(ぞうおする)、固、也」

微生畝が孔子 先生に言った。「孔子 先生は、どうして、そのように忙しくしている者であるのか? 口先だけで、他人に、こびへつらっているのではありませんか?」

孔子 先生は言った。「あえて、口先だけで、他人に、こびへつらっていません。(悪い意味で)頑固でいるのを憎悪しているのです」

憲問第十四 第三十五章

子、曰。「驥、不、称(ほめる)、其(その)力。称(ほめる)、其(その)徳、也」

孔子 先生は言った。「名馬に例えられる、高名な人達を称賛するのは、その(怪)力を称賛する訳ではない。その『徳』、『善行』を称賛するのである」

憲問第十四 第三十六章

或(ある)、曰。「以、徳、報(むくいる)、怨(うらみ)、何如(いかん)？」

子、曰。「何、以、報、徳？ 以、直(しょうじき)、報(むくいる)、怨(うらみ)。以、徳、報(むくいる)、徳」

ある人が孔子先生に言った。「他人からの怨みに『徳』、『善行』で報いるのは、どうでしょうか？」

孔子先生は言った。「それでは、『徳』、『善行』に何で報いるというのか？ 他人からの怨みには自身の正直さと正しさで報いるのである。『徳』、『善行』には『善行』で報いるのである」

憲問第十四 第三十七章

子、曰。「莫、我、知、也、夫」

子貢、曰。「何、為、其、莫、知、子、也?」

子、曰。「不、怨、天。不、尤、人。下学、而、上達。知、我、者、其、天、乎」

孔子 先生は言った。「私、孔子を知ってくれる人がいない」

子貢が孔子 先生に言った。「どうして、孔子 先生を知ってくれる人がいないと見なすのですか?」

孔子 先生は言った。「(心の中で、不運でも)天の神を怨まない。(心の中で、悪事を犯されても)他人を怨まない。身近な簡単な事から学んで向上していって上の心の境地に到達していく。私、孔子(の心の中、他人よりも上の心の境地)を知ってくれている者、(心の中を厳密に正確に)知る事ができる者は、天の神である」

憲問第十四 第三十八章

公伯寮、愬、子路、於、季孫(＝季氏)。

子服景伯、以、告、曰。「夫子(＝季氏)、固、有、惑、志、於、公伯寮。吾力、猶、能、肆、諸、『市朝』」

子、曰。「道、之、将、行、也、与、命、也。道、之、将、廃、也、与、命、也。公伯寮、其、如命何？」

公伯寮が子路を季氏に訴えた。

そのため、子服景伯が孔子 先生に告げて言った。「あの方、季氏は元から公伯寮を疑っています。私、子服景伯の力で、公伯寮を市中や朝廷で攻撃して殺す事ができますよ」

孔子 先生は言った。「(正しい)道理が(、この世の人々の間で)行われるのは(神による)運命による物なのである。(正しい)道理が(、この世の人々の間で)廃れてしまうのも(神による)運命による物なのである。公伯寮が(神による)運命をどうにかできるであろうか？　いいえ！　できない！　(子路は正しい人なので、神による運命に任せなさい)」

憲問第十四 第三十九章

子、曰。「賢者、辟、世。其次、辟、地。其次、辟、色。其次、辟、言」

孔子先生は言った。「賢者は、世俗を避ける。その次には、(人が多数いる)地を避け(て山に入ったりす)る。その次には、色形を欲望するのを避ける。その次には、(厳密には真理は言い表せないので、真理を)言い表すのを避け(て善行できるようにす)る」

憲問第十四 第四十章

子、曰。「作、者、七人、矣」（※前の章の、憲問第十四 第三十九章と関連しているという説が有る。）

孔子 先生は言った。「世俗を避ける事。（人が多数いる）地を避け（て山に入ったりす）る事。色形を欲望するのを避ける事。（厳密には真理は言い表せないので、真理を）言い表すのを避け（て善行できるようにす）る事。これらを行った賢者は、七人いる」

憲問第十四 第四十一章

子路、宿、於、石門。

「晨門」、曰。「奚、自？」

子路、曰。「自、孔氏(＝孔子)」

曰。「是、知、其不可、而、為、之、者、与？」

子路が石門で泊まった事が有った。

門番が子路に言った。「(あなた、子路は、)どこから(来ましたか)？」

子路が言った。「(あなた、門番も知っていると思いますが、)孔子 先生の所から(来ました)」

門番が言った。「それは、(真理をこの世に広める事が)不可能であると知りながら、それを行っている者の事ですか？」

憲問第十四 第四十二章

子、撃、磬、於、衛。

有、荷、蕢(かご)、而、過、孔氏之門、者、曰。「有心、哉。撃、磬、乎」

既、而、曰。「鄙、哉。『硜硜』、乎。莫、己、知、也、斯、已、而、已、矣。『深、則、厲。浅、則、掲』」

子、曰。「果、哉。末、之、難、矣」

孔子先生は衛という国で「磬」という打楽器を打ち鳴らした事が有った。

籠を背負って、孔子先生の家の門を通り過ぎる者がいて、その者が言った。「無心ではないな。『磬』という打楽器を打ち鳴らしてしまっている」

その後に、また、その者が言った。「洗練されていないな。『硜硜』と融通が利かない。自分を知ってもらえなければ、やめるしかない。(詩経には記されている。)『(河が)深ければ、(河を渡るのは)厳しい。(河が)浅ければ、服の裾を高く持ち上げ(て河を渡)る』と」

孔子 先生は言った。「果断過ぎるな。それ（、自分を知ってもらえるように善い言動をする事）は難しくないのに」

憲問第十四 第四十三章

子張、曰。「『書』、云。『高宗(=武丁)、諒陰（まことにちんもくする）、三年、不、言』。何、謂、也?」

子、曰。「何、必、高宗(=武丁)。古之人、皆、然（しかり）。君、薨（しぬ）、百官、総（まとめる）、己、以、聴、於、『冢宰』、三年」

子張が孔子先生に言った。「『書経』で言われています。『殷の武丁が、まことに沈黙して喪に服して、三年間、発言しなかった』と。どのような事が言われているのでしょうか?」

孔子先生は言った。「どうして必ずしも殷の武丁だけであろうか? いいえ! 古代の人達は皆、そうした(、喪に服して三年間、沈黙した)のである。(古代では、)君主が死ぬと、諸々の役人は自分の仕事についてまとめて、『冢宰』を務める最高位の役人の命令を聴いて遂行するだけで、(喪に服して沈黙して、)三年間、過ごしたのである」

憲問第十四 第四十四章

子、曰。「上、好、礼、則（すなわち）、民、易（やさしい）、使（つかう）、也」

孔子先生は言った。「上位の者が礼儀を好めば、下位の国民は(従ってくれるように成るので)使役しやすく成る」

憲問第十四 第四十五章

子路、問、君子。

子、曰。「修、己、以、敬」

曰。「如(のよう)、斯(この)、而、已(のみ)、乎？」

曰。「修、己、以、安、人」

曰。「如(のよう)、斯(この)、而、已(のみ)、乎？」

曰。「修、己、以、安、百姓。修、己、以、安、百姓、堯、舜、其(それ)、猶(なお)、病、諸(これ)」

子路が孔子 先生に、王者について質問した。

孔子 先生は言った。「(王者は、)自身を修行して、他者を敬う」

子路が言った。「そのような事をするだけで良いのですか？」

孔子 先生は言った。「(王者は、)自身を修行して、他人に安(やす)らぎをもたらす」

子路が言った。「そのような事をするだけで良いのですか？」

孔子 先生は言った。「(王者は、)自身を修行して、諸々の人々に安(やす)らぎをもたらす。『自身を修行して、諸々の人々に安(やす)らぎをもたらす』事、堯、舜ですらなお、それを(できない事を)気に病んでいたのである」

憲問第十四 第四十六章

原壌、夷（うずくまる）、俟（まちうける）。

子、曰。「幼、而、不、孫(↓遜)、弟(↓悌)。長、而、無（ない）、述（のべる）、焉。老、而、不、死。是（これ）、為（なす）、賊」

以、杖、叩、其脛（そのすね）。

原壌という人が、孔子先生を、(無礼にも、)うずくまったまま待ち受けた。

孔子先生は言った。「幼子の時代に謙遜して目上の者達を敬わない人。成長した大人の時代に何か(真理)を言い表せない人。老人の時代に(欲望や悪い心が)死んでいない人。このような人を『賊』、『悪人』とする」

孔子先生は杖で原壌の脛（すね）を叩い(て、こらしめ)た。

憲問第十四 第四十七章

闕党、童子、将(しょうとする)、命(いいつける)。

或(ある)、問、之(これ)、曰。「益、者(もの)、与(か)?」

子、曰。「吾(われ)、見、其(その)、居、於、位、也。見、其(その)、与(と)、『先生』、並、行、也。非、求、益、者(もの)、也。欲、速、成、者(もの)、也」

闕という集落の幼子が、連絡係をしようとした。

ある人が孔子 先生に、その事を質問して言った。「(あの幼子は、)役に立つ有能な者なのでしょうか?」

孔子 先生は言った。「私、孔子は、あの幼子が連絡係の地位にいるのを見ていました。あの幼子が自身よりも年上の人達と(失礼にも)横に並んで歩いて行くのを見ました。あの幼子は、役に立つ者に成れるように探求している訳ではない。あの幼子は、拙速にも大人に成りたいだけ、大人のふりをしたいだけの者である」

衛霊公第十五

衛霊公第十五 第一章

衛、霊公、問、陳（陣）、於、孔子。

孔子、対（こたえる）、曰。「『俎豆（祭器）』之事、則（すなわち）、嘗（かつて）、聞、之（これ）、矣。『軍旅（軍隊）』之事、
未、之（これ）、学、也」

明日、遂（ついに）、行。

在、陳、絶、糧。

従者、病、莫（ない）、能、興（おきあがる）。

子路、慍（ふまんにおもう）、見（あう）、曰。「君子、亦、有、窮、乎?」

子、曰。「君子、固（もとより）、窮。小人、窮、斯（ここに）、濫、矣」

衛という国の霊公が戦陣、戦術について孔子先生に質問した。

孔子先生は答えて言った。「『俎』、『豆』といった祭器の事、神霊への礼儀作法の事、私、孔子は、かつて、これらの事については聞いた事が有ります。しかし、軍隊、戦争の事、戦略や戦術の事、私、孔子は、これらの事については未だ学んでいません」(。霊公は非道であるので、孔子は戦略や戦術について教えなかった。)

孔子先生は、翌日、ついに、衛という国を去って行った。

さて、孔子先生達は、陳という国にいた時に、食糧の供給を絶たれてしまった。

孔子先生の従者達は、(飢えによって)病気に成ってしまって、起き上がる事ができないくらいに成ってしまった。

子路は不満に思って、孔子先生に会って言った。「王者もまた困窮する事が有るのでしょうか?」

孔子先生は言った。「王者は(悪人に嫌われるので)本来、困窮する羽目に成ってしまう。ただし、矮小な人は困窮すると、ここで(心や言動が)乱れてしまう」

衛霊公第十五 第二章

子、曰。「賜(＝子貢)、也。女(なんじ)、以、予、為(なす)、多、学、而、識、之(これ)、者、与(か)？」

対(こたえる)、曰。「然(しかり)。非、与(か)？」

曰。「非、也。予、一、以、貫、之(これ)」

孔子 先生は言った。「子貢よ。あなた、子貢は、私、孔子を『多くの物事について学んだので、それらについて理解している者である』と見なしているのですか？」

子貢が答えて言った。「そうです。そうではない、のですか？」

孔子 先生は言った。「そうではない。私、孔子は、唯一の知恵によって、多くの物事を見通しているのである」

衛霊公第十五 第三章

子、曰。「由(＝子路)。知、徳、者(もの)、鮮(すくない)、矣」

孔子 先生は言った。「子路よ。『徳』、『善行』、『善』について知っている者は少ないのである」

衛霊公第十五 第四章

子、曰。「無、為、而、治、者、其、舜、也、与。夫、何、為、哉？ 恭、己、正、『南面』、而、已、矣」

孔子先生は言った。「(余計な事を)何もしないで統治していた者が舜なのである。舜は何か(余計な事を)したであろうか？ いいえ！ (余計な事を)何もしなかった！ 自身の身心を正して他者を恭しく敬って正しく統治しただけである」

衛霊公第十五 第五章

子張、問、行(おこなわれる)。

子、曰。「言、『忠信』、行(おこない)、篤、敬、雖(いえども)、『蛮貊』之邦、行(おこなわれる)、矣。言、不、『忠信』、行(おこない)、不、篤、敬、雖(いえども)、州里、行(おこなわれる)、乎、哉？ 立、則(すなわち)、見、其(その)、参(オリオンの三星)、於、前、也。在、輿(くるま)、則(すなわち)、見、其(その)、倚(たよる)、於、衡(てすり)、也。夫(それ)、然(しかる)、後、行(おこなわれる)」

子張、書、諸(これ)、紳(おおおび)。

子張が「行(おこな)ってもらえる」、「従ってもらえる」方法について孔子 先生に質問した。

孔子 先生は言った。「自身の言葉が誠実であれば、自身の行動が他者を手厚く敬っていれば、野蛮な未開な国でも、『行(おこな)ってもらえる』、『従ってもらえる』。自身の言葉が不誠実であれば、自身の行動が他者を手厚く敬っていなければ、洗練されている文明的な中国でも、『行(おこな)ってもらえる』、『従ってもらえる』であろうか？　いいえ！　(冬の夜に)立っている時に目の前にオリオン座の三星が光輝いているのが見えるように(他者の役に立ちなさい)。車中にいて手すりに頼るように(他者の役に立ちなさい)。そうした後

で、（他者の役に立った後で、）『行ってもらえる』、『従ってもらえる』であろう」

子張は、この孔子先生の言葉を大帯に書き留めた。

衛霊公第十五 第六章

子、曰。「直、哉、史魚。邦、『有道』、如（のよう）、矢。邦、『無道』、如（のよう）、矢。君子、哉、蘧伯玉。邦、『有道』、則（すなわち）、仕。邦、『無道』、則（すなわち）、可、巻（まく）、而、懐（ふところ）、之（これ）」

孔子先生は言った。「正直である、史魚は。国が有道であれば矢のようである。国が無道、非道でも矢のようである。王者である、蘧伯玉は。国が有道であれば役人として国に仕える。国が無道、非道であれば、自身の言葉や才能を巻き取って懐（ふところ）に隠し持つ」

衛霊公第十五 第七章

子、曰。「可、与（ともに）、言、而、不、与（ともに）、之（これ）、言、失、人。不、可、与（ともに）、言、而、与（ともに）、之（これ）、言、失、言。知者、不、失、人。亦、不、失、言」

孔子 先生は言った。「正しい人と共に話すべきであるのに、正しい人と共に話さないと、正しい人を失くしてしまう羽目に成ってしまう。悪い人と共に話すべきではないのに、悪い人と話してしまうと、言葉による文字による知恵を失くしてしまう羽目に成ってしまう。知者は、正しい人を失わない。また、言葉による文字による知恵を失わない」

衛霊公第十五 第八章

子、曰。「志、士、仁、人、無、求、生、以、害、仁。有、殺、身、以、成、仁」

孔子 先生は言った。「志が有る一人前である者、思いやり深い知者は、生を求めて(動物的人間として生きるために)思いやりや知恵に損害を与える事が無い。むしろ、自身の身心を殺してまで思いやりや知恵を形成する事が有る」

衛霊公第十五 第九章

子貢、問、為(なす)、仁。

子、曰。「工、欲、善、其(その)事、必、先、利、其(その)器。居、是(この)邦、也、事(つかえる)、其(その)大夫之賢者。友、其(その)士之仁者」

子貢が孔子 先生に「仁」、「思いやり深く知的な行動」をする方法について質問した。

孔子 先生は言った。「大工が、自身の仕事、務めを善く行いたいと欲したら、自身の器具、道具を鋭利に磨くような物なのである。自国にいるならば、自国の役人のうち賢者に仕えなさい。一人前の歳である者のうち『仁者』、『思いやり深い知者』を友にしなさい」

衛霊公第十五 第十章

顔淵(＝顔回)、問、為、邦。

子、曰。「行、夏(か)之時。乗、殷之輅(くるま)。服、周之冕。楽、則(すなわち)、『韶舞』。放(しりぞける)、『鄭声』。遠、佞、人。『鄭声』、淫。佞、人、殆(きけん)」

顔回が国の統治方法について孔子 先生に質問した。

孔子 先生は言った。「夏王朝の暦を施行しなさい。殷の車に乗りなさい。周の冠をかぶりなさい。音楽は、『韶舞』という、古代の聖王である舜による音楽を演奏しなさい。『鄭声』という、鄭という国の音楽は退(しりぞ)けなさい。口先だけの人は遠ざけなさい。なぜなら、『鄭声』という、鄭という国の音楽は淫(みだ)らだからである。口先だけの人は危険だからである」

衛霊公第十五 第十一章

子、曰。「人、無、遠慮、必、有、近、憂」

孔子先生は言った。「人は、深謀遠慮が無ければ、必ず、近々、憂鬱な目に遭ってしまう」

衛霊公第十五 第十二章

子、曰。「已、矣、乎。吾、未、見、好、徳、如、好、色、者、也」(※後半が、子罕第九 第十八章「吾、未、見、好、徳、如、好、色、者、也」と完全一致している。)

孔子 先生は言った。「(真理、善をこの世に広める事を)やめようかな。私、孔子は、色を好むのと同様に『徳』、『善行』、『善』を好む者を未だ見た事が無い」

衛霊公第十五 第十三章

子、曰。「臧文仲、其、竊、位、者、与。知、柳下恵之賢、而、不、与、立、也」

孔子先生は言った。「臧文仲は、地位を盗んでいる者である(と言える)。『柳下恵は賢者である』と知っているのに、自身と共に、役人として擁立しない」

衛霊公第十五 第十四章

子、曰。「躬（みずからを）、自（みずから）、厚、而、薄、責、於、人、則（すなわち）、遠、怨（うらみ）、矣」

孔子先生は言った。「自身(の悪い所)を自ら厚く責めて、他人(の悪い所)を薄く責めれば、(他人から)怨まれる事を遠ざける事ができる」

衛霊公第十五 第十五章

子、曰。「不、曰、『如之何（これ、いかん）？ 如之何（これ、いかん）』、者（もの）、吾（われ）、末（はてる）、如之何（これ、いかん）、也、已（のみ）、矣」

孔子先生は言った。「『これは、どうしてであろうか？ あれは、どうしてであろうか？』と言わない者（、あれこれと疑問に思わない者）。私、孔子は、そのような者をどうにもできないだけなのである」（。この世について、善悪について、霊について、神について疑問を持ちなさい。）

衛霊公第十五 第十六章

子、曰。「群、居、終日。言、不、及、義。好、行、小慧。難、矣、哉」

孔子 先生は言った。「終日(、常に)、他人と群れている人。正義を言い表す事に及ぶ事ができない人。小賢しい(悪賢い狡猾な)行動を好む人。これらの人を正しくする事は困難である」

衛霊公第十五 第十七章

子、曰。「君子、義、以、為、質。礼、以、行、之。孫(↓遜)、以、出、之。信、以、成、之。君子、哉」

孔子先生は言った。「王者は、正義を心の性質にする(。正義を心にする)。礼儀を持って正義を行う。謙遜して正義を口に出して言い表す。誠実に(完全な正義へ)自身の正義を完成していく。これが、王者である」

衛霊公第十五 第十八章

子、曰。「君子、病、無能、焉。不、病、人、之、不、己、知、也」

孔子 先生は言った。「王者は、自身の非才は気に病むが、他人が自分を知ってくれない事は気に病んだりしない」

衛霊公第十五 第十九章

子、曰。「君子、疾(きにやむ)、没、世、而、名、不、称(ほめる)、焉」

孔子 先生は言った。「王者は、死んでも名声が称賛されるような事(、善行)が無いのは気に病む」

衛霊公第十五 第二十章

子、曰。「君子、求、諸(これ)、己。小人、求、諸(これ)、人」

孔子 先生は言った。「王者は、才能や正しく在る事などを自身に要求する。
矮小な人は、才能や正しく在る事などを他人に要求してしまう」

衛霊公第十五 第二十一章

子、曰。「君子、矜、而、不、争。群、而、不、党」

孔子 先生は言った。「王者は、誇りは持つが、他人と争う事はしない。集まる事はするが、自分の党派を捏造して他人との分裂、分断を引き起こさない」

衛霊公第十五 第二十二章

子、曰。「君子、不、以、言、挙、人。不、以、人、廃、言」

孔子 先生は言った。「王者は、言葉だけでは口先だけでは他人を上位に挙げない(。他人が善行をしていたら上位に挙げる)。他人の日常の言動が悪くても、その人が偶然に正しい事を言ったら、その言葉を捨てない」

衛霊公第十五 第二十三章

子貢、問、曰。「有、一言、而、可、以、終身、行、之、者、乎？」

子、曰。「其、恕、乎。己、所、不、欲、勿、施、於、人」

子貢が孔子 先生に質問して言った。「一言で言える事で、終身その事を行うべきである物は有りますか？」

孔子 先生は言った。「それは『恕』、『思いやり』である。(思いやりとは、)自分がされたくない事を他人にするなかれ(という事である)」

衛霊公第十五 第二十四章

子、曰。「吾(われ)、之(の)、於、人、也、誰、毀(ひなんする)？ 誰、誉(ほめる)？ 如(もし)、有、所、誉(ほめる)、者(もの)、其(それ)、有、所、試、矣。斯(この)民、也、三代、之(の)、所以(理由)、『直道』、而、行、也」

孔子先生は言った。「私、孔子は、(親しくない)人々の中では、誰かを非難したであろうか？ いいえ！ 誰かをほめたであろうか？ いいえ！ もし、ほめるべき所が有る者がいても、(その者には必ず)試みるべき所が有るであろう。この国民、現在の人々が、夏王朝、殷、周という三代の真っ直ぐな道を(知らずに)通(とお)っている事が、このように(非難しない事、ほめない事、試みる事を)行う理由なのである」

衛霊公第十五 第二十五章

子、曰。「吾（われ）、猶、及、『史』、之（の）、『闕文』、也。有、馬、者（もの）、借（かす）、人、乗、之（これ）。今、亡（ない）、矣、夫」

孔子先生は言った。「私、孔子ですら、『史』、『歴史を記録する役人』による(不明であったり疑問が有ったりする箇所を)『闕文』、『欠文』、『故意に記録文から欠落させる事』を見聞きするに及んだ事が有る。(古代では、)馬を所有している者が他人に馬を無料で貸して馬に乗らせる事が行われていた。しかし、今では、馬を無料で貸す人など、いない」

衛霊公第十五 第二十六章

子、曰。「巧言、乱、徳。小、不、忍、則(すなわち)、乱、『大謀』」

孔子 先生は言った。「巧妙な言葉は、『徳』、『善』(についての世論)を駄目にしてしまう。小さな事を忍耐できなければ、大事な計画を駄目にしてしまう」

衛霊公第十五 第二十七章

子、曰。「衆、悪（ぞうおする）、之（これ）、必、察（くわしくしらべる）、焉。衆、好、之（これ）、必、察（くわしくしらべる）、焉」

孔子先生は言った。「大衆が、あるものを憎悪しても、必ず詳しく調べるべきである。大衆が、あるものを好んでも、必ず詳しく調べるべきである」（。大衆の好き嫌いは当てにならない。）

衛霊公第十五 第二十八章

子、曰。「人、能、弘、道。非、道、弘、人」

孔子先生は言った。「人は(自他の)『道』、『真理』(についての知恵)を広げる事ができる。『道』、『真理』が(何もしなくても)人を広げる訳ではない」

衛霊公第十五 第二十九章

子、曰。「過、而、不、改、是、謂、過、矣」

孔子先生は言った。「過ちを犯しても改めない事を『過ち』と言うのである」

衛霊公第十五 第三十章

子、曰。「吾(われ)、嘗(かつて)、終日、不、食、終夜、不、寝、以、思、無益。不如(しかず)、学、也」

孔子 先生は言った。「私、孔子は、かつて、一日中、食べずに、一晩中、寝ずに、思考してみたが、無益、無駄であった。(他のものから)学ぶのには、及ばなかった」

衛霊公第十五 第三十一章

子、曰。「君子、謀、道、不、謀、食。耕、也、餒(うえる)、在、其(その)中、矣。学、也、禄(給料)、在、其(その)中、矣。君子、憂、道、不、憂、貧」

孔子 先生は言った。「王者は、『道』、『真理』について考えるが、食べる事について考えない。耕す中に、(実は、)飢えが存在するのである。(真理を)学ぶ中に、(実は、)食べ物、金銭が存在するのである。王者は『道』、『真理』に関して心配するが、貧困は心配しない」

衛霊公第十五 第三十二章

子、曰。「知、及、之、仁、不能、守、之、雖、得、之、必、失、之。知、及、之、仁、能、守、之、不、荘、以、莅、之、則、民、不敬。知、及、之、仁、能、守、之、荘、以、莅、之、動、之、不、以、礼、未、善、也」

孔子先生は言った。「(死んでいる言葉として死んでいる文字として)善(の単なる知識)を知り及んでいても、思いやりによって善を(生き生きと)備える事ができなければ、(死んでいる言葉として死んでいる文字として)善を得ていても、必ず善(の単なる知識)を失ってしまう。善を知り及んでいても、思いやりによって善を備える事ができていても、荘厳に荘重に善行して善に臨んでいなければ、他の人々は敬ってくれない。善を知り及んでいても、思いやりによって善を備える事ができていても、荘厳に荘重に善行して善に臨んでいても、礼儀を持って他の人々を動かさなければ、未だ善人ではない」

衛霊公第十五 第三十三章

子、曰。「君子、不、可、小、知（おさめる）。而、可、大、受、也。小人、不、可、大、受。而、可、小、知（おさめる）、也」

孔子先生は言った。「王者は、小事を統治するべきではない。大事を引き受けるべきである。矮小な人は、大事を引き受けるべきではない。小事を統治するべきである」

衛霊公第十五 第三十四章

子、曰。「民、之(の)、於、仁、也、甚、於(よりも)、『水火』。『水火』、吾(われ)、見、踏、而、死、者(もの)、矣。未、見、踏、仁、而、死、者(もの)、也」

孔子先生は言った。「人にとって『仁』、『思いやり』は『水火』、『洪水や火事』よりも非常に大事である。また、私、孔子は、洪水や火事に遭遇して死んだ者を見た事は有るが、思いやりに遭遇して死んだ者など未だ見た事が無い」

衛霊公第十五 第三十五章

子、曰。「当、仁、不、譲、於、師」

孔子 先生は言った。「思いやる必要が有る事に当たったら、師にも譲ってはいけない」

衛霊公第十五 第三十六章

子、曰。「君子、貞、而、不、諒」

孔子 先生は言った。「王者は、正しいが、全く嘘をいわなかったり堅苦しいだけであったりする訳ではない」(。王者は、正しい人のために嘘もつく事ができる。正しい人のための嘘は悪ではない。)

衛霊公第十五 第三十七章

子、曰。「事（つかえる）、君、敬、其（その）事、而、後（あとにする）、其（その）食」

孔子 先生は言った。「君主に仕えて、君主からの仕事を畏敬して重んじて、自身の食事などは後回しにする」

衛霊公第十五 第三十八章

子、曰。「有、教、無、類」

孔子先生は言った。「善についての教えが有って、（複数）種類は無い（。唯一無二である。唯一普遍である）」

衛霊公第十五 第三十九章

子、曰。「道、不、同、不、相、為、謀」

孔子先生は言った。「道が同じではない人とは、相互の為に話し合う事ができない」(。外道とは話し合う事ができない。人は利害が対立する相手の言葉には聞く耳を持たないので、利害が対立する相手と話し合おうとしても無駄である。)

衛霊公第十五 第四十章

子、曰。「辞(ことば)、達(つうじる)、而、已(のみ)、矣」

孔子 先生は言った。「言葉は(思いを)相手に通じさせるだけなのである」(。
余計な口先だけの言葉は不要である。)

衛霊公第十五 第四十一章

師、冕、見。

及、階、子、曰。「階、也」

及、席、子、曰。「席、也」

皆、坐、子、告、之、曰。「某、在、斯。某、在、斯」

師、冕、出、子張、問、曰。「与、師、言、之、道、与？」

子、曰。「然。固、相、師、之、道、也」

盲目の楽師である冕と、孔子先生は出会った。

冕が階段に到達すると、孔子先生は言った。「階段です」

冕が座席に到達すると、孔子先生は言った。「座席です」

皆が座ると、孔子先生は、冕に告げて、言った。「何々は、ここに有ります。何々は、そこに有ります」

冕が退出すると、子張が孔子 先生に質問した。「盲目の楽師に言って教えるのは『道』、『真理』なのですか?」(。古代の中国では盲人は楽師に成る事が多かった。琵琶法師のように古代の日本でも盲人は音楽者に成る事が多かった。)

孔子 先生は言った。「そうです。盲目の楽師(、盲人)を助けるのは、元から、『道』、『真理』なのです」

季氏第十六

季氏第十六第一章

季氏、将、伐、顓臾。

冉有、季路(＝子路)、見、於、孔子、曰。「季氏、将、有事、於、顓臾」

孔子、曰。「求(＝冉有)。無、乃、爾、是、過、与? 夫、顓臾、昔者、先王、以、為、東蒙、主。且、在、邦域之中、矣。是、社稷之臣、也。何、以、伐、為?」

冉有、曰。「夫子、欲、之。吾、二臣、者、皆、不、欲、也」

孔子、曰。「求(＝冉有)。周任、有、言。曰。『陳力、就、列。不能、者、止』。危、而、不、持、顚、而、不、扶、則、将、焉、用、彼、相、矣? 且、爾、言、過、矣。虎、兕、出、於、柙、亀、玉、毀、於、櫝中、是、誰之過、与?」

冉有、曰。「今、夫、顓臾、固、而、近、於、『費』。今、不、取、後世、必、為、子孫、憂」

孔子、曰。「求(＝冉有)。君子、疾、夫、舎、曰、『欲、之』、而、必、為、之、辞。丘(＝孔子)、也、聞、『有、国、有、家、者、不、患、寡、而、患、不、均。不、患、貧、而、患、不、安』。蓋、均、無、貧。和、無、寡。安、無、傾。夫、如、是。故、遠、人、不、服、則、修、文、徳、以、来、之。既、来、之、則、安、之。今、由(＝子路)、与、求(＝冉有)、也、相、夫子、遠、人、不、服、而、不能、来、也。邦、『分崩離析』、而、不能、守、也。而、謀、動、『干戈』、於、邦内。吾、恐、季孫(＝季氏)之憂、不在、顓臾、而、在、『蕭牆』之内、也」

季氏が顓臾という国を攻めようとした。

冉有と子路が、孔子先生に会って言った。「季氏が顓臾という国に対して戦争を起こそうとしています」

孔子先生は言った。「冉有よ。これは、あなた、冉有が過ちを犯したからではないのか？　顓臾という国を、昔、古代の王は、『東蒙』という所の主にしたのである。顓臾という国は、この国の領域の中に有る。顓臾という国は、『社』、『土地神の祭壇』と『稷』、『穀物神の祭壇』で祭儀を行ってくれる臣下の属国である。どうして顓臾という国を攻めるのか？　おかしい！」

冉有が言った。「あの方、季氏は、その顓臾という国が欲しいのです。私達、冉有と子路という二人の臣下は皆、顓臾という国が攻められる事を欲していないのです」

孔子先生は言った。「冉有よ。周任という人の言葉が残っている。周任は言った。『尽力して臣下の列に加わって就任する。君主のせいで正しい臣下でいる事が不可能であれば、臣下である事を止める』と。(君主が)危険な時に(臣下が)守らなければ、(君主が)転倒した時に(臣下が)助けなければ、どうして(君主は)助け手(、臣下)として用いるであろうか？　いいえ！　また、あなた、冉有の言葉は誤っている。虎や『兕』、『犀という説が有る一角獣』が檻から出てしまったり、(神託を受けるために用いる占いの)亀の甲羅や宝玉が箱の中で壊れていたりしたら、これらは誰の過ちなのか？　あなた達、君主から任されている臣下達の過ちである！」

冉有が言った。「今、顓臾という国は、(地形などが)堅固ですし、『費』という所に近いのです。今、顓臾という国を取っておかなければ、後世に、必ず、季氏の子孫にとっての不安要素と成ってしまいます」

孔子先生は言った。「冉有よ。王者は、ある人が『何々が欲しい』と(本心を)言わないでおいて(嘘の)言い訳を必ずするのを憎悪する。私、孔子は聞いた事が有ります。『国を所有したり家を所有したりしている者は、(生活必需品や金銭が)少ない事は心配しないが、皆が均等ではない事は心配する。貧しい事は心配しないが、安らぎを与えられない事は心配する』と。私、孔子が考えるに、皆が均等であれば、(他人よりも)貧しい人は、いない事に成る

のである。和合して(相互に助け合って)いれば、(他人よりも生活必需品や金銭が)少ない人は、いない事に成るのである。安らぎを与えていれば、国や家が傾く事は無い。その通りなのである。だから、遠くにいる(他国の)人が服従してくれなければ、言葉による文字による知恵や『徳』、『善行』を修行して、これら遠くにいる他国の人を自国に来させるのである。これら遠くにいる他国の人を来させたら、これら遠くにいる他国の人に安らぎを与えるのである。今、子路と冉有は、あの者、季氏を助けて遠くにいる顓臾という国の人を服従させる事ができていないし、遠くにいる顓臾という国の人を季氏の領地へ来させる事ができていないのである。顓臾という属国を含む自国を分裂、分断、分離させてしまって、自国や季氏を守る事ができていないのである。季氏は、顓臾という属国を含む自国の国内で武力を動かす陰謀を企(たくら)んでしまっている。私、孔子は『季氏の不安要素は、顓臾という国には無く、内輪の中に有るのではないか?』と心配してしまう」

季氏第十六 第二章

孔子、曰。「天下、『有道』、則(すなわち)、礼、楽、征伐、自(より)、天子、出。天下、『無道』、則(すなわち)、礼、楽、征伐、自(より)、諸侯、出。自(より)、諸侯、出、蓋(かんがえるに)、十世、希(まれ)、不、失、矣。自(より)、大夫、出、五世、希(まれ)、不、失、矣。陪臣、執、国、命、三世、希(まれ)、不、失、矣。天下、『有道』、則(すなわち)、政、不、在、大夫。天下、有道、則(すなわち)、庶人、不、議(はかる)」

孔子先生は言った。「天下が有道であれば、礼儀作法、音楽、征伐の派兵は、天子から世の中に出される。天下が無道、非道であれば、礼儀作法、音楽、征伐の派兵は、諸侯から世の中に出されてしまう。礼儀作法、音楽、派兵が、諸侯から世の中に出されてしまっていれば、私、孔子が考えるに、十世代(、三百年間)以内に、権力を失わない事は稀(まれ)である(。権力を失う可能性が高い)。礼儀作法、音楽、派兵が、諸侯よりも下位の臣下である役人から世の中に出されてしまっていれば、五世代(、百五十年間)以内に、権力を失わない事は稀(まれ)である(。権力を失う可能性が高い)。『陪臣』、『臣下の臣下』が国の命運を執(と)ってしまっていれば、三世代(、九十年間)以内に、権力を失わない事は稀(まれ)である(。権力を失う可能性が高い)。天下が有道であれば、政治権力が、諸侯よりも下位の臣下である役人の手中に有る事は無い。天下が有道であれば、庶民は、政治について議論しない」

季氏第十六 第三章

孔子、曰。「禄(給料)、之(の)、去、公室、五世、矣。政、逮(とらえられる)、於、大夫、四世、矣。故、夫(かの)三桓之子孫、微(おとろえる)、矣」

孔子先生は言った。「役人の給料の決定権などが君主の家から奪い去られてしまってから、五世代(、約百五十年間)経ってしまっている。政治権力が、諸侯よりも下位の臣下である役人の手に渡ってしまってから、四世代(、約百二十年間)経ってしまっている。だから、あの三つの有力な家門の子孫も衰微してしまっているのである」

季氏第十六 第四章

孔子、曰。「益、者、三、友。損、者、三、友。友、直。友、諒。友、多聞。益、矣。友、『便辟』。友、『善柔』。友、『便佞』。損、矣」

孔子先生は言った。「有益な者達には、三種類の友達がいる。損害をもたらしてくる者どもには、三種類の悪い友どもがいる。正直な友。思いやり深い誠実な友。多く聞いて学んでいる友。これらの三種類の友達は、有益である。こびへつらう友。柔和な善人のふりをしているが、うわべだけで不誠実な友。口先だけの不誠実な友。これらの三種類の友どもは、損害をもたらしてくる」

季氏第十六 第五章

孔子、曰。「益、者、三、楽。損、者、三、楽。楽、節、礼楽。楽、道、人之善。楽、多、賢友。益、矣。楽、驕楽。楽、佚遊。楽、宴楽。損、矣」

孔子先生は言った。「有益な物には、三つの楽しみが有る。損害をもたらしてくる物には、三つの楽しみが有る。礼儀作法や音楽を節度を持って楽しむ事。他人の善い所を言うのを楽しむ事。賢明な友達が多いのを楽しむ事。これらの三つの楽しみは、有益である。贅沢を楽しむ事。怠惰に遊ぶのを楽しむ事。酒宴を楽しむ事。これらの三つの楽しみは、損害をもたらしてくる」

季氏第十六 第六章

孔子、曰。「侍、於、君子、有、三、愆（あやまり）。言、未、及、之（これ）、而、言。謂、之（これ）、躁。言、及、之（これ）、而、不、言。謂、之（これ）、隠。未、見、顔色、而、言。謂、之（これ）、瞽」

孔子先生は言った。「王者のそばに仕える時の、三つの誤りが有る。王者から未だ声をかけられていないのに発言してしまう。これを「早過ぎるし、うるさい」と言う。王者から声をかけられても無言でいてしまう。これを陰気と言う。王者の顔色を未だ見ないで発言してしまう。これを盲目と言う」

季氏第十六 第七章

孔子、曰。「君子、有、三、戒。少之時、血気、未、定。戒、之(これ)、在、色。及、其(その)壮、也、血気、方(まさに)、剛。戒、之(これ)、在、闘。及、其(その)老、也、血気、既、衰。戒、之(これ)、在、得(もうけ)」

孔子先生は言った。「王者には、三つの戒め、注意が有る。若い時は、血気、意思が(正義へと)未だ定まっていない。そのため、『色』、『性欲などの肉欲』を戒めて注意する。壮年の時は、血気が盛(さか)んに成ってしまう(。短気である)。そのため、闘争してしまう事を戒めて注意する。老年の時は、血気が衰えてしまっている。そのため、怠惰に楽して儲けようとしたり、儲けに貪欲に執着したりしてしまう事を戒めて注意する」

季氏第十六 第八章

孔子、曰。「君子、有、三、畏。畏、天命。畏、大人。畏、聖人之言。小人、不、知、天命、而、不、畏也。狎（なれなれしくする）、大人。侮（あなどる）、聖人之言」

孔子先生は言った。「王者には、三つの畏敬が有る。天の神からの使命、天の神による運命を畏敬する。大いなる人を畏敬する。聖人の言葉を畏敬する。矮小な人は、天の神からの使命、天の神による運命について、無知なので、畏敬しない。大いなる人になれなれしくしてしまう。聖人の言葉を軽視してしまう」

季氏第十六　第九章

孔子、曰。「生、而、知、之、者、上、也。学、而、知、之、者、次、也。困、而、学、之、又、其次、也。困、而、不、学、民、斯、為、下、矣」

孔子先生は言った。「生まれながらに真理を知っている者は最上位、第一位である。学んで真理を知った者は第二位である。困ったり苦しんだりして真理について学び始める者は第三位である。困ったり苦しんだりしても何も学ばない者は、民衆も最下位と見なす」

季氏第十六 第十章

孔子、曰。「君子、有、九、思。視、思、明。聴、思、聡。色、思、温。貌、思、恭。言、思、忠。事（こと）、思、敬。疑、思、問。忿（いかり）、思、難。見、得（もうけ）、思、義」

孔子先生は言った。「王者は、九つの事を思う事が有る。知恵の言葉を見ると、明確に理解したいと思う。知恵の言葉を聴くと、聡明に成りたいと思う。温厚な顔色でいたいと思う。恭しく敬った礼儀に適（かな）った姿でいたいと思う。発言が誠実でありたいと思う。他者への敬意を持って仕事をしたいと思う。疑問に思ったら、賢者に質問したいと思う。怒りは災難を招いてしまうと思う。利益を見ると、『この利益を得るのは、正義であろうか？』と思う」

季氏第十六 第十一章

孔子、曰。「『見、善、如(ように)、不、及。見、不善、如(ように)、探(さぐる)、湯』。吾(われ)、見、其(その)人、矣。吾(われ)、聞、其(その)語、矣。『隠居、以、求、其(その)志。行、義、以、達、其(その)道』。吾(われ)、聞、其(その)語、矣。未、見、其(その)人、也」

孔子先生は言った。「『善い言動を見聞きしたら、自分は及んでいないかのように、精進する。悪事は、熱湯に手を入れてしまったかのように、すぐに手を引く』。私、孔子は、そのようにしている人を見た事が有る。私、孔子は、そのような事が言われているのを見聞きした事が有る。『世俗から隠居して善を志して探求する。善行を行(おこな)って善への道の上を到達していく』。私、孔子は、そのような事が言われているのを見聞きした事が有る。しかし、そのようにしている人を未だ見た事が無い」

季氏第十六 第十二章

（「誠、不、以、富。亦、祇、以、異」）

斉、景公、有、馬、千駟(四頭の馬)。死之日、民、無(ない)、徳、而、称(ほめる)、焉。

伯夷、叔斉、餓、於、首陽之下。民、到、于、今、称(ほめる)、之(これ)。

其(それ)、斯(これ)之謂、与(か)？

（「詩経」には記されている。「人の価値は、まことに、富によるのではない。まさに、人によって異なる善行によるのである」と。）

斉という国の景公は、馬が四千頭い(るほど富が有っ)た。しかし、景公が死んだ日、国民は、景公の行動を称賛しなかった。

伯夷と叔斉は、首陽山の下で餓死した。しかし、人々は、今に至るまでも、伯夷と叔斉の善行を称賛している。

「詩経」の「人の価値は、まことに、富によるのではない。まさに、人によって異なる善行によるのである」という詩は、このような事を言っているのか？　はい！　言っている！

季氏第十六 第十三章

陳亢、問、於、伯魚(＝鯉)、曰。「子、亦、有、『異聞』、乎?」
対(こたえる)、曰。「未、也。嘗(かつて)、独、立。鯉、趨(はしる)、而、過、庭。曰。『学、詩、乎?』。対(こたえる)、曰。『未、也』。『不、学、詩、無(ない)、以、言』。鯉、退、而、学、詩。他日、又、独、立。鯉、趨(はしる)、而、過、庭。曰。『学、礼、乎?』。対(こたえる)、曰。『未、也』。『不、学、礼、無(ない)、以、立』。鯉、退、而、学、礼。聞、斯(この)二者(もの)」

陳亢、退、而、喜、曰。「問、一、得、三。聞、詩。聞、礼。又、聞、君子、之(の)、遠、其(その)子、也」

陳亢が孔子先生の実の子である鯉に質問した。「あなた、鯉は、家族ではない弟子には教えず、家族だけに教える、孔子先生の特別な別の教えを所有していますか?」

鯉が答えて言った。「未だ無いです。かつて、孔子先生が庭に独りで立っていた時に、私、鯉は走って庭を通り過ぎようとしました。すると、孔子先生は言いました。『詩経を学んでいますか?』と。私、鯉は答えて言いました。『未だです』と。孔子先生は言いました。『詩経を学んでいないと、何も言い表せない』と。私、鯉は庭から退出すると、早速、詩経を学び始めま

した。別の日に、また、孔子先生が庭で独りで立っていた時に、私、鯉は走って庭を通り過ぎようとしました。すると、孔子先生は言いました。『礼儀について学んでいますか?』と。私、鯉は答えて言いました。『未だです』と。孔子先生は言いました。『礼儀について学んでいないと、学を確立できない』と。私、鯉は、庭から退出すると、礼儀について学び始めました。私、鯉が孔子先生から家族として聞く事ができたのは、この二つの事だけです」

陳亢は、退出してから、喜んで言った。「私、陳亢は、鯉から一つの言葉を聞いて、三つの事を聞く事ができ得た。第一に、詩経について学ぶべきであると聞く事ができ得た。第二に、礼儀について学ぶべきであると聞く事ができ得た。第三に、王者は、自身の実の子を、家族としてからは遠ざけて、弟子として、他の弟子と同様に扱う、と聞く事ができ得た」

季氏第十六 第十四章

邦、君之妻。君、称、之、曰、「夫人」。夫人、自称、曰、「小童」。邦人、称、之、曰、「君夫人」。称、諸、異邦、曰、「寡小君」。異邦人、称、之、亦、曰、「君夫人」。

国の君主の妻。君主は、この妻を「夫人」と呼ぶ。夫人は「小童」、「わらわ」と自称する。国民は、この君主の妻を「君夫人」、「君主の夫人」と呼ぶ。外国では、この自国の君主の妻を「寡小君」、「小さな君」と呼ぶ。異邦人、外国人は、この他国の君主の妻をまた再び「君夫人」、「君主の夫人」と呼ぶ。

陽貨第十七

陽貨第十七 第一章

陽貨、欲、見(あう)、孔子。

孔子、不、見(あう)。

帰(おくりものをする)、孔子、豚。

孔子、時、其亡(そのいない)、也、而、往、拝、之(これ)。

遇(あう)、諸(これ)、塗(とちゅう)。

謂、孔子、曰。「来。予、与(と)、爾(なんじ)、言」

曰。「懐、其(その)宝、而、迷、其(その)邦、可、謂、仁、乎?」

曰。「不可」

「好、従(じゅうじする)、事(こと)、而、亟(しばしば)、失、時、可、謂、知、乎?」

曰。「不可」

「日月、逝、矣。歳、不、我、与（ともに）」

孔子、曰。「諾。吾（われ）、将（まさに）、仕、矣」

陽貨が孔子 先生に会いたいと欲した。

孔子 先生は会わなかった。(陽貨が非道であったので、会うのを避けた。)

陽貨が孔子 先生に豚を贈った。

孔子 先生は、その陽貨がいない時に、陽貨の所へ行って、豚の礼を言った。

しかし、孔子 先生は、途中で、その陽貨に遭遇してしまった。

陽貨が孔子 先生に言った。「私、陽貨の家に来てください。私、陽貨と、
あなた、孔子で話をしましょう」

孔子 先生は言った。「宝を懐に入れて私腹を肥やして、自国を迷わせる人
は、『仁』、『思いやり深く知的である』と言えますか?」

陽貨が言った。「言えません」

(孔子 先生は言った。)「政治に従事するのを好むが、頻繁に時を喪失する人(、時間を浪費する人)は、『知者である』と言えますか?」

陽貨が言った。「言えません」

(孔子 先生は言った。)「月日は過ぎていってしまいます。年月を自身と共に留めておく事は不可能です」

孔子 先生は言った。「ええ。(仕方ない。)私、孔子は(国に役人として)仕えようと思います」

陽貨第十七 第二章

子、曰。「性、相（そうごに）、近、也。習、相（そうごに）、遠、也」

孔子先生は言った。「(人々は、先天的な心の)性質は、お互いに近かったのである。しかし、(人々は、)学習による後天的な物は、お互いに遠く成っているのである」

陽貨第十七 第三章

子、曰。「唯、上、知、与、下、愚、不、移、也」

孔子先生は言った。「『上知』、『優れた知者』は堕落して愚者に成らない。『下愚』、『最悪な愚者』は改心して知者に成らない」（。向上しなさい。改心しなさい。）

陽貨第十七 第四章

子、之(いく)、武城、聞、弦歌之声。

夫子、莞爾、而、笑、曰。「割、鶏(ニワトリ)、焉(どうして)、用、牛刀」

子游、対(こたえる)、曰。「昔者(むかし)、偃(＝子游)、也、聞、諸(これ)。夫子、曰。『君子、学、道、則(すなわち)、愛、人。小人、学、道、則(すなわち)、易(やさしい)、使(つかう)、也』」

子、曰。「二三子。偃(＝子游)之言、是(ぜ)、也。前言、戯、之、耳(のみ)」

孔子 先生は、(弟子達と、)武城に行って、(武城の人達による)弦楽器の音楽と歌声を聞いた。

孔子 先生は微笑(ほほえ)んで言った。「鶏(ニワトリ)を割(さ)くのに、どうして牛刀を用いるであろうか?」(、「武城の全ての人々に音楽に至るまで真理や善を学ばせるのは、大げさでは、ありませんか?」。)

子游が答えて言った。「昔、私、子游は、このように聞いた事が有ります。孔子 先生は言いました。『王者が道、真理を学べば他人を思いやるように成る。矮小な人でも道、真理を学べば、矮小な人を使役しやすく成る。矮小な人は従ってくれるように成る』と」

孔子先生は言った。「弟子達よ。子游の言葉は正しい。前言は、私、孔子が戯れに、子游を試して、からかっただけなのである」

陽貨第十七 第五章

公山弗擾、以、費、畔（そむく）。

召。

子、欲、往。

子路、不、説（よろこぶ）、曰。「末（はてる）、之（いく）、也、已（のみ）。何、必、公山氏、之（いく）、之（これ）、也」

子、曰。「夫（それ）、召、我（われ）、者（もの）、而、豈（どうして）、徒（いたずら）、哉？ 如（もし）、有、用、我（われ）、者、吾（われ）、其（それ）、為（つくる）、東、周、乎」

公山弗擾という人が、費という場所で反乱を起こした。

公山弗擾が、孔子 先生を呼び寄せようとした。

孔子 先生は、公山弗擾の所へ行きたいと欲した。

子路は、不機嫌に成って、言った。「孔子 先生。絶対に行かないでください。どうして公山弗擾 氏の所へ行く必要が有りますか？」

孔子先生は言った。「私、孔子を呼び寄せようとする者が、どうして、いたずらに無意味に呼び寄せようとするであろうか？　いいえ！　もし私、孔子を(部下として)採用してくれる者がいれば、私、孔子は東の周王朝でも作ろうかな」

陽貨第十七 第六章

子張、問、仁、於、孔子。

孔子、曰。「能、行、五、者（もの）、於、天下、為（なす）、仁、矣」

「請、問、之（これ）」

曰。「恭、寛、信、敏、恵。恭、則（すなわち）、不、侮。寛、則（すなわち）、得、衆。信、則（すなわち）、人、任、焉。敏、則（すなわち）、有、功。恵、則（すなわち）、足（たりる）、以、使（つかう）、人」

子張が孔子 先生に「仁」、「思いやり深く知的である行動」について質問した。

孔子 先生は言った。「天下で、五つの事を行えたら、『仁者』、『思いやり深い知者』であるとします」

(子張が言った。)「請い願わくば、その五つの事を質問します」

孔子 先生は言った。「他者を恭しく敬う事、寛大である事、誠実である事、機敏に対応する事、思いやり深く知的である事、という五つの事です。他者を恭しく敬えば、他者から軽蔑される事が無く成るでしょう。寛大であれば、

多数の人々を得る事ができます。誠実であれば、他人から任せてもらえるように成るでしょう。機敏に対応すれば、功績を残せるでしょう。思いやり深く知的であれば、他人を使役するに足る資格が有ります」

陽貨第十七 第七章

仏肸、召。

子、欲、往。

子路、曰。「昔者、由(＝子路)、也、聞、諸。夫子、曰。『親、於、其身、為、不善、者、君子、不、入、也』。仏肸、以、中牟、畔。子、之、往、也、如之何？」

子、曰。「然。有、是言、也。不、曰、『堅』、乎、磨、而、不、磷？不、曰、『白』、乎、涅、而、不、緇？吾、豈、匏瓜、也、哉、焉、能、繋、而、不、食？」

仏肸という人が孔子 先生を呼び寄せようとした。

孔子 先生は仏肸の所へ行きたいと欲した。

子路が言った。「昔、私、子路は、このように聞いた事が有ります。孔子先生は言いました。『自ら、その身で、不善、悪事を為す者どもの中に、王者は入らない』と。仏肸は、中牟という場所で、反乱を起こしています。孔

子先生が仏肸の所へ行くのは、どうかと思いますが？　(善くないと思います！)」

孔子先生は言った。「そうですね。そのように言った事が有ります。しかし、磨いて削っていっても薄く成らないものを『堅固である』と言いませんか？　(私、孔子は何が有っても堅固に正しい者です。)黒く染めようとしても黒く染まらないものを『白い』と言いませんか？　(私、孔子は何が有っても白い清浄な者です。)私、孔子は、どうして、木に繋(つな)がったままで食べてもらえない匏瓜(ウリ)のようであろうか？　いいえ！」

陽貨第十七 第八章

子、曰。「由(＝子路)、也、女(なんじ)、聞、六言、六蔽、矣、乎？」

対(こたえる)、曰。「未、也」

「居。吾(われ)、語、女(なんじ)。好、仁、不、好、学、其(その)蔽、也、愚。好、知、不、好、学、其(その)蔽、也、蕩。好、信、不、好、学、其(その)蔽、也、賊。好、直、不、好、学、其(その)蔽、也、絞。好、勇、不、好、学、其(その)蔽、也、乱。好、剛、不、好、学、其(その)蔽、也、狂」

孔子先生は言った。「子路よ、あなたは、『六言』、『仁、知、信、直、勇、剛』の『六蔽』、『六つの遮蔽による弊害』について聞いた事が有りますか？」

子路が答えて言った。「未だ聞いた事がありません」

孔子先生は言った。「では、ここに少し留まって居なさい。私、孔子は、あなた、子路に話しましょう。『仁』、『思いやり』を好んでも、学ぶのを好まなければ、その弊害は、愚かに成ってしまう事である。知恵を好んでも、学ぶのを好まなければ、その弊害は、放蕩に成ってしまう事である。『信』、『誠実さ』を好んでも、学ぶのを好まなければ、その弊害は、目上の人に対

して反乱を起こしてしまう賊に成ってしまう事である。正直さを好んでも、学ぶのを好まなければ、その弊害は、自分で自分の首を絞める羽目に成ってしまう事である。善行を行う勇気を好んでも、学ぶのを好まなければ、その弊害は、反乱を起こしてしまう事である。剛毅、心の強さを好んでも、学ぶのを好まなければ、その弊害は、良くも悪くも狂人的に成ってしまう事である」

陽貨第十七 第九章

子、曰。「小子。何、莫、学、夫『詩』？ 『詩』、可、以、興。可、以、観。可、以、群。可、以、怨。邇、之、事、父。遠、之、事、君。多、識、於、鳥獣草木之名」

孔子先生は言った。「あなた達よ。なぜ『詩経』の詩を学ばないのか？『詩経』の詩によって、自身の心を奮い立たせる事ができるし、(自他の心や物を)観察する事ができるし、(心を一つにして)集団を作る事ができるし、(悪事を)怨む事ができる。『詩経』の詩によって、身近(な家の中)では、父に仕える事ができるし、(家の外の)遠くでは、君主に仕える事ができる。鳥や獣や草木の名前を知識として多く知る事ができる」

陽貨第十七 第十章

子、謂、伯魚(=鯉)、曰。「女(なんじ)、為、『周南』、『召南』、矣、乎？ 人、而、不、為、『周南』、『召南』、其(それ)、猶(のよう)、正、牆、面、而、立、也、与」

孔子先生は鯉に言った。「あなた、鯉は、『詩経』の『周南』や『召南』の詩を学びましたか？ 『詩経』の『周南』や『召南』の詩を学んでいない人は、『牆』という壁を正面にして向かって立っているようなものなのである(。何も見えないし、前進できないようなものなのである)」

陽貨第十七 第十一章

子、曰。「礼、云、礼、云。『玉帛』、云、乎、哉？ 楽、云、楽、云。鐘、鼓、云、乎、哉？」

孔子先生は言った。「『礼儀』、『礼儀』と言うが、『玉帛』、『宝玉と絹織物の贈り物』自体を礼儀自体と言っているのであろうか？ いいえ！ 礼儀作法として表す畏敬する心を礼儀と言うのである！ 『音楽』、『音楽』と言うが、鐘(かね)や太鼓(たいこ)自体を音楽自体と言っているのであろうか？ いいえ！ 音楽として表す心を音楽と言っているのである！」

陽貨第十七 第十二章

子、曰。「色、厲（きびしい）、而、内、荏（やわらかい）、譬（たとえるならば）、諸（これ）、小人、其（それ）、猶（のよう）、『穿窬』之盗、也、与」

孔子先生は言った。「外の色形は厳しいが、内心は軟弱である人を例えるならば、壁に穴を穿ってあけたり壁を超えて他人の家に忍び込む盗賊のような矮小な人である」

陽貨第十七 第十三章

子、曰。「『郷原』、徳之賊、也」

孔子 先生は言った。「『郷原』、『郷愿』、『故郷の中などでの名声のために善人のふりをする矮小な人』は、『徳』、『善行』に対する賊、盗人である」

陽貨第十七 第十四章

子、曰。「道、聴、而、塗（とちゅう）、説、徳、之（これ）、棄、也」

孔子 先生は言った。「道中で聴いてすぐに途中で説いてしまうように、自分で思考せずに、受け売りの言葉だけを持っているのは、『徳』、『善』、『真理』を放棄してしまうようなものなのである」

陽貨第十七 第十五章

子、曰。「鄙夫、可、与、事、君、也、与、哉？ 其、未、得、之、也、患、得、之。既、得、之、患、失、之。苟、患、失、之、無、所、不、至、矣」

孔子 先生は言った。「劣悪な者と共に君主に仕える事ができるであろうか？ いいえ！ 地位や名声や利益などを未だ得られない場合は、地位や名声や利益などを得る事ばかり思考する。地位や名声や利益などを既に得られた場合は、『地位や名声や利益などを失わないか？』とばかり思考する。仮に、地位や名声や利益などを失いそうな場合は、どんな悪事にも手を出してしまうだろう」

陽貨第十七 第十六章

子、曰。「古、者(は)、民、有、『三疾』。今、也、或(あるいは)、是(これ)、之(これ)、亡(ない)、也。古之狂、也、肆。今之狂、也、蕩。古之矜、也、廉。今之矜、也、忿戻。古之愚、也、直。今之愚、也、詐、而、已(のみ)、矣」

孔子先生は言った。「古代には人々が気に病んでいた事が三つ有った。今では、あるいは、それらは無く成ってしまった。古代の『(良い意味で)狂人的である事』とは『(良い意味で)自由奔放である事』であった。今の『(悪い意味で)狂人的である事』とは『放蕩である事』である。古代の『(良い意味での)矜持』とは『清廉潔白である事』であった。今の『(悪い意味での)矜持』とは『(悪い意味で、侮辱されたらすぐに怒れるように、)怒りやすい事』である。古代の『(良い意味で)愚かである事』とは『愚直である事』であった。今の『(悪い意味で)愚かである事』とは、『いつわる事』であるに過ぎない」

陽貨第十七 第十七章

子、曰。「巧言、令色、鮮、矣、仁」（※学而第一 第三章と完全一致している。）

孔子 先生は言った。「言葉が巧妙で、見た目が立派なもので、『仁』、『思いやり』があるものは少ない」（、「うわべだけの人は思いやりが少ない」。）

陽貨第十七 第十八章

子、曰。「悪（ぞうおする）、紫、之（の）、奪、朱、也。悪（ぞうおする）、『鄭声』、之（の）、乱、『雅楽』、也。悪（ぞうおする）、利口、之（の）、覆、邦家、者（もの）」

孔子 先生は言った。「国の公式ではない紫色が国の公式であった朱色の地位を奪ってしまったように、正しくないものや悪いものが正しいものの地位を奪うのを憎悪する。『鄭声』という、鄭という国の淫らな音楽が、『雅楽』という祭儀などの音楽を乱すのを憎悪する。悪い意味で利口な人、悪賢い人が国家を転覆させてしまうのを憎悪する」

陽貨第十七 第十九章

子、曰。「予、欲、無言」

子貢、曰。「子、如（もし）、不、言、則（すなわち）、小子、何、述（のべつたえる）、焉？」

子、曰。「天、何、言、哉？『四時』、行（おこなわれる）、焉。百物、生、焉。天、何、言、哉？」

孔子 先生は言った。「私、孔子は無言でいたいと欲する」

子貢が言った。「孔子 先生が、もし何も言わなく成ってしまったら、私達、孔子 先生の弟子達は、孔子 先生について何を述べ伝える事ができるでしょうか？　いいえ！　何も述べ伝える事ができなく成ってしまいます！」

孔子 先生は言った。「天の神が(音声という音波で)何かを言うであろうか？　いいえ！　(神が音声という音波で何かを言わなくても、)四季は行われて移り変わっていく。万物は生きていく。天の神が(音声という音波で)何かを言うであろうか？　いいえ！」

陽貨第十七 第二十章

孺悲、欲、見(あう)、孔子。

孔子、辞、以、疾(びょうき)。

将(まさにしている)、命(めいれい)、者(もの)、出、戸、取、「瑟」、而、歌、使(させる)、之(これ)、聞、之(これ)。

孺悲が孔子 先生に会いたいと欲し(て使者を派遣し)た。

孔子 先生は仮病で辞退した。

孺悲の命令をまさに遂行している使者が孔子 先生の部屋の戸から退出すると、孔子 先生は「瑟」という琴を取って演奏して歌って、その音声をわざと、この使者に聞かせた。(孔子は、孺悲に反省をうながすために、孔子が仮病で会わなかった事をわざと知らせた。)

陽貨第十七 第二十一章

宰我、問。「三年之喪、期、已、久、矣。君子、三年、不、為(なす)、礼、礼、必、壊。三年、不、為(なす)、楽、楽、必、崩。旧穀、既、没(なくなる)、新穀、既、升(たかくあがる)。鑽(うつ)、燧(ひうちいし)、改、火。期、可、已(やめる)、矣」

子、曰。「食、夫(かの)稲、衣、夫(かの)錦、於、女(なんじ)、安、乎?」

曰。「安」

「女(なんじ)、安、則(すなわち)、為(なす)、之(これ)。夫(それ)、君子、之(の)、居、喪、食、旨、不、甘(うまい)。聞、楽、不、楽。居、処、不、安。故、不、為(なす)、也。今、女(なんじ)、安、則(すなわち)、為(なす)、之(これ)」

宰我、出。子、曰。「予(=宰我)之不仁、也。子、生、三年、然(しかる)、後、免、於、父母之懐。夫(それ)、三年之喪、天下之通喪、也。予(=宰我)、也、有、三年之愛、於。其(その)父母、乎?」

宰我が孔子先生に問いかけた。「三年間、喪に服すのは、期間が長過ぎます。王者が、三年間も礼儀作法を行わなければ、必ず、礼儀作法が破壊されて無く成ってしまうでしょう。三年間も音楽を演奏しなければ、必ず、音楽が崩壊して無く成ってしまうでしょう。(三年間も経てば、)古い穀物は既に

無く成っているでしょうし、新しい穀物が既に高く伸びているでしょう。火打ち石を打って新しい火に改めているでしょう。三年間もの長過ぎる期間はやめるべきです」

孔子先生は言った。「三年間の喪に服している時に、美味しい新米を食べても、立派な衣服を着ても、あなた、宰我は、平気でいられるのか？」

宰我が言った。「平気でいられます」

孔子先生は言った。「あなた、宰我が平気でいられるのならば、そうすればよい。王者は、三年間の喪に服している時は、(悲しくて、)美味しい物を食べても美味しく感じる事ができないし、楽しい音楽を聞いても楽しく感じる事ができない。家にいても安らぐ事ができない。だから、そうしないのである。今、あなた、宰我が平気でいられるのならば、そうすればよい」

宰我が退出すると、また、孔子先生は言った。「宰我には思いやり、愛が無い。幼子は三年間、父母に愛されてから、その後、父母の懐から離れる。そのため、三年間の喪は、天下の共通の喪の期間なのである。宰我には、宰我の父母に対する三年分の愛が有るのだろうか？」

陽貨第十七 第二十二章

子、曰。「飽、食、終日、無(ない)、所、用、心、難、矣、哉。不、有、博弈、者(もの)、乎？ 為(なす)、之、猶、賢、乎、已(やめる)」

孔子 先生は言った。「終日、飽(あ)きるまで食べて、心を用いる(、思考する)対象が無い人を正しくするのは困難である。博打(ばくち)、賭け事や遊戯といった物が有りませんか？ 賭け事や遊戯をする人は、何もしない人よりは賢明(であると言える)かもしれない」

陽貨第十七 第二十三章

子路、曰。「君子、尚（とうとぶ）、勇、乎？」

子、曰。「君子、義、以、為（なす）、上。君子、有、勇、而、無、義、為（なす）、乱。
小人、有、勇、而、無、義、為（なす）、盗」

子路が孔子先生に言った。「王者は、勇気を重んじますか？」

孔子先生は言った。「王者は、正義を無上の物であるとします。王者は、
勇敢、大胆でも、正義を重んじる心が無ければ、反乱を起こしてしまいます。
矮小な人は、勇敢、大胆でも、正義を重んじる心が無ければ、盗みを犯して
しまいます」

陽貨第十七 第二十四章

子貢、曰。「君子、亦、有、悪、乎？」

子、曰。「有、悪。悪、称、人之悪、者。悪、居、下流、而、訕、上、者。悪、勇、而、無礼、者。悪、果敢、而、窒、者」

曰。「賜(＝子貢)、也、亦、有、悪、乎？」

「悪、徼、以、為、知、者。悪、不孫(→不遜)、以、為、勇、者。悪、訐、以、為、直、者」

子貢が孔子 先生に言った。「王者もまた、憎悪する事が有るのですか？」

孔子 先生は言った。「王者も、憎悪する事が有ります。王者は、他人の悪事を称賛する者どもを憎悪します。あえて下位に居ながら、上位者の悪口を言う者どもを憎悪します。勇敢、大胆でも、無礼な者どもを憎悪します。果敢、勇敢、大胆でも、精通していない無学な愚者どもを憎悪します」

また、孔子 先生は言った。「子貢もまた、憎悪する事が有るのですか？」

（子貢が言った。）「見ただけなのに『知っている』とする者どもを憎悪します。不遜なだけなのに『勇敢である』とする者どもを憎悪します。他人の欠点を暴いて『正直である』とする者どもを憎悪します」

陽貨第十七 第二十五章

子、曰。「唯、女子、与(と)、小人、為(なす)、難、養、也。近、之(これ)、則(すなわち)、不孫(↓不遜)。遠、之(これ)、則(すなわち)、怨(うらむ)」(※訳者に女性差別の意図は無いです。歴史的な物を考慮しました。)

孔子先生は言った。「ただ、女性と、矮小な男性だけは、養うのが困難であるとする。女性と、矮小な男性は、近づけると不遜に成ってしまう。遠ざけると怨(うら)んできてしまう」(※訳者に女性差別の意図は無いです。歴史的な物を考慮しました。)

陽貨第十七 第二十六章

子、曰。「年、四十、而、見(される)、悪(ぞうおする)、焉、其(それ)、終、也、已(のみ)」

孔子先生は言った。「四十歳以上なのに、(正当な理由によって)憎悪されてしまう人は、終わっている人に過ぎない」

微子第十八

微子第十八 第一章

微子、去、之。

箕子、為、之、奴。

比干、諫、而、死。

孔子、曰。「殷、有、三仁、焉」

（微子、箕子、比干は、殷王朝の非道な紂王に忠告したが聞き入れられず、）微子は、殷の紂王の元から去った。

箕子は、奴隷にされてしまった。

比干は、忠告したせいで、（殺されて、）死ぬ羽目に成ってしまった。

孔子先生は言った。「殷王朝には、三人の『仁者』、『思いやり深い知者』がいた」

微子第十八 第二章

柳下恵、為（なる）、「士師」、三、黜（やめさせられる）。

人、曰。「子、未、可、以、去、乎？」

曰。「直、道、而、事（つかえる）、人、焉（どうして）、往、而、不、三、黜？　枉（まげる）、道、而、事（つかえる）、人、何、必、去、父母之邦？」

柳下恵は、「士師」、「裁判官」に成ったが、三回も辞めさせられた。

ある人が柳下恵に言った。「あなた、柳下恵よ、この国を未だに去らないのですか？」

柳下恵は言った。「正しい真っ直ぐな『道』、『真理』によって他人に仕えるならば、他国に行っても、どうして、三回でも何回でも辞めさせられない事が有るだろうか？　いいえ！　何回でも辞めさせられてしまう！『道』、『真理』をねじ曲げてしまって他人に仕えてしまったならば、どうして父母がいる自国を去る必要が有るでしょうか？　いいえ！　自国を去る必要は無い！」

微子第十八 第三章

斉、景公、待、孔子、曰。「若（のように）、季氏、則（すなわち）、吾（われ）、不能。以、季、孟之間、待、之（これ）」

曰。「吾（われ）、老、矣。不、能、用、也」

孔子、行。

斉という国の景公が孔子 先生の待遇について孔子 先生に言った。「季氏と同様の待遇を孔子 先生にする事は、私、景公には不可能です。季氏と孟氏の中間の待遇を孔子 先生にします」

孔子 先生は言った。「私、孔子は老いています。景公が私、孔子を採用する事は不可能でしょう」

孔子 先生は、斉という国を去って行った。

微子第十八 第四章

斉、人、帰（おくりものをする）、「女楽」。

季桓子、受、之（これ）、三日、不、「朝」。

孔子、行。

斉という国の人が、魯という国の季氏の季桓子に、女性による音楽と舞踊を贈り物として贈った。

季氏の季桓子は、これを受けると、三日間、朝廷に出て来なかった。

孔子先生は、魯という国を去って行った。

微子第十八 第五章

楚、狂、接輿、歌、而、過、孔子、曰。「鳳、兮。鳳、兮。何、徳之(の)衰?往、者(もの)、不、可、諫。来、者(もの)、猶、可、追。已(やめる)、而。已(やめる)、而。今、之、従(じゅうじする)、政、者(もの)、殆(きけん)、而」

孔子、下、欲、与(と)、之(これ)、言。

趨(はしる)、而、辟(さける)、之(これ)。

不、得、与(と)、之(これ)、言。

楚という国の狂人のふりをした接輿という人が、孔子 先生の(車の)そばを通り過ぎながら、歌って言った。「鳳凰(である孔子 先生)よ。鳳凰(である孔子 先生)よ。どうして『徳』、『善行』が衰退していっているのか? 去る者に忠告するべきではない。来る者を追うべきである。(真理、善をこの世に教え広めるのは、)やめておきなさい。やめておきなさい。今の政治に従事している者どもは危険な連中だからである」

孔子 先生は(車を)下(お)りて、この接輿と話したいと欲した。

しかし、接輿は走って、これを避けてしまった。

そのため、孔子先生は、この接輿と話す事ができ得なかった。

微子第十八 第六章

長沮、桀溺、耦(ならぶ)、而、耕。

孔子、過、之(これ)。

使(させる)、子路、問、「津」、焉。

長沮、曰。「夫(その)、執、輿(くるま)、者(もの)、為(なす)、誰？」

子路、曰。「為(なす)、孔丘(＝孔子)」

曰。「是(これ)、魯、孔丘(＝孔子)、与(か)？」

曰。「是(これ)、也」

曰。「是、知、『津』、矣」

問、於、桀溺。

桀溺、曰。「子、為(なす)、誰？」

曰。「為(なす)、仲由(＝子路)」

曰。「是(これ)、魯、孔丘(＝孔子)之徒、与(か)？」

対(こたえる)、曰。「然(しかり)」

曰。「『滔滔』、者(もの)、天下、皆、是(これ)、也。而、誰、以、易(かえる)、之(これ)？ 且(かつ)、而、与、其(その)、従、辟(さける)、人、之(の)、士、也、豈(どうして)、若(しく)、従、辟(さける)、世、之(の)、士、哉？」

耰(たねをまいてつちをかぶせる)、而、不、輟(やめる)。

子路、行、以、告。

夫子、憮然、曰。「鳥獣、不、可、与(ともに)、同、群(むれ)。吾(われ)、非、斯(この)、人之徒、与(ともにする)、而、誰、与(ともにする)？ 天下、有道、丘(＝孔子)、不、与(ともに)、易(かえる)、也」

長沮と桀溺という人が並んで田畑を耕していた。

孔子先生達は、そこを通り過ぎた。

孔子先生は、子路に、長沮と桀溺へ、渡船場の場所を質問させた。

長沮が子路に言った。「あの車で御者を執(と)っている者は誰ですか？」

子路が言った。「孔子先生です」

長沮が言った。「その人は、魯という国の孔子ですか？」

子路が言った。「その人です」

長沮が言った。「その孔子であれば、『渡船場について知っている』はずでしょう」

子路が桀溺にも質問した。

桀溺が子路に言った。「あなたは誰ですか？」

子路が言った。「子路です」

桀溺が言った。「魯という国の孔子の学徒ですか？」

子路が答えて言った。「そうです」

桀溺が言った。「天下の万物は皆、『滔滔』と激しく流れて行く物なのです。誰が、それを変えられるでしょうか？　いいえ！　また、選り好み（えごの）し過ぎて結局、人を避けてしまう、一人前であるはずの人である孔子に従ってしまっている事が、俗世を避ける一人前である人である私達、長沮と桀溺に従う事に、どうして及べるであろうか？　いいえ！　及ばない！」

長沮と桀溺は、種をまいて土をかぶせる農作業をやめないままであった。

子路は、孔子先生の所へ戻って行って、長沮と桀溺の言葉を告げた。

孔子先生は憮然として言った。「人が、鳥や獣の群れと同じく共にいる事は、不可能である。私、孔子は、同胞である人と共にいないで、どのような者と共にいるというのか？　いいえ！　同胞である人と共にいる！　天下が有道であれば、私、孔子は、同胞である人と共にいて、この世を変えようとはしないであろう」

微子第十八 第七章

子路、従、而、後(おくれる)。

遇、「丈人(老人)」、以、杖、荷(になう)、篠(かご)。

子路、問、曰。「子、見、夫子、乎?」

「丈人(老人)」、曰。「四体、不、勤。五穀、不、分。孰(だれを)、為(なす)、夫子?」

植(たてる)、其(その)杖、而、芸(くさをかる)。

子路、拱、而、立。

止、子路、宿。

殺、鶏、為(つくる)、黍(キビ)、而、食、之(これ)。

見(あう)、其(その)二子、焉。

明日、子路、行、以、告。

子、曰。「隠者、也」

使（させる）、子路、反（かえす）、見（あう）、之（これ）。

至、則（すなわち）、行、矣。

子路、曰。「不、仕、無（ない）、義。長幼之節、不、可、廃、也。君臣之義、如之何（これ、いかん）、其（それ）、廃、之（これ）？欲、潔、其（その）身、而、乱、大、倫。君子、之（の）、仕、也、行、其（その）義、也。道、之（の）、不、行（おこなわれる）、已（すでに）、知、之（これ）、矣」

子路が、孔子 先生の従者として従っている時に、孔子 先生よりも遅れた事が有った。

子路は、籠（かご）を掛けた杖を肩に掛けている老人に遭遇した。

子路が老人に質問して言った。「あなた、孔子 先生を見ませんでしたか？」

老人が言った。「体の四肢、両手と両足によって仕事をしない人。『五穀』、『五種類の主要な穀物』を見分ける知識が無い人。そのような誰かを先生としているのですか？」

老人は、杖を地面に立てると、草を刈り始めた。

子路は、両手を胸の前で組み合わせる敬礼をして、立ったままでいた。

老人は、子路を引き止めて泊まらせた。

老人は、鶏（ニワトリ）を殺し、穀物の黍（キビ）を調理し、それらを子路に食べさせた。

老人は、子路に、老人の二人の子を会わせた。

翌日、子路は、孔子 先生の所へ行って、老人の言葉を告げた。

孔子 先生は言った。「その老人は、隠者である」

孔子 先生は、子路を老人の所へ戻らせて、老人に会わせようとした。

子路が老人の所に到着すると、老人は仕事で出かけていて、いなかった。

子路は、老人の二人の子に、孔子 先生から老人への伝言を頼んで、言った。
「役人として国家に仕えなければ、正しくない。年上の人と年下の人の間の節度は、廃止するべきではない。君主と臣下の間の正義をどうして廃止して良いであろうか？　いいえ！　あなたは、自身を清廉潔白にしたいと欲して、大いなる倫理を乱してしまっている。王者が他人に仕えるのは、その君主と臣下の間の正義を行うためなのである。『道』、『真理』、『善』が、この世で行われていない事を私、孔子は既に知っています」

微子第十八 第八章

「逸民」、伯夷、叔斉、虞仲、夷逸、朱張、柳下恵、少連。

子、曰。「不、降、其志。不、辱、其身。伯夷、叔斉、与」

謂、柳下恵、少連。「降、志。辱、身、矣。言、中、倫。行、中、慮。其、斯、而、已、矣」

謂、虞仲、夷逸。「隠居、放言。身、中、清。廃、中、権」

「我、則、異、於、是。無、可。無、不可」

隠者には、伯夷、叔斉、虞仲、夷逸、朱張、柳下恵、少連がいる。

孔子先生は言った。「志している目標を下方修正しなかった人。自身をあえて辱めなかった人。それは、伯夷と叔斉かな」

孔子先生は柳下恵と少連について言った。「志している目標を下方修正した人。自身をあえて辱めた人。発言すれば、倫理を言い当てる人。行動が深謀遠慮にあたる人。それだけかな」

孔子先生は虞仲と夷逸について言った。「隠居して放言した。身の処し方は清廉潔白にあたる。計画通りに俗世を捨てる事ができた」

孔子先生は言った。「私、孔子は、これらの隠者達とは異なる。『こうであるべきである』という事が無いし、『こうであってはいけない』という事が無い」

微子第十八 第九章

「大師」、摯、適、斉。

「亜飯」、干、適、楚。

「三飯」、繚、適、蔡。

「四飯」、欠、適、秦。

「鼓方」、叔、入、於、河。

「播鼗」、武、入、於、漢。

「少師」、陽、「撃磬」、襄、入、於、海。

「大師」という音楽者の摯は斉という国へ行ってしまった。

「亜飯」という音楽者の干は楚という国へ行ってしまった。

「三飯」という音楽者の繚は蔡という国へ行ってしまった。

「四飯」という音楽者の欠は秦という国へ行ってしまった。

「鼓方」という音楽者の叔は河の辺りに隠れてしまった。

「播鼗」という音楽者の武は漢の辺りに隠れてしまった。

「少師」という音楽者の陽と、「撃磬」という音楽者の襄は、海を渡って隠れてしまった。

微子第十八 第十章

周公、謂、魯公、曰。「君子、不、施、其親。不、使、大臣、怨、乎、不、以。故旧、無、『大故』、則、不、棄、也。無、求、備、於、一人」

周公は魯公に次のように言ったそうである。「王者は、自分の親族を捨てない。大臣による案が採用されない事を大臣に怨ませない。古くからの知人が大罪を犯さなければ、古くからの知人を捨てない。一人の人に全てが備わっている事を求める事なかれ」

微子第十八 第十一章

周、有、八士。

伯達、伯适、仲突、仲忽、叔夜、叔夏、季随、季騧。

周王朝には八人の「一人前である者」がいた。

それは、伯達、伯适、仲突、仲忽、叔夜、叔夏、季随、季騧である。

子張第十九

子張第十九 第一章

子張、曰。「士、見、危、致、命。見、得、思、義。祭、思、敬。喪、思、哀。其(それ)、可、已(のみ)、矣」

子張が言った。「『士』、『一人前である者』は、国家や家の危機を見たら命を賭して全力を尽くす。利益を見たら、正義であるか思考する。祭儀では畏敬しようと思う。喪では悲しく思う。そうすれば、『士』、『一人前である者』と言えるばかりである」

子張第十九 第二章

子張、曰。「執、徳、不、弘。信、道、不、篤。焉（どうして）、能、為（なす）、有？
焉（どうして）、能、為（なす）、亡（ない）？」

子張が言った。「『徳』、『善行』を広く執り行わない人。『道』、『真理』を信じる心が厚くない人。そんな人をどうして『善良な心が有る』と見なす事ができるであろうか？　いいえ！　そんな人をどうして『悪い心が無い』と見なす事ができるであろうか？　いいえ！」

子張第十九 第三章

子夏之門人、問、交、於、子張。

子張、曰。「子夏、云、何？」

対（こたえる）、曰。「子夏、曰。『可、者（もの）、与（くみする）、之。其（その）、不可、者（もの）、拒、之（これ）』」

子張、曰。「異、乎、吾（われ）、所、聞。『君子、尊、賢、而、容、衆。嘉（ほめる）、善、而、矜（あわれむ）、不能』。我（われ）、之（の）、大、賢、与、於、人、何、所、不、容？ 我（われ）、之（の）、不、賢、与、人、将（しょうとする）、拒、我（われ）。如之何（これ、いかん）、其（それ）、拒、人、也？」

子夏の弟子が他人との交際方法について子張に質問した。

子張が言った。「子夏は何と言っていましたか？」

子夏の弟子が答えて言った。「子夏先生は言いました。『善い者には味方しなさい。善くない者、悪い者は拒絶しなさい』と」

子張が言った。「(子夏の言葉は、)私、子張が聞いている所の、次のような言葉と異なります。『王者は、賢者達を尊敬するが、多数の人達も容認する。善良な人達をほめるが、非才な人達も思いやる』という。自分が大いな

る賢者であれば、人々のうち、容認できない人々が、どうして、いるであろうか？　いいえ！（もし子夏の言葉通りであれば、）自分が賢者ではない愚者であれば、他人に拒絶されてしまう羽目に成ってしまう。そのため、どうして他人を拒絶できようか？　いいえ！」

子張第十九 第四章

子夏、曰。「雖、『小道』、必、有、可、観、者、焉。致、遠、恐、泥。是、以、君子、不、為、也」

子夏が言った。「『小道』、『人にとって優先度が小さい、技術』といえども、必ず、観察するべき物が有るはずである。しかし、『小道』、『人にとって優先度が小さい、技術』を深遠まで奥底まで極致まで到達しようとすると、恐らく、『大道』、『人が優先するべきである、大いなる真理、善行、善』における進歩が停滞してしまうだろう。このため、王者は、『小道』、『人にとって優先度が小さい、技術』の探究をしないのである」

子張第十九 第五章

子夏、曰。「日、知、其、所、亡。月、無、忘、其、所、能。可、謂、好、学、也、已、矣」

子夏が言った。「日々、知らない事を知っていく人。月々、よく知っている事を忘れないように記憶し直す人。このような人は『学を好んでいる人』と言えるばかりである」

子張第十九 第六章

子夏、曰。「博、学、而、篤、志。切、問、而、近、思。仁、在、其中(その)、矣」

子夏が言った。「広く学んで、(知る事を)厚く志す。切に思って質問して、(答えである知恵を)身近な事に適用、応用しようと思う。『仁』、『思いやり深く知的である事』は、これらの中に存在する」

子張第十九 第七章

子夏、曰。「百工、居、肆、以、成、其事。君子、学、以、致、其道」

子夏が言った。「諸々の職人は職場にいて自分の仕事を完成させる。王者は知恵を学んで自分の『道』、『真理』、『善』、『務め』を行う」

子張第十九 第八章

子夏、曰。「小人、之、過、也、必、文」

子夏が言った。「矮小な人は、過ちを犯すと、必ず、美化しようとする」

子張第十九 第九章

子夏、曰。「君子、有、三変。望、之（これ）、厳然。即（ちかづく）、之（これ）、也、温。聴、其（その）言、也、厲（きびしい）」

子夏が言った。「王者には、三段階の変化が有る。王者を遠くから望むと、慎重で威厳が有る。王者に近づくと、温厚である。王者の言葉を聴くと、厳しい」

子張第十九 第十章

子夏、曰。「君子、信、而、後、労、其(その)民。未、信、則(すなわち)、以、為(なす)、厲(しいたげる)、己、也。信、而、後、諫。未、信、則(すなわち)、以、為(なす)、謗(わるぐちをいう)、己、也」

子夏が言った。「王者は、信じてもらえた後で、自分より下位の国民を労役させる。未だ信じてもらえていなければ、労役させると、下位の国民は『あいつは、私達、国民を虐待している』と見なしてしまう。王者は、信じてもらえた後で、自分よりも上位の上司に忠告する。未だ信じてもらえていなければ、忠告すると、上位の上司は『あいつは、私、上司の悪口を言う』と見なしてしまう」

子張第十九 第十一章

子夏、曰。「大徳、不、踰（こえてしまう）、閑（きそく）、小徳、出入、可、也」

子夏が言った。「大いなる善行が法に違反していなければ、小さな善行が少し法に違反していてもよい」

子張第十九 第十二章

子游、曰。「子夏之門人、小子、当、『洒掃』、応対、進退、則(すなわち)、可、矣。抑(そもそも)、末、也。本(もととする)、之(これ)、則(すなわち)、無(ない)。如之何(これ、いかん)？」

子夏、聞、之(これ)、曰。「噫(ああっ)。言游(＝子游)、過(あやまちをおかす)、矣。君子之道、孰(どれを)、先、伝、焉？ 孰(どれを)、後、倦(きらう)、焉？ 譬、諸(これ)、草木、区、以、別、矣。君子之道、焉(どうして)、可、誣(きょぎをいう)、也？ 有、始、有、卒(おわり)、者(もの)、其(それ)、惟(ただ)、聖人、乎」

子游が言った。「子夏の弟子達のうち、若者達は、水掃除や掃き掃除、客への応対、『進退』、『振(ふ)る舞(ま)い』、『日常動作』に当たっては良い。しかし、本来、これらは些末な事なのである。これらを本(もと)としてしまう、大事としてしまうと、良くない。それについては、どうするのですか？」

子夏が、この子游の言葉を聞いて、言った。「ああっ。子游は誤った言葉を言ってしまっている。王者の『道』、『真理』では、どれを先に伝えるとするのか？ どれを後回しにして敬遠するのか？ これを例えるならば、草木に区別が有るような物なのである。王者の『道』、『真理』について、どうして虚偽を言っても良いであろうか？ いいえ！ 良くない！ 初心も有るし究極も有る者は聖人だけである」

子張第十九 第十三章

子夏、曰。「仕、而、優、則(すなわち)、学。学、而、優、則(すなわち)、仕」

子夏が言った。「役人として国家に仕えて、余力が有れば、真理、知恵を学ぶ。真理、知恵を学んで、余力が有れば、役人として国家に仕える」

子張第十九 第十四章

子游、曰。「喪、致、乎、哀、而、止」

子游が言った。「喪では、悲しむ。悲しむ以上の事をするのは止(や)める」

子張第十九 第十五章

子游、曰。「吾友、張(=子張)、也、為、難、能、也。然、而、未、仁」

子游が言った。「私、子游の友人である、子張は、良く行うのが難しい事を行える。しかし、未だ『仁』、『思いやり深く知的』ではない」

子張第十九 第十六章

曾子、曰。「堂堂、乎、張(＝子張)、也。難、与、並、為、仁、矣」

曾子先生は言った。「堂々としている、子張は。しかし、(子張と)共に並んで『仁』、『思いやり深く知的な行動』を行うのは難しい」

子張第十九 第十七章

曾子、曰。「吾、聞、諸、夫子。『人、未、有、自、致、者、也。必、也、親、喪、乎』」

曾子 先生は言った。「私、曾子は、このように孔子 先生から聞いた事が有る。『人で、(善行のために)自発的に全力を尽くす者は未だいない(と言える)。ただし、必ず、親の喪では、人は、自発的に全力を尽くす』と」

子張第十九 第十八章

曾子、曰。「吾、聞、諸、夫子。『孟荘子之孝、也、其他、可能、也。其、不、改、父之臣、与、父之政、是、難、能、也』」

曾子先生は言った。「私、曾子は、このように孔子先生から聞いた事が有る。『孟荘子の親孝行で、父の臣下と父の政策を改変しなかった事以外の、その他の事は、他人にも可能である。しかし、父の臣下と父の政策を改変しなかった事を、他人が行うのは困難なのである』と」

子張第十九 第十九章

孟氏、使(させる)、陽膚、為(なる)、「士師」。

問、於、曾子。

曾子、曰。「上、失、其(その)道、民、散、久、矣。如(もし)、得、其(その)情、則(すなわち)、哀、矜(あわれむ)。而、勿(なかれ)、喜」

孟氏が、陽膚を「士師」、「裁判官」に成らせた。

陽膚が裁判方法について曾子 先生に質問した。

曾子 先生は言った。「上位者達が道理を失くして非道なせいで、下位の国民達が貧困で一家離散するように成って久しい。もし、そのような下位の国民達のうち貧困のせいで犯罪を犯してしまった者達の悲惨な事情を知り得たならば、悲しみ、思いやりなさい。そして、喜ぶ事なかれ」

子張第十九 第二十章

子貢、曰。「紂之不善、不、如是(このように)、之(これ)、甚、也。是(これ)、以、君子、悪(ぞうおする)、居、下流。天下之悪、皆、帰、焉」

子貢が言った。「殷王朝の紂王の悪さは、あのように、(悪いが、)ひどくはなかった。このため、王者は、あえて下位に居る事を憎悪する。(天下の善行が全て善い最高権力者に帰属するからである。一方、殷王朝の紂王のように、悪い最高権力者には、)天下の悪行が全て帰属してしまうからである」

子張第十九 第二十一章

子貢、曰。「君子、之、過、也、如、日月之食、焉。過、也、人、皆、見、之。更、也、人、皆、仰、之」

子貢が言った。「王者が過ちを犯すのは、日食や月食のような物なのである。王者が過ちを犯すと、全ての人々が、それを見る結果に成る。王者が過ちを改めると、全ての人々が、それを尊敬して見る事に成る」

子張第十九 第二十二章

衛、公孫朝、問、於、子貢、曰。「仲尼(=孔子)、焉、学?」

子貢、曰。「文武之道、未、墜、於、地、在、人。賢者、識、其、大、者。不、賢、者、識、其、小、者。莫、不、有、文武之道、焉。夫子、焉、不、学? 而、亦、何、常師、之、有?」

衛という国の公孫朝という人が子貢に質問して言った。「孔子は、どのように、知恵を学んだのか?」

子貢が言った。「文武の道は、未だ地に墜ちていなくて、人々の頭の中に在ります。賢者は、そのうち、大いなる知恵を理解しています。賢者ではない者達も、そのうち、優先度が小さい知識を知っています。文武の道が無い訳ではないのです。孔子先生が、どうして、学ばずに、知恵を持っているでしょうか? いいえ! 孔子先生も学んだのです! しかし、また、どうして、孔子先生に常に固定の教師がいたでしょうか? いいえ! 常に固定の教師など、いない!」

子張第十九 第二十三章

叔孫武叔、語、大夫、於、「朝」、曰。「子貢、賢、於、仲尼(＝孔子)」

子服景伯、以、告、子貢。

子貢、曰。「譬、之、宮、牆、賜(＝子貢)之牆、也、及、肩。闚、見、室家之好。夫子(＝孔子)之牆、数仞。不、得、其門、而、入、不、見、『宗廟』之美、百官之富。得、其門、者、或、寡、矣。夫子(＝叔孫武叔)、之、云、不、亦、宜、乎」(一仞は七、八尺。一尺は約三十センチメートル。)

叔孫武叔が朝廷で役人達に言った。「子貢は、孔子よりも、賢い」

子服景伯が、その事を、子貢に告げて知らせた。

子貢が言った。「賢さを宮殿の『牆』、『壁』に例えると、子貢の壁は肩に及ぶくらいの高さしか無くて、宮殿の好ましさが見えます。孔子先生の壁は(四メートル以上の)数仞もの高さで、入門でき得なければ、入門して『宗廟』、『天子や諸侯の先祖の霊廟』の美しさや、諸々の役人の財産を見る事ができません。入門でき得た者は、あるいは、少ないでしょう。叔孫武叔が、そう言ってしまったのは、良くないですね」

子張第十九 第二十四章

叔孫武叔、毀、仲尼(＝孔子)。

子貢、曰。「無、以、為、也。仲尼(＝孔子)、不可、毀、也。他人之賢者、丘陵、也。猶、可、踰、也。仲尼(＝孔子)、日、月、也。無、得、而、踰、焉。人、雖、欲、自、絶、其、何、傷、於、日、月、乎？　多、見、其、不、知、量、也」

叔孫武叔が孔子 先生の悪口を言った。

子貢が言った。「孔子 先生の悪口を言うなかれ。(孔子 先生は悪い所が、ほとんど無いので、)孔子 先生の悪口を言うのは不可能なのである。他の賢者は、丘陵のようなものなのである。超越するのは可能である。孔子 先生は、太陽や月のようなものなのである。超越する事はでき得ない。人が自ら絶滅させたいと欲しても、どうして太陽や月を傷つける事が可能であろうか？　いいえ！　不可能である！　孔子 先生の知恵の量を知らない事を大いに現してしまうだけである」

子張第十九 第二十五章

陳子禽、謂、子貢、曰。「子、為、恭、也、仲尼(＝孔子)、豈、賢、於、子、乎?」

子貢、曰。「君子、一言、以、為、知。一言、以、為、不、知。言、不、可、不、慎、也。夫子(＝孔子)、之、不可、及、也、猶、天、之、不可、階、而、升、也。夫子(＝孔子)、之、得、邦家、者、所謂、『立、之、斯、立。道、之、斯、行。綏、之、斯、来。動、之、斯、和。其生、也、栄。其死、也、哀』。如之何、其、可、及、也?」

陳子禽が子貢に言った。「あなた、子貢は恭しく謙遜されますが、孔子が、どうして、あなた、子貢よりも賢いでしょうか? いいえ!」

子貢が言った。「王者は、一言からでも『知者である』と見なしたり、一言からでも『知者ではない愚者である』と見なしたりします。発言は慎重であるべきです。孔子 先生には及ばないのは、天には、はしごを掛けて昇る事が不可能であるような物なのです。孔子 先生が国家の指導者の地位を得れば、いわゆる、『(国民の学を)確立しようとすれば、ここに確立できる。(国民を善行へ)導こうとすれば、ここに(善行が)行われる。(自国民に)安らぎをもたらせば、ここに他国の国民まで来させる。(国民を)動かして奮い立たせれば、ここに和合させる。その人が生存中であれば、国が栄える。その人が死ねば、

全ての国民に悲しんでもらえる』。このため、どうして、私、子貢は、孔子先生に及ぶ事が可能であろうか？　いいえ！　私、子貢は孔子先生に及ばない！」

堯曰第二十

堯曰第二十第一章

堯、曰。「咨（ああっ）。爾（なんじ）、舜。天之暦数（巡り合わせ 運命）、在、爾（なんじ）、躬（み）。允（ほんとうに）、執、其中（その中庸 節制）。
四海（天下）、困窮、天、禄（おんけい）、永、終」

舜、亦、以、命、禹。

曰。「予、小子、履（＝湯王）、敢、用、玄（くろい）、牡、敢、昭（あきらかに）、告、于、『皇皇』、『后帝（天の神）』。有、罪、不、敢、赦。帝（天の神）、臣、不、蔽。簡（えらぶ）、在、帝（天の神）、心。朕、躬（み）、有、罪、無（ない）、以、万方。万方、有、罪、罪、在、朕、躬（み）」

「周、有、大、賚（たまもの）。善人、是（これ）、富。雖（いえども）、有、『周親（とても親しい人達）』、不如（しかず）、仁、人。百姓、有、過（あやまち）、在、予、一人」

謹、「権量（秤と升 度量衡）」、審、「法度」、修、廃、官、四方之政、行、焉。

興、滅国、継、絶世、挙、逸民（隠者）、天下之民、帰、心、焉。

所、重、民、食、喪、祭。

「寛、則、得、衆。信、則、民、任、焉。敏、則、有、功」（※陽貨第十七第六章と、ほぼ一致している。）

「公、則、説」

堯は舜に言った。「ああっ。あなた、舜よ。天の神による、巡り合わせ、運命は、あなた自身に在る。本当に『中庸』、『極端に走らない事』、『節制』を執り行いなさい。『四海』、『天下』の国民を困窮させてしまったら、天の神からの恩恵は長く終わってしまうであろう」

舜もまた、堯と同じ言葉による命令を、禹に言った。

殷王朝の湯王は天の神に誓って言った。「私、湯王は、あえて黒い牡牛の捧げ物を用いて、あえて明らかに『皇皇』と大いなる天の神に告げます。（大きな）罪が有った最高権力者どもをあえて許しませんでした。『天の神の家臣である』と言える者である賢者を上位に挙げる事を遮蔽しません。そして、賢者を選ぶのは天の神の御心次第なのです。私自身、湯王自身に罪が有っても、諸方の国民には罪が無いのです。諸方の国民に罪が有っても、罪は私、湯王に有る事に成るのです（。貧困のせいで国民に罪を犯させてしまったら、権力者に罪が有ります）」

周王朝の武王が天の神に誓って言った。「周には、天の神からの大いなる恩恵が有ります。それは、善人が豊富に存在する事です。とても親しい人達

がいても、思いやり深い知者達には及ばないのです。諸々の国民達に過ち(あやま)が有っても、過ち(あやま)は私、武王、一人に在ります(。貧困のせいで国民に罪を犯させてしまったら、権力者に罪が有ります)」

武王は、秤(はかり)と升(ます)といった度量衡の規格を慎重に統一し、法律と制度を詳細に明確にし、廃止された役職を修復し、四方の天下で善政を行った。

また、武王が、滅亡した国を復興し、断絶した家を復興して子孫に継(つ)がせ、隠者に成っていた賢者を上位に挙げたので、天下の国民は心から武王に帰順した。

武王が重要視した物事は、国民、食糧、葬儀、祭儀であった。

孔子 先生は言った。「寛大であれば、多数の人々を得る事ができます。誠実であれば、他人から任せてもらえるように成るでしょう。機敏に対応すれば、功績を残せるでしょう」

(多分、また、孔子 先生は言った。)「公平で公明正大であれば、他人から喜ばれる」

堯曰第二十第二章

子張、問、於、孔子、曰。「何如（いかん）、斯（これ）、可、以、従（じゅうじする）、政、矣？」

子、曰。「尊、五美、屏（しりぞける）、四悪。斯（ここに）、可、以、従（じゅうじする）、政、矣」

子張、曰。「何、謂、『五美』？」

子、曰。「君子、恵、而、不、費。労、而、不、怨。欲、而、不、貪。泰、而、不、驕。威、而、不、猛」

子張、曰。「何、謂、『恵、而、不、費』？」

子、曰。「因（よる）、民、之（の）、所、利、而、利、之（これ）。斯（これ）、不、亦、『恵、而、不、費』、乎？ 択、可、労、而、労、之（これ）。又、誰、怨？ 欲、仁、而、得、仁。又、焉（どうして）、貪？ 君子、無（ない）、衆寡（すくない）。無（ない）、小大。無（ない）、敢、慢。斯（これ）、不、亦、『泰、而、不、驕』、乎？ 君子、正、其（その）、衣冠。尊、其（その）、『瞻視（めつき）』。厳然。人、望、而、畏、之（これ）。斯（これ）、不、亦、『威、而、不、猛』、乎？」

子張、曰。「何、謂、『四悪』？」

子、曰。「不、教、而、殺。謂、之（これ）、虐。不、戒、視、成。謂、之（これ）、暴。慢、令、致、期。謂、之（これ）、賊。猶、之（これ）、与（あたえる）、人、也、出納之吝（ものおしみ）。謂、之（これ）、有司」

子張が孔子 先生に質問して言った。「どのように政治を行えば良いのでしょうか？」

孔子 先生は言った。「五つの美徳を尊重して、四つの悪徳を退けて、政治を行えば良い」

子張が言った。「どのような事を五つの美徳と言っているのですか？」

孔子 先生は言った。「王者は、恩恵をもたらして浪費しない。労苦させるが怨（うら）まれない。欲するが貪（むさぼ）らない。安らかに落ち着いていて傲慢ではない。慎重で威厳が有るが、荒々しくない」

子張が言った。「どのような事を『恩恵をもたらして浪費しない』など、言っているのですか？」

孔子 先生は言った。「国民にとって利益に成る物事をもたらす。これが『恩恵をもたらして浪費しない』事に成る！　労苦するべき労苦だけを選んで国民に労苦させる。このようであるのに、誰が怨（うら）むというのか？　いいえ！　『思いやり』を欲して『思いやり』を得る。このようであるのに、ど

人数の多い少ないに左右されないし、金銭や地位の優劣に左右されない。また、あえて傲慢ではない。このようであるのは、『安らかに落ち着いていて傲慢ではない』事ではないか？　はい！　王者は、自身の衣服と冠を正す。自身の目つきを尊くする。厳然と慎重で威厳が有る。このようであるのは、『慎重で威厳が有るが、荒々しくない』事ではないか？　はい！」

子張が言った。「どのような事を四つの悪徳と言っているのですか？」

孔子先生は言った。「教えてあげていないのに(相手が誤ったら相手を)殺す。この悪徳を虐待と言う。注意してあげていないのに完全な完成だけを視(て不完全であったり未完成であったりしたら怒)る。この悪徳を暴虐と言う。怠慢で命令、指示をしないで期限を限(って期限を超えたら怒)る。この悪徳を盗賊と言う。(必要な)金銭を出し惜しみする。この悪徳を『役人のように融通が利かない』と言う」

堯曰第二十 第三章

子、曰。「不、知、命、無（ない）、以、為（なる）、君子、也。不、知、礼、無（ない）、以、立、也。不、知、言、無（ない）、以、知、人、也」

孔子先生は言った。「神から人への使命を知らなければ、王者ではない。礼儀を知らなければ、学を確立できない。言葉による文字による知恵を知らなければ、人を知る事ができない」